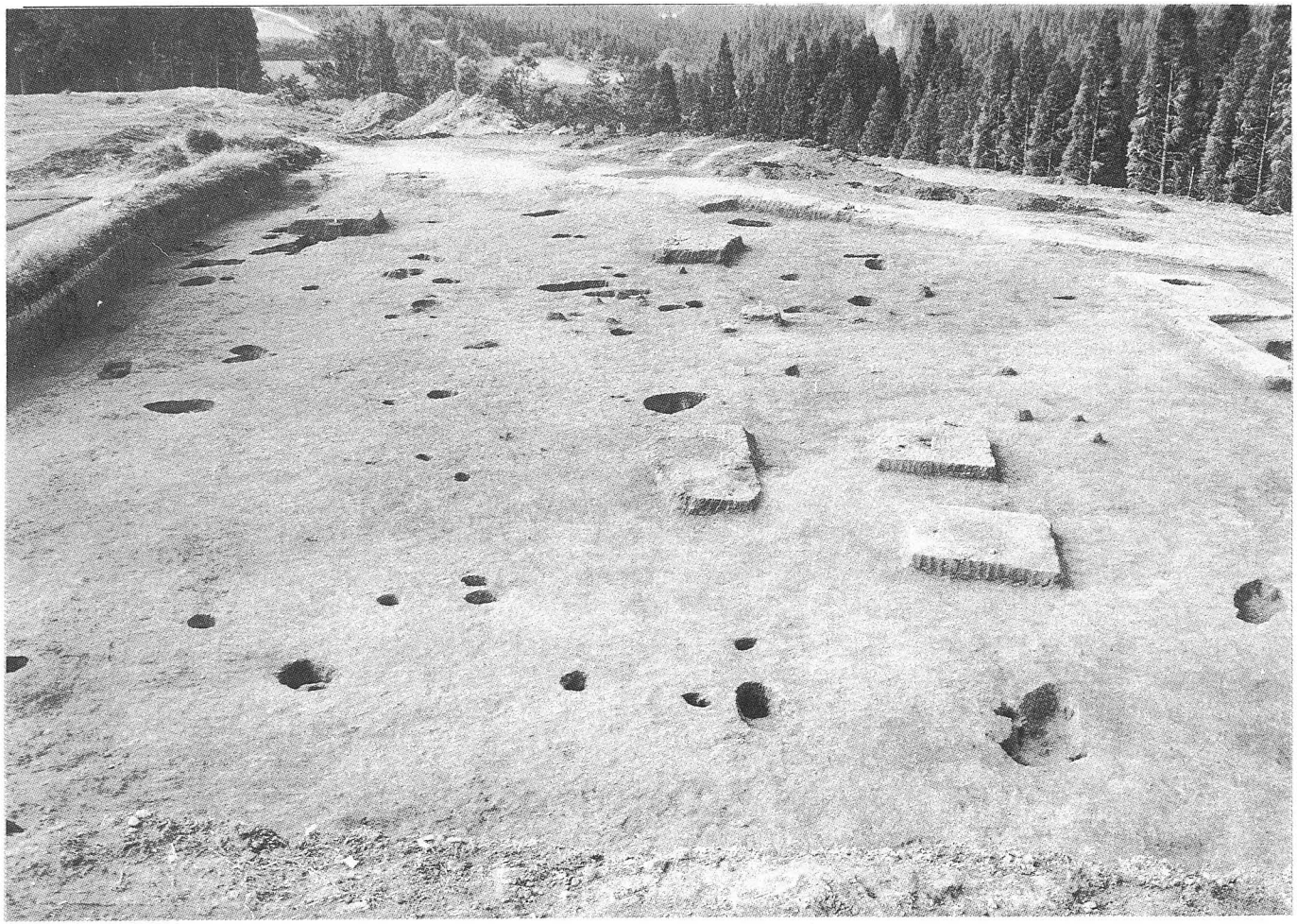
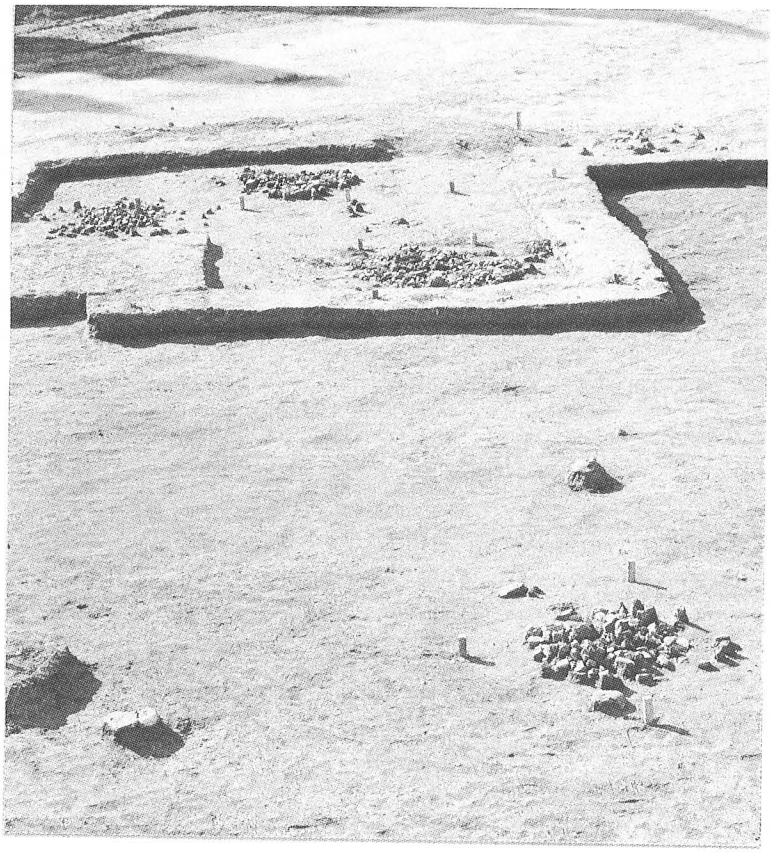
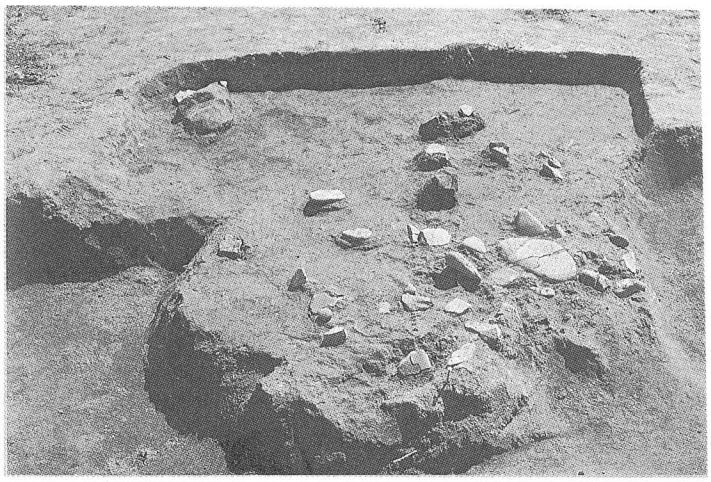


C区西側遺構検出状況（北から）

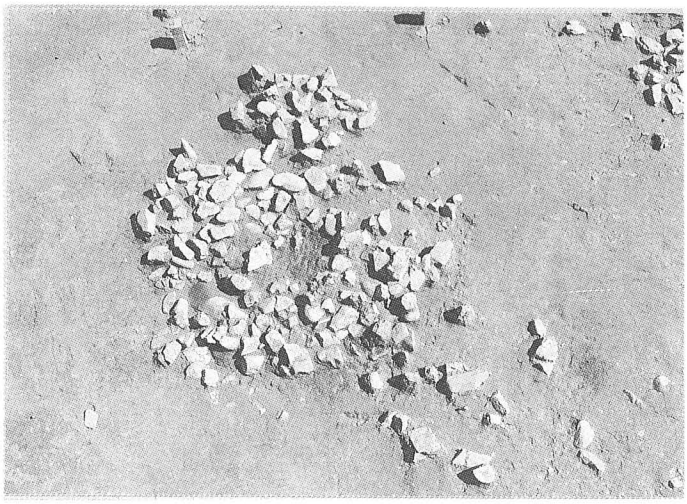


ＳＩ－０２・０３・０４・０５
検出状況（東から）

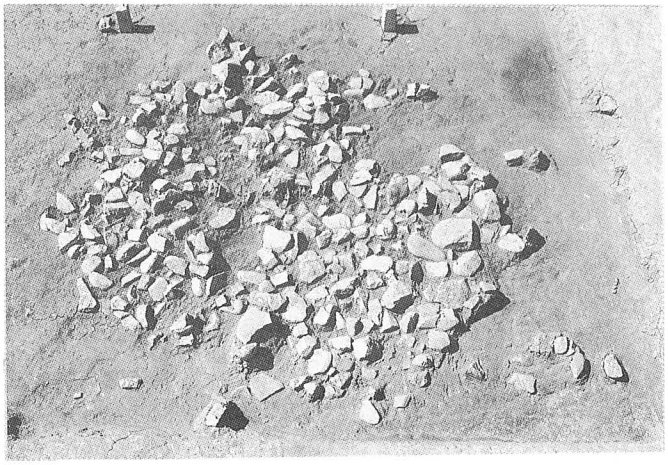


ＳＩ－０１

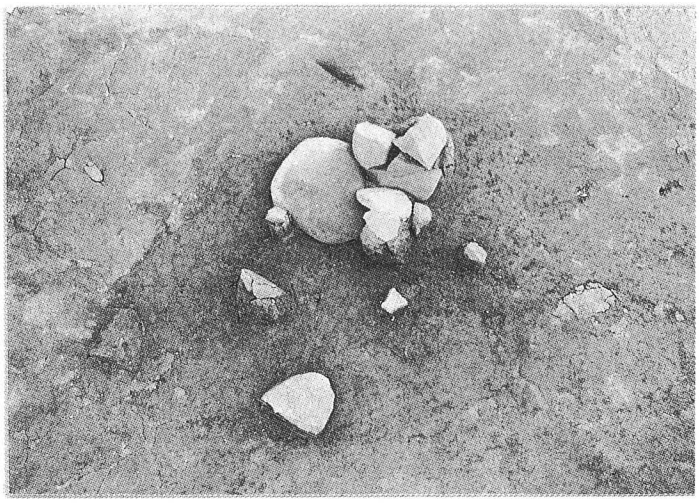
S I－0 2



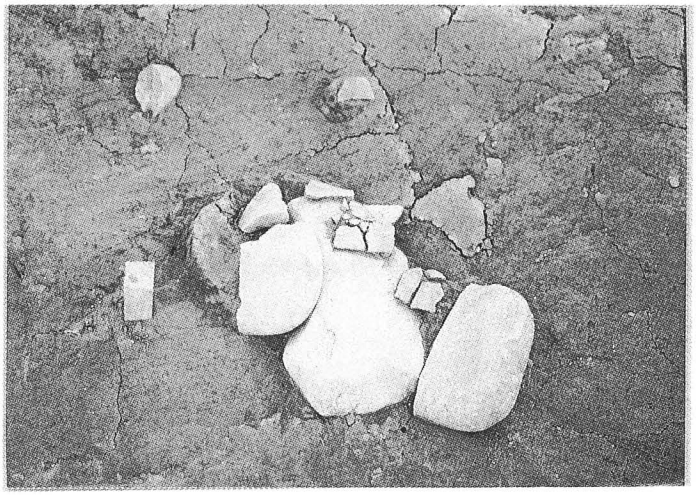
S I－0 3



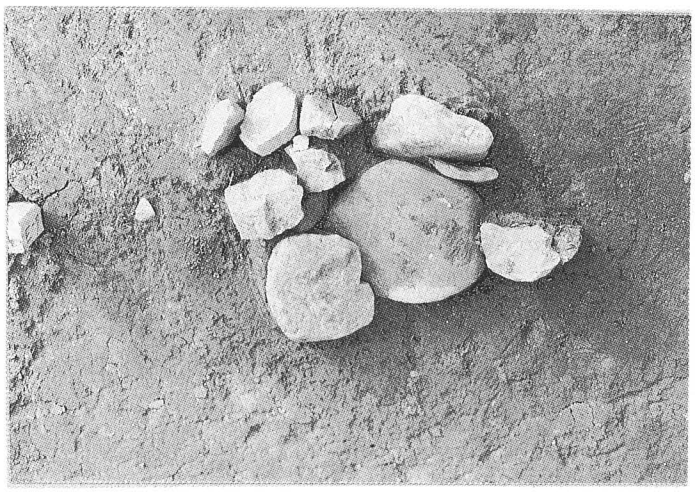
S I－0 4



SI－05

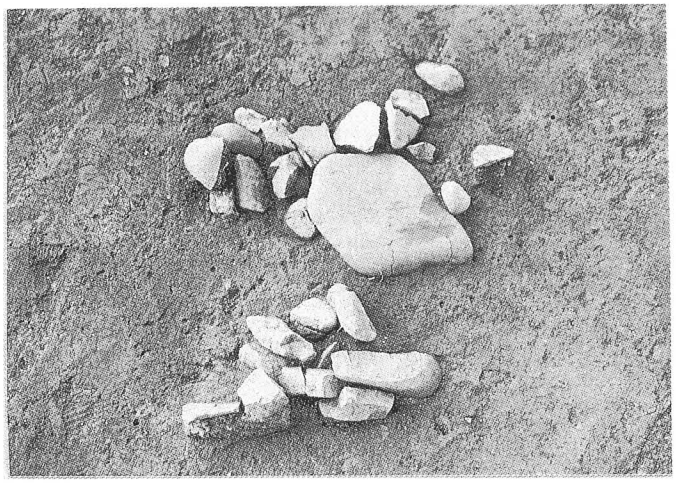


SI－06

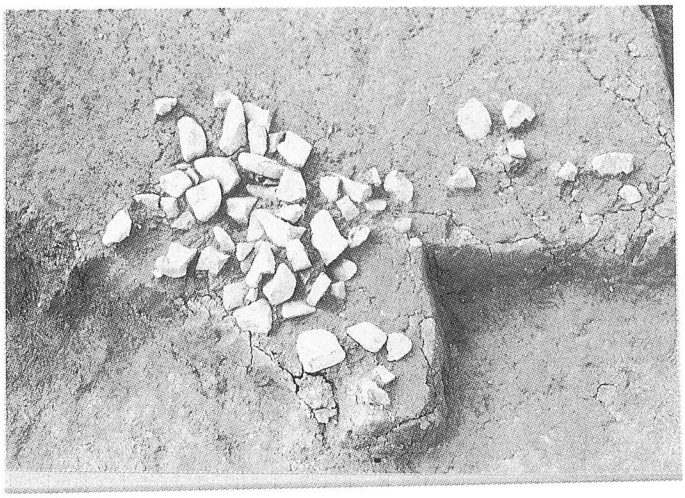


SI－07

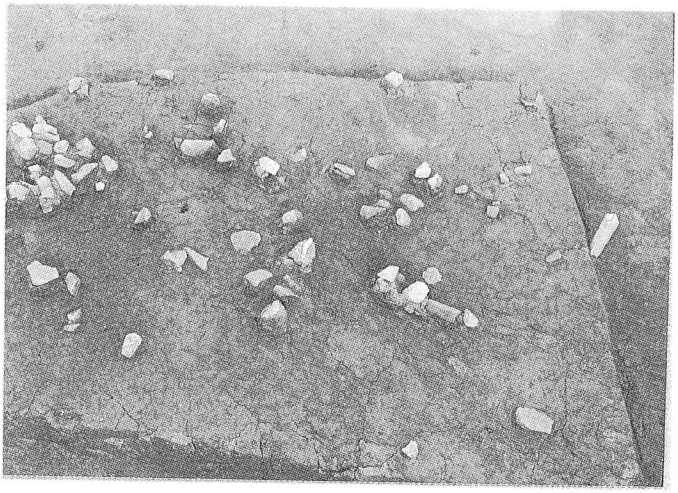
SI－08



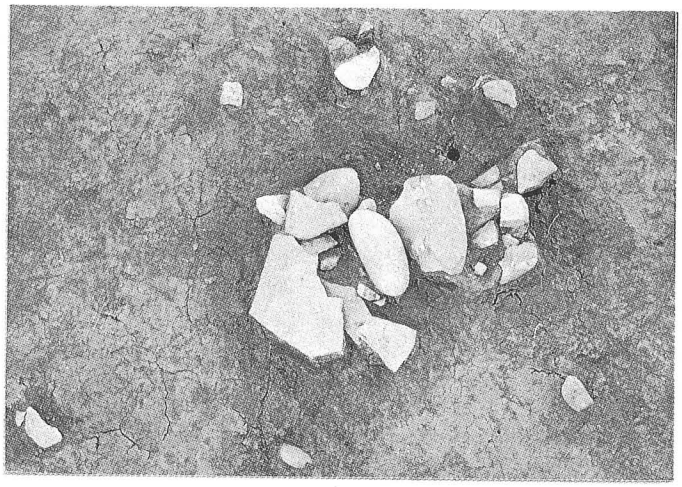
SI－09



SI－10

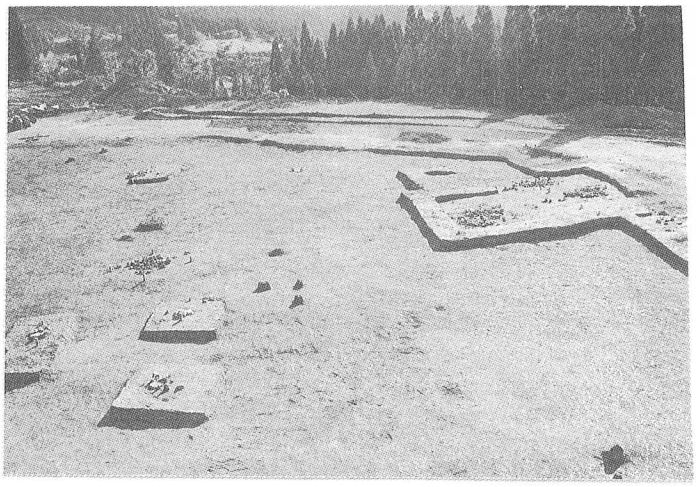


SI－11

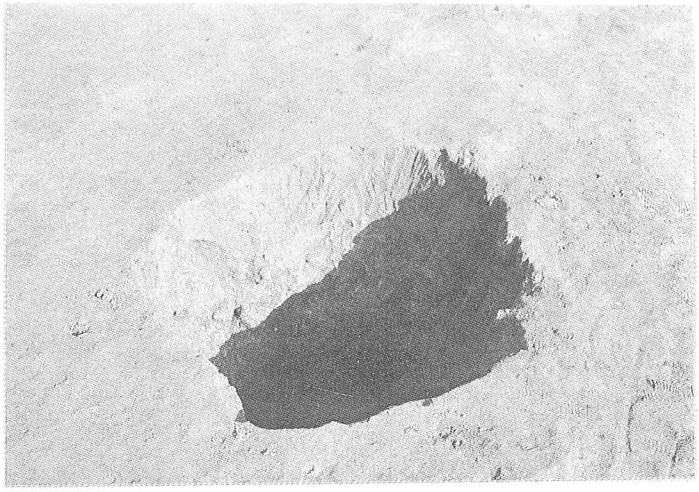


SI－12

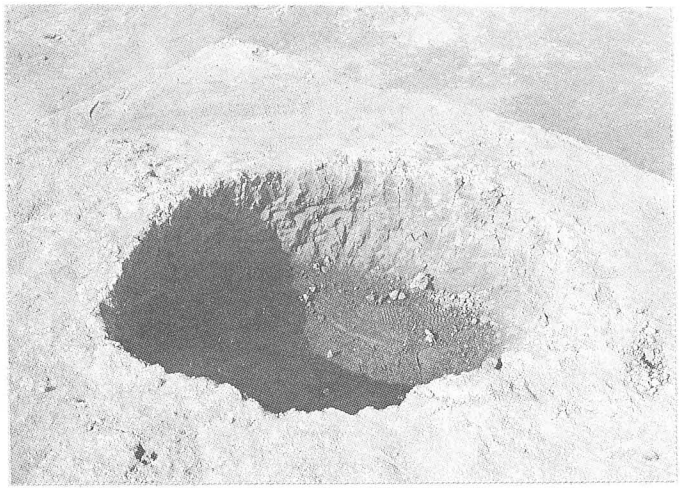
SI－13



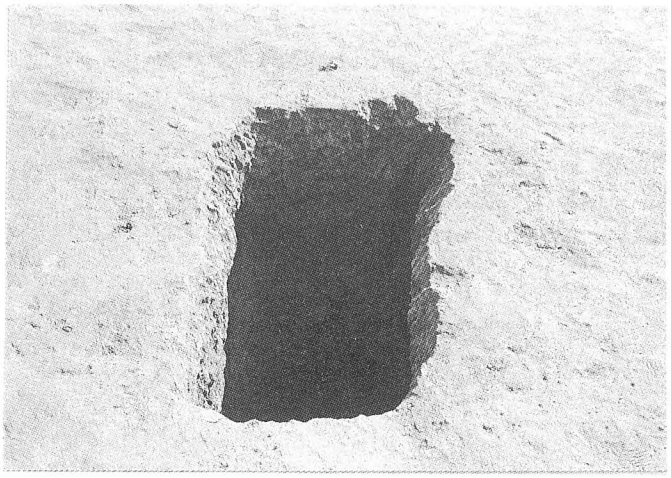
遺構検出状況（北から）



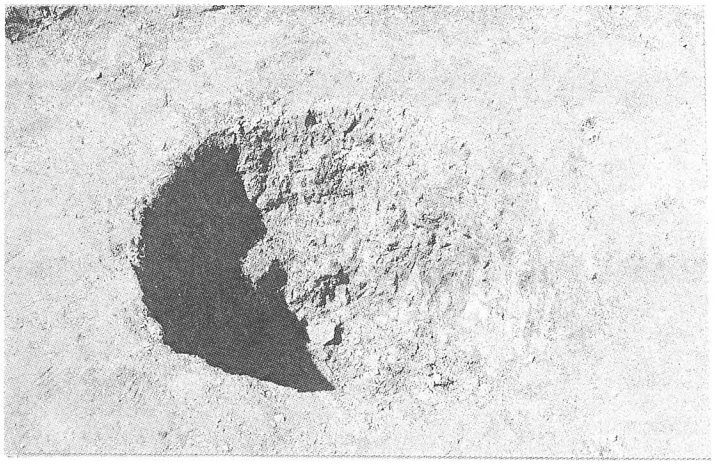
ＳＣ－１４



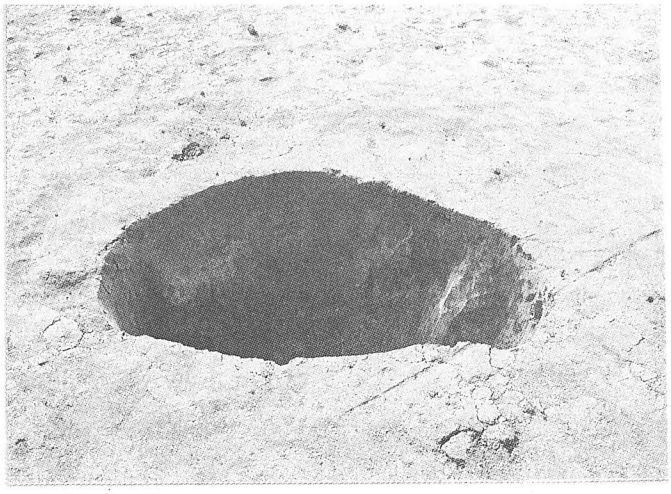
ＳＣ－１５



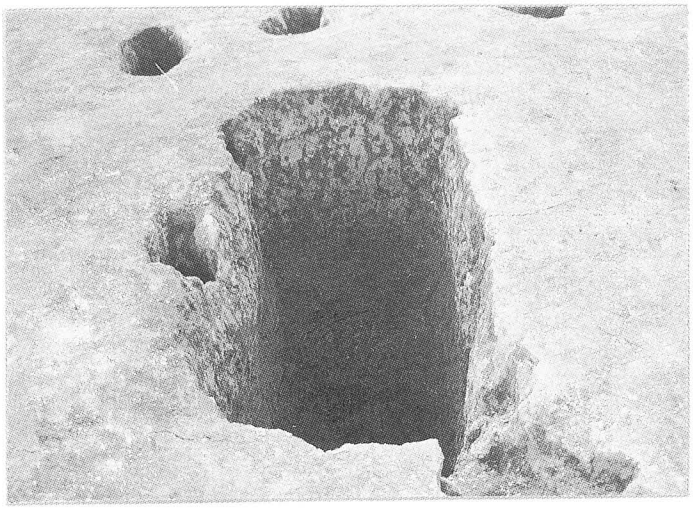
SC－16



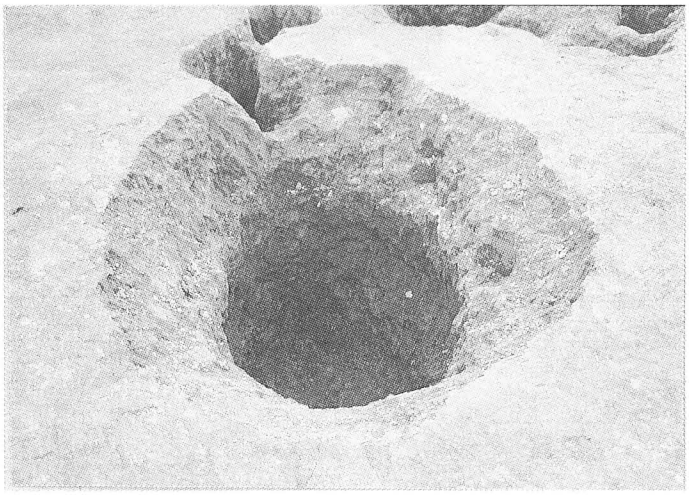
SC－17



SC－19

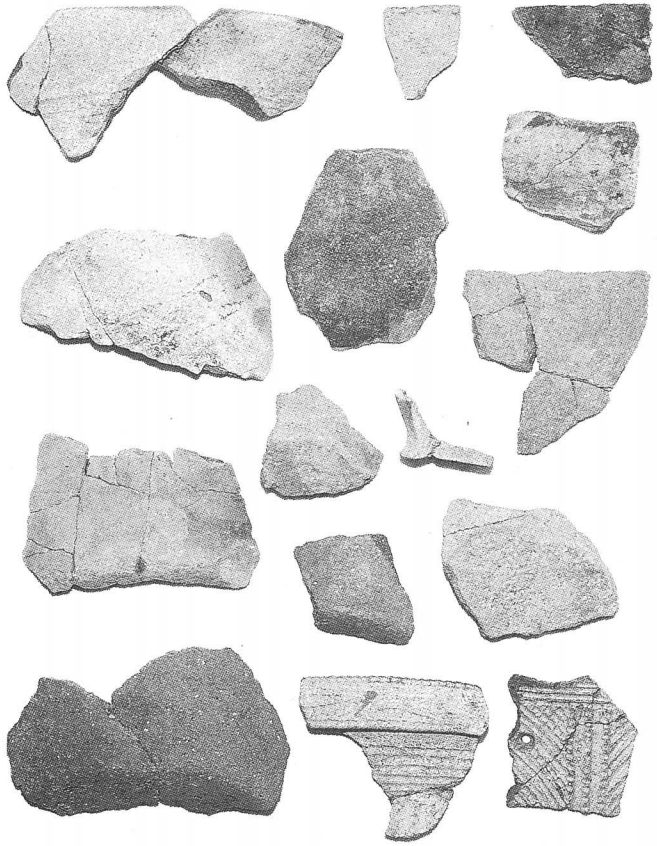


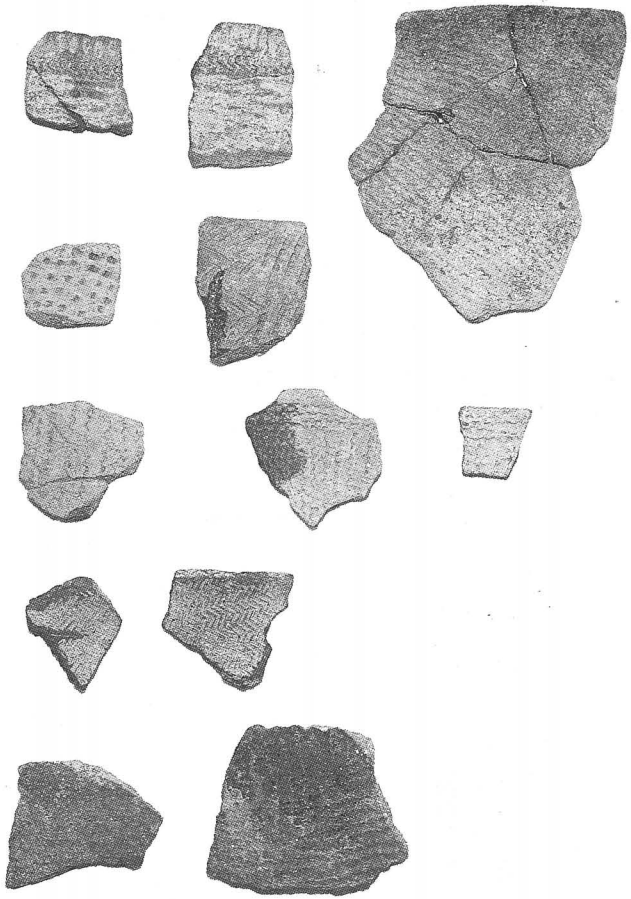
SC－20



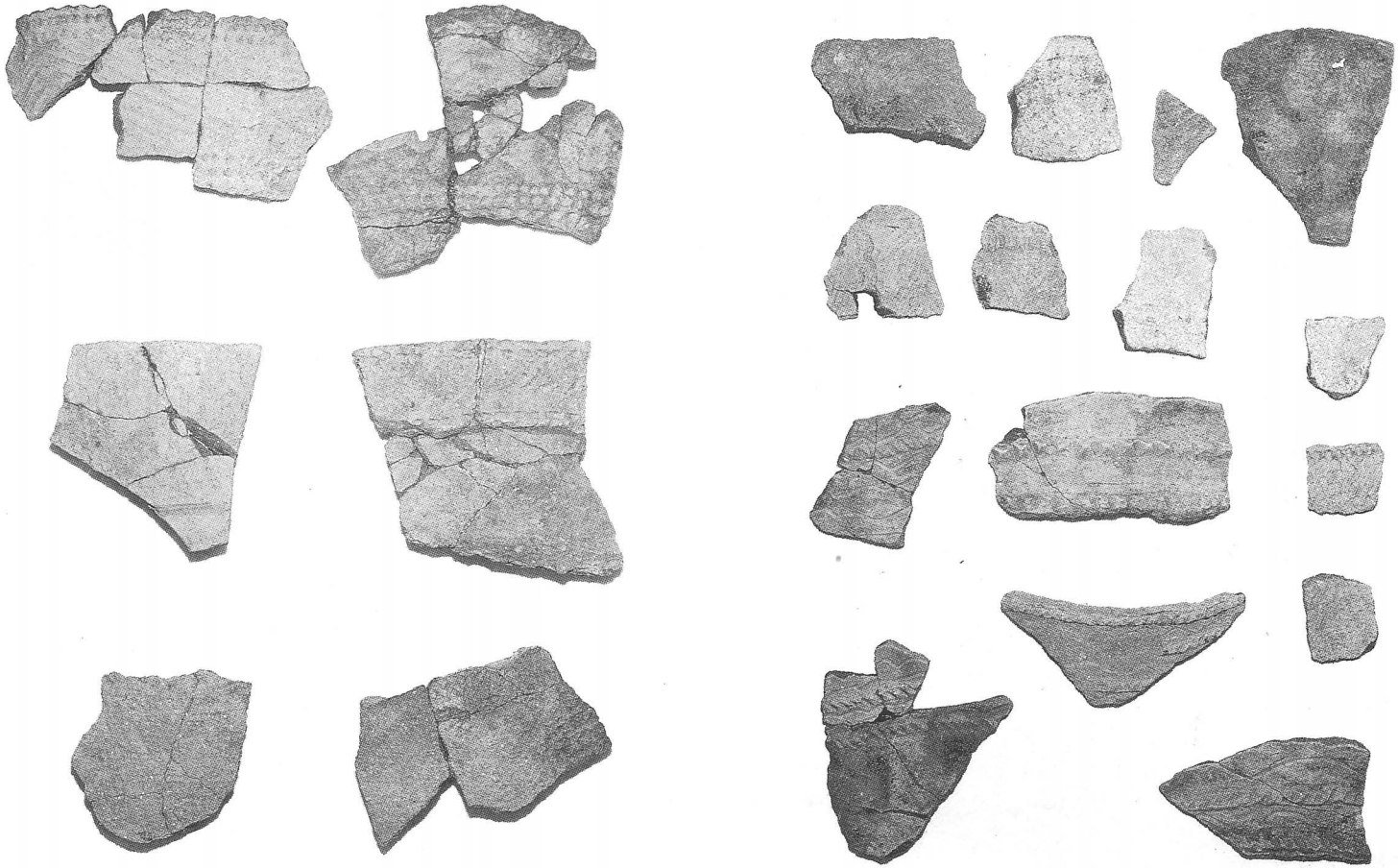
SC－21

SI－22

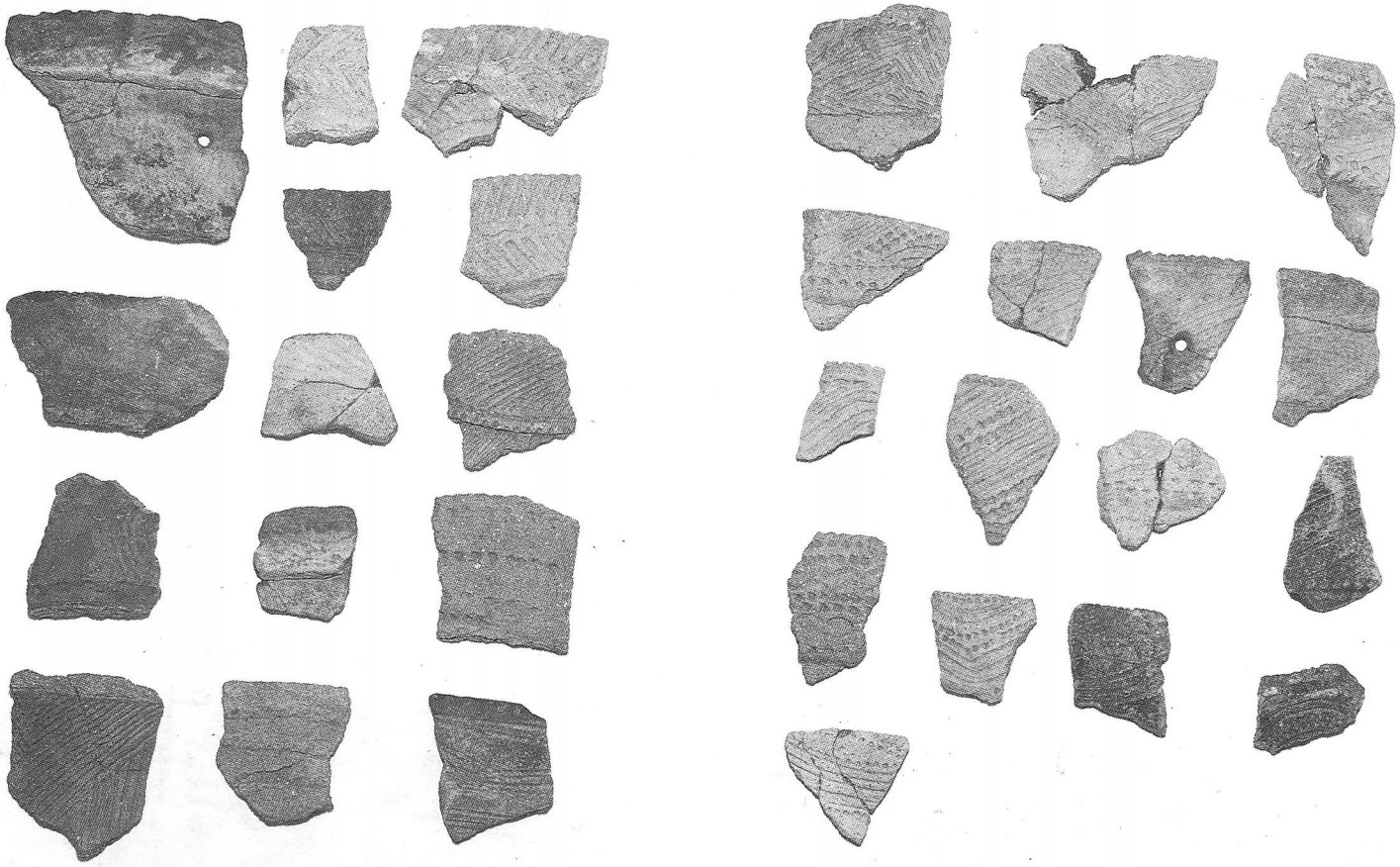




出土遺物（縄文土器）

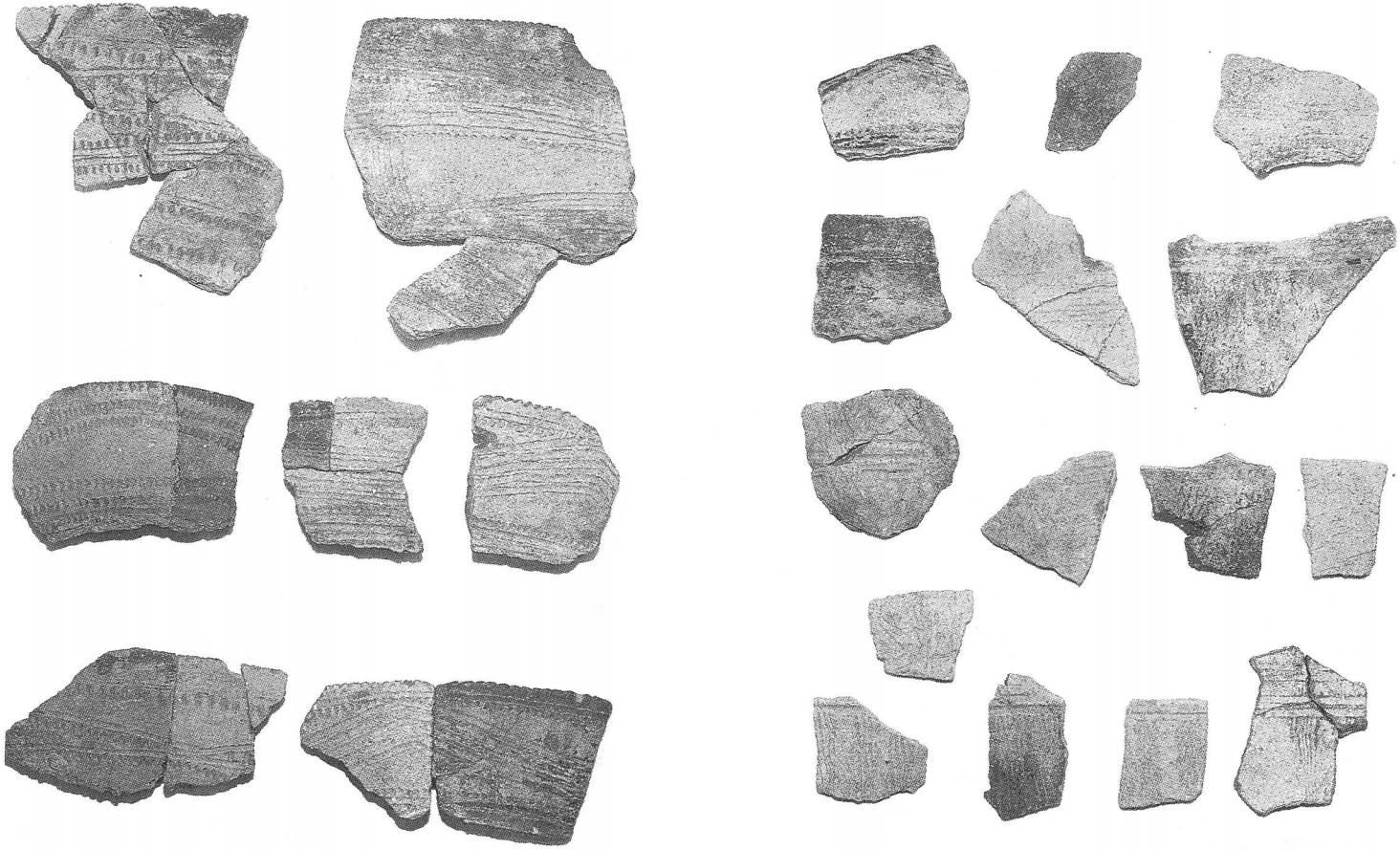


出土遺物（縄文土器）

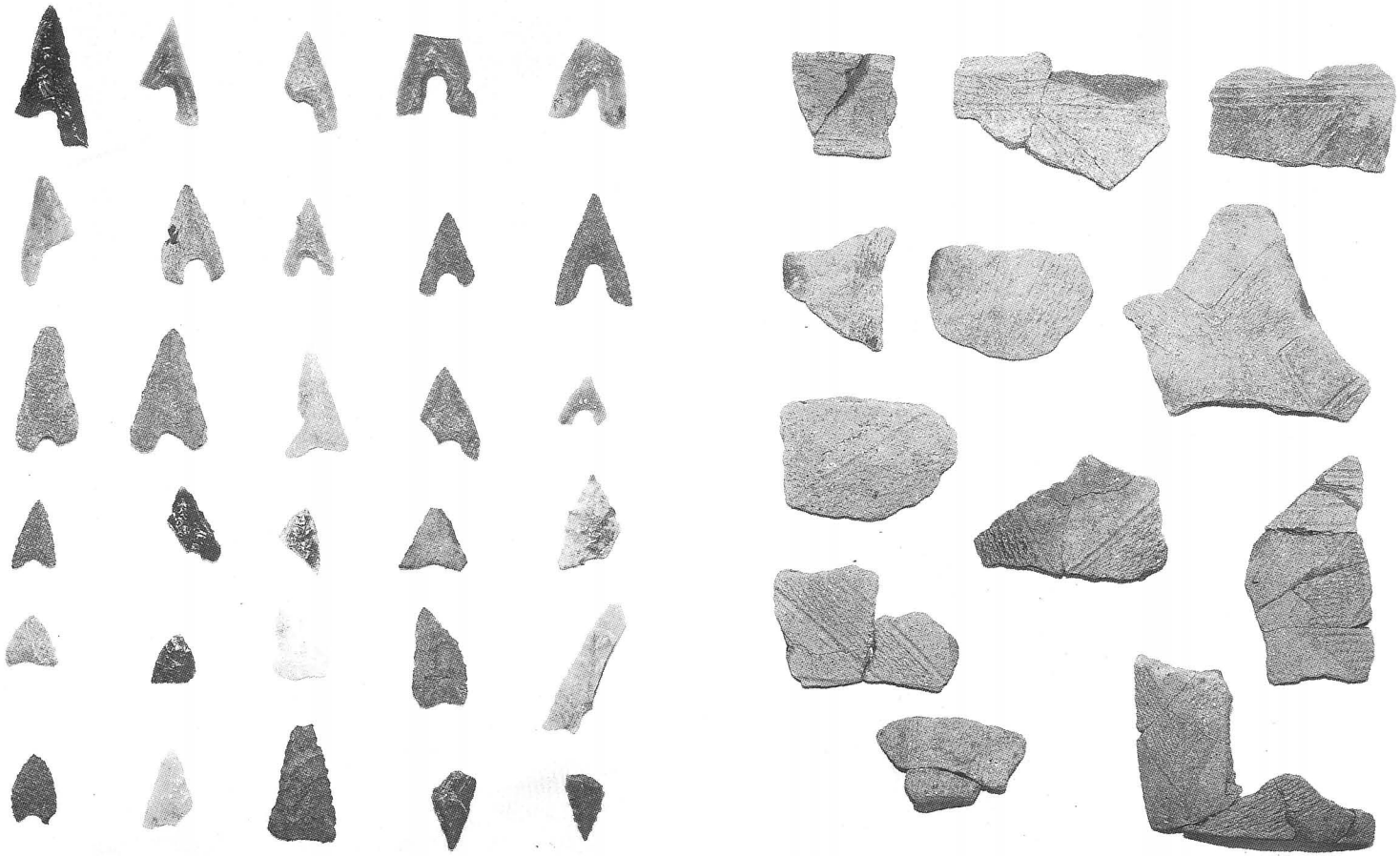


出土遺物（縄文土器）

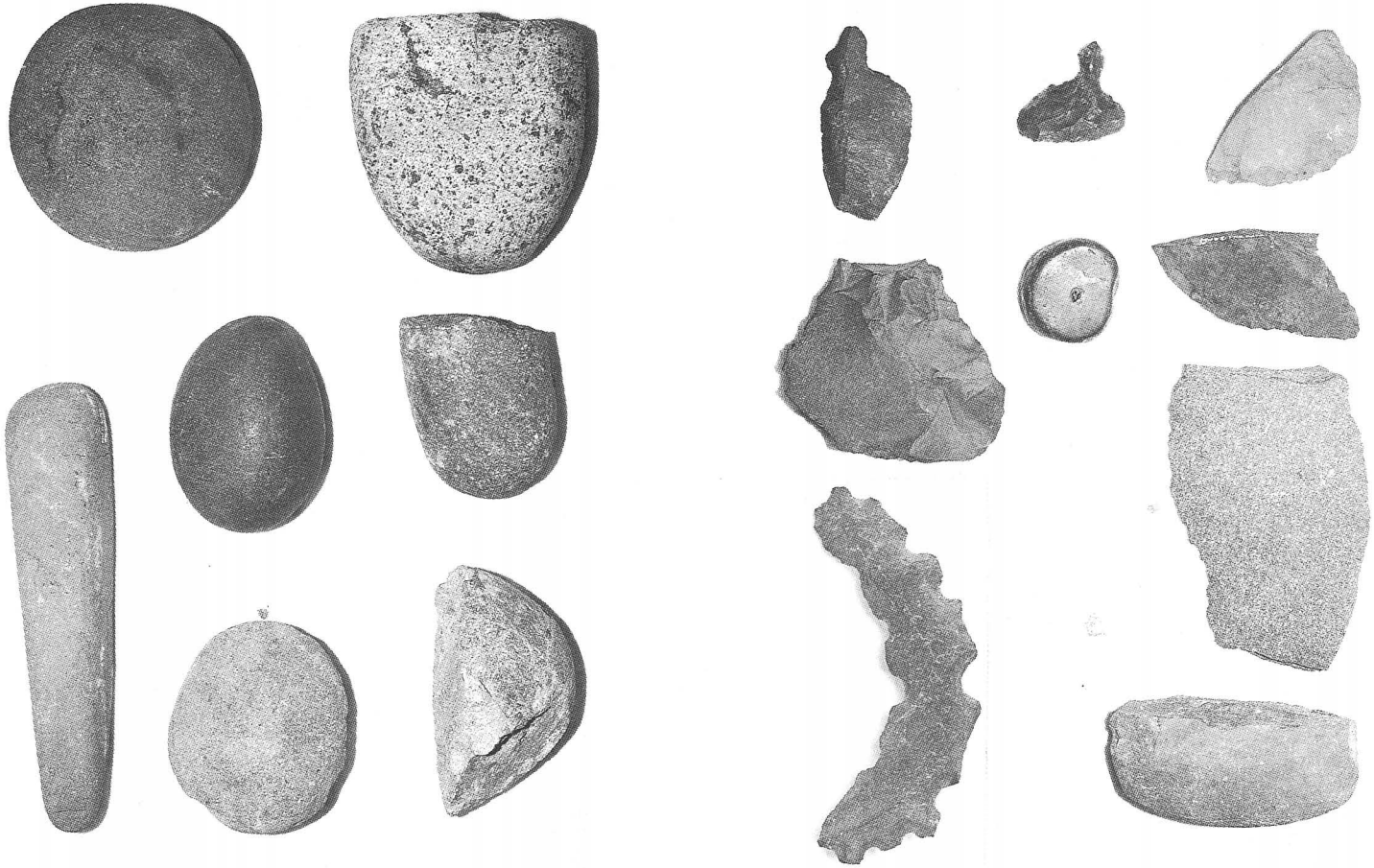
出土遺物（縄文土器）



出土遺物（縄文土器）



出土遺物（石器・縄文土器）



出土遺物（石器）

第Ⅳ章　　前畑第２遺跡

第１節　調査の概要

調査は、平成２年８月１日から同年12月11日まで行われた。調査地の旧地目はＡ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区の一部が畑で、Ｄ区の残りの部分が山林であった。調査区の位置する台地は南九州特有のシラス台地である。このため、調査期間中に３回の台風に見回れたためＣ区の南西部分が多量の地下水のために陥没、流失してしまった。

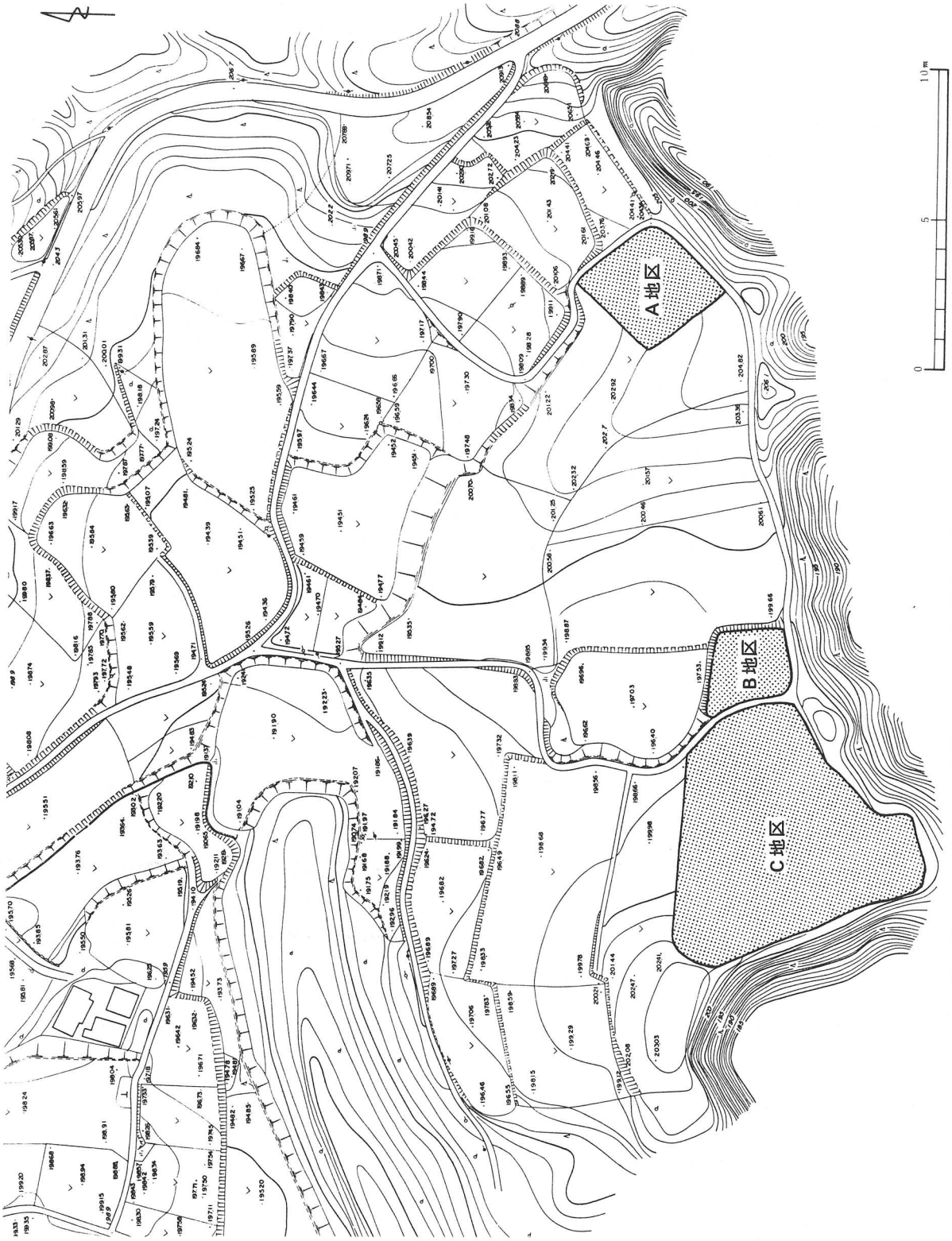
調査は県営ほ場整備事業にともない行われたもので、ほ場整備事業の工事に合わせて削平されるところに調査区を設定した。その結果、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの４区が設定された。このうちＡ区だけが外の３区と約100メートル離れている。調査の結果いずれの調査区も縄文時代早期の遺構、遺物が検出された。また、Ｄ区においては、中世の溝が３条検出され、遺跡が中世においては山城として使用された可能性を示している。遺構は、Ａ区では、集石遺構３基、Ｂ区では集石遺構１基、土坑７基、Ｃ区では集石遺構３基、土坑８基、Ｄ地区では集石遺構５基、土坑２基、中世の溝３条が検出された。

遺物は縄文時代早期のものが中心で円筒土器や押型文土器、石鏃、石皿などが出土している。

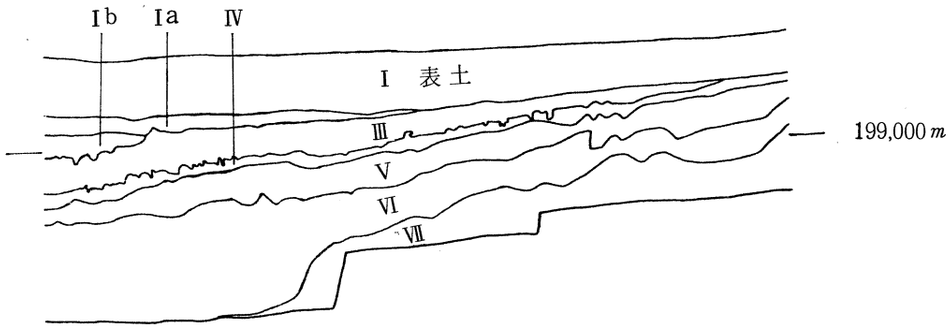
土層について

前畑第２遺跡の土層図は第21図に示したとおりである。基盤となる層は宮崎層群の岩盤であるが、その上に姶良カルデラから噴出したシラスが谷を埋める形で厚く堆積している。その上に遺物包含層の褐色ローム層があり、その上にアカホヤがのる。アカホヤの上は、柔らかな黒色土がのるが、ほとんどの箇所で耕作のために削平されている。地表面には現在の耕作土がどこの調査区にも見られた。

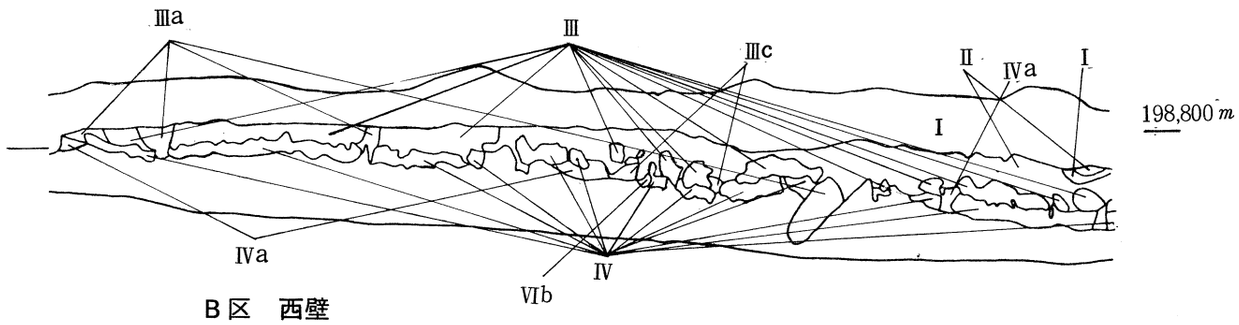
岩盤の上にあるシラスのため、遺跡周辺ではシラスの中を地下水が流れており、地元の方が「水穴」と呼ぶ地下水の通路が地下に出来やすく、大雨が降ると一度に大量の地下水が「水穴」に流れ込んで穴を広げ、地面が陥没する事故がしばしば起こるそうである。また、大雨の直後ではなくても「水穴」に重機が落ち込む事故も起きている。このようにシラスと大雨による遺物の撹乱が本遺跡には見られるようである。



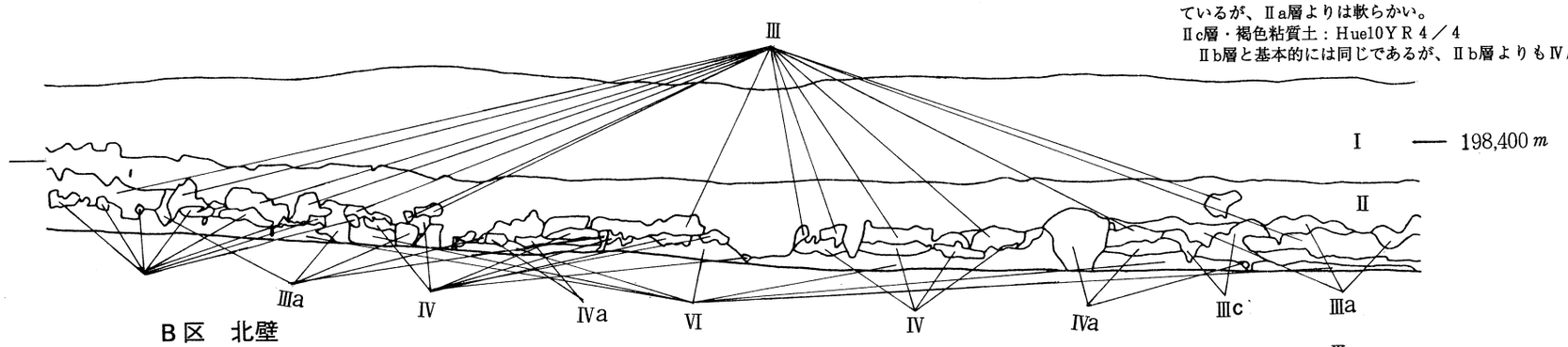
第20図　調査区周辺地形図



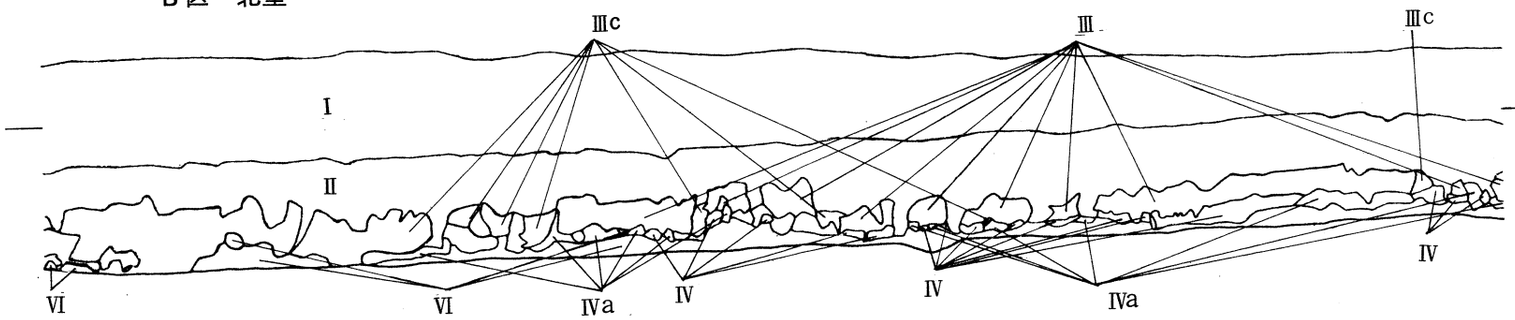
A 区

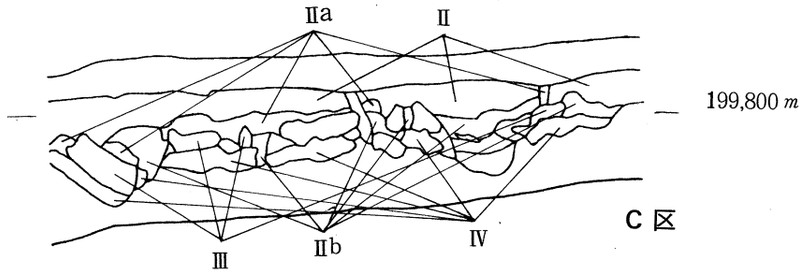


B 区　西壁



B 区　北壁





C 区

前畑第２遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ区土層注記

Ⅰ層・暗褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／３
　現在の耕作土であり、粘性の少ない軟らかな層である。下部にアカホヤの細かなブロックをやや少量含む。

Ⅰa層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ２／２
　現在の耕作土ではないが、この畑を造るときに削平され、のせられた層である。
　Ⅰ層よりもややしまっているが軟らかく、全体に疎らにアカホヤの細かなブロックを含む。アカホヤブロックはアカホヤとⅠ層・Ⅰa層が接しているところにしか含まれない、やや粒子が粗くザラザラした手触りのものである。

Ⅰb層・赤黒色軟質土：Hue2.5ＹＲ1.7／１
　旧耕作土であると考えられる。Ⅰb層南端に立ち上がりが見られることから現在の畑になる以前はアカホヤを少量削って段々畑を作っていたと考えられる。

Ⅱ層・明褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／６
　通常二次アカと呼ばれる二次堆積したアカホヤ層である。粘性は少なく軟らかい。

Ⅱa層・黄褐色粘質土：Hue10ＹＲ５／８
　基本的にはⅡ層のしまったものにⅢ層の小さなブロックを疎らに含む。硬さはやや硬く、粘性が強い。色調はⅡ層よりもやや暗い。

Ⅱb層・黄褐色粘質土：Hue10ＹＲ５／４
　Ⅱ層の中にⅢ層下部のパミスを全体的に含み、Ⅳ層の小さなブロック（３～５㎝）を少量含む。Ⅱ層よりもしまっているが、Ⅱa層よりは軟らかい。

Ⅱc層・褐色粘質土：Hue10ＹＲ４／４
　Ⅱb層と基本的には同じであるが、Ⅱb層よりもⅣ層のブロックを多く含む。

Ⅲ層・黄燈色軟質土：Hue10ＹＲ７／８
　アカホヤ層である。プライマリーな状態で固く締まって堆積している。下部に直径２～３㎜のパミスを多く含む。

Ⅲa層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／２
　Ⅱ層よりも暗く軟らかい。粘性も少ない。作物による根穴に入っている。

Ⅲb層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／６
　Ⅲa層よりも明るくアカホヤ層に含まれる。直径１～２㎜程度のパミスを全体に多く含む。下部にいくにしたがって硬くなる。やや粘性を帯びている。土壌の埋土と同一である。

Ⅲc層・褐色硬質土：Hue10ＹＲ４／４
　Ⅲ層の粒子を多く含むため色は明るくⅣ層よりも軟らかい。Ⅲ層底部のパミスを少量含む。

Ⅲd層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／４
　Ⅱ層にⅣ層の細かなブロック（１～２㎜）を少量とⅢ層のブロックを多量に含んでいる。

Ⅳ層・黒色硬質土：Hue10ＹＲ1.7／１
　カシワバン相当層である。上部にⅢ層の底部に多く入るパミスを多く含む。下部にいくにしたがって色調が明るくなり、やや軟らかくなる。

Ⅳa層・暗褐色硬質土：Hue10ＹＲ３／３
　Ⅳ層下部と色も硬さも粘性もほとんど同じであるが、Ⅲ層低部のパミスを全体的に含んでいる。

Ⅴ層・暗褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／３～Hue10ＹＲ３／４
　色はカシワバンよりも明るくやや軟らかくなるが、Ⅴ層同様１～２㎜のパミスを全体に含む。色調は上部がやや黒く、下部は明るくなるが所々雲状に暗色部がある。

Ⅵ層・褐色軟質土：暗色部Hue10ＹＲ４／４　明色部Hue10ＹＲ５／６
　軟らかくやや粘性が強い。Ⅴ層同様に暗色部と明色部があり、下部にいくにしたがって明色部が多くなっている。Ⅴ層よりも軟らかいが、パミスは含まない。この層の上部とⅤ層の下部が遺物包含層である。
　下部に小林軽石を含むロームのブロックをやや多く含む。

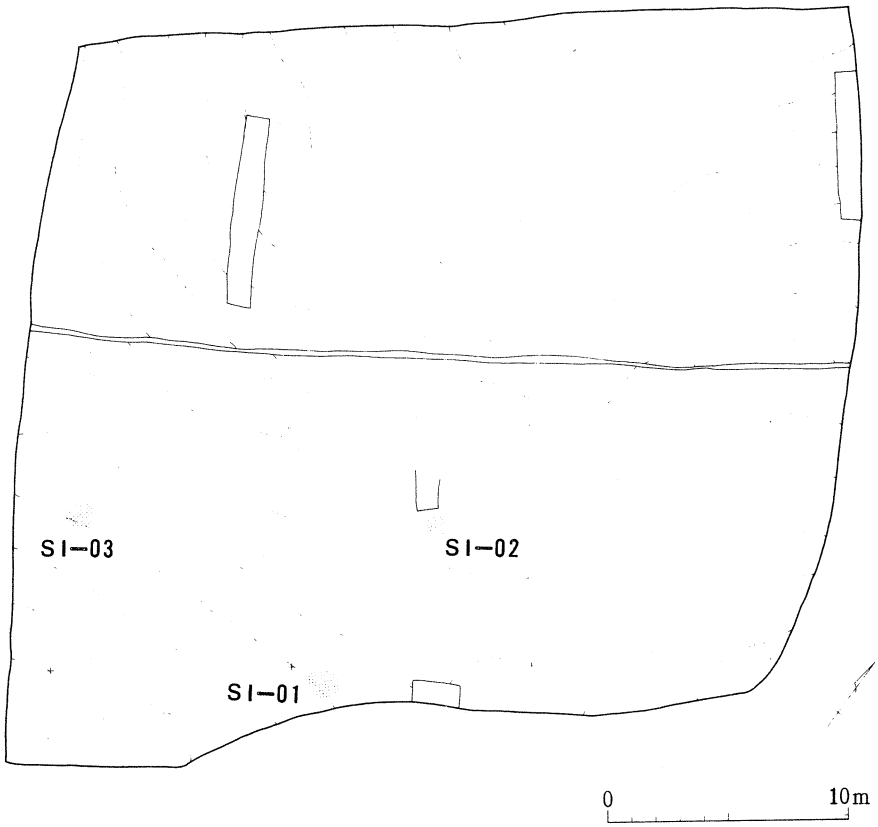
Ⅵa層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／６
　基本的にはⅥ層であるが、雲状の暗色部がなくⅢ層のパミスとⅣ層のブロックを少量含む。

Ⅵb層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／４
　Ⅵa層よりも色調は暗く、Ⅲ層のパミスとⅣ層のブロックを含まない。

Ⅶ層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／６
　いわゆるシラスである。水による作用により黄褐色に変色したものと考えられる。下部になるにしたがって色調が明るくなる。

0　1 m

第21図　前畑第３遺跡　Ａ区　Ｂ区　Ｃ区　土層断面実測図



第22図　A区遺構分布図

第2節　検出遺構

前畑第2遺跡では、集石遺構12基、土坑16基、溝3条が確認されている。これらの内集石遺構と土坑は縄文時代早期のものと考えられる。溝はその形態と埋土から中世のものと考えられる。

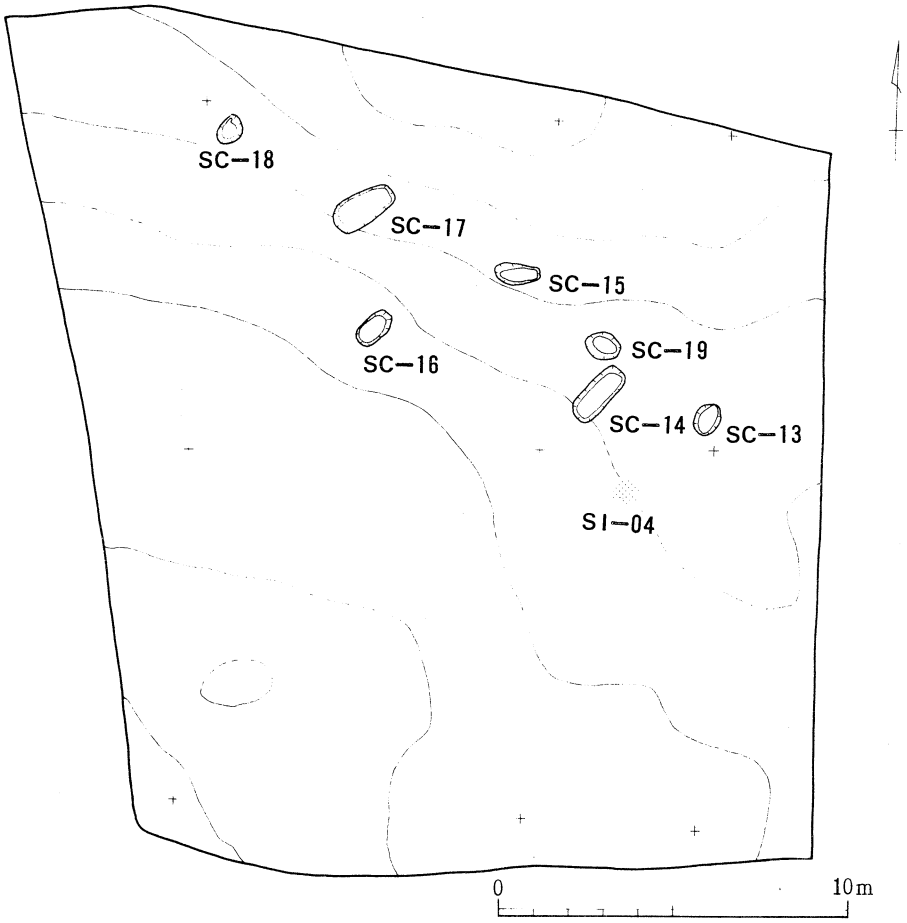
①集石遺構

A区で3基、B区で1基、C区で3基、D区で5基検出されている。D区からの検出が多いがどの調査区からも検出される、縄文時代早期の遺跡においては普遍的な遺構である。遺構はその形態からいくつかのタイプに分けられる。

Ⅰ−石が疎らで堀込みを持たないもの（SⅠ−01・10）

Ⅱa−石が密集していて堀込みを持つ大型のもの（SⅠ−08）

Ⅱb−石が密集していて堀込みを持つ小型のもの（SⅠ−02・03・05・06・07・10・11・



第23図　B区遺構分布図

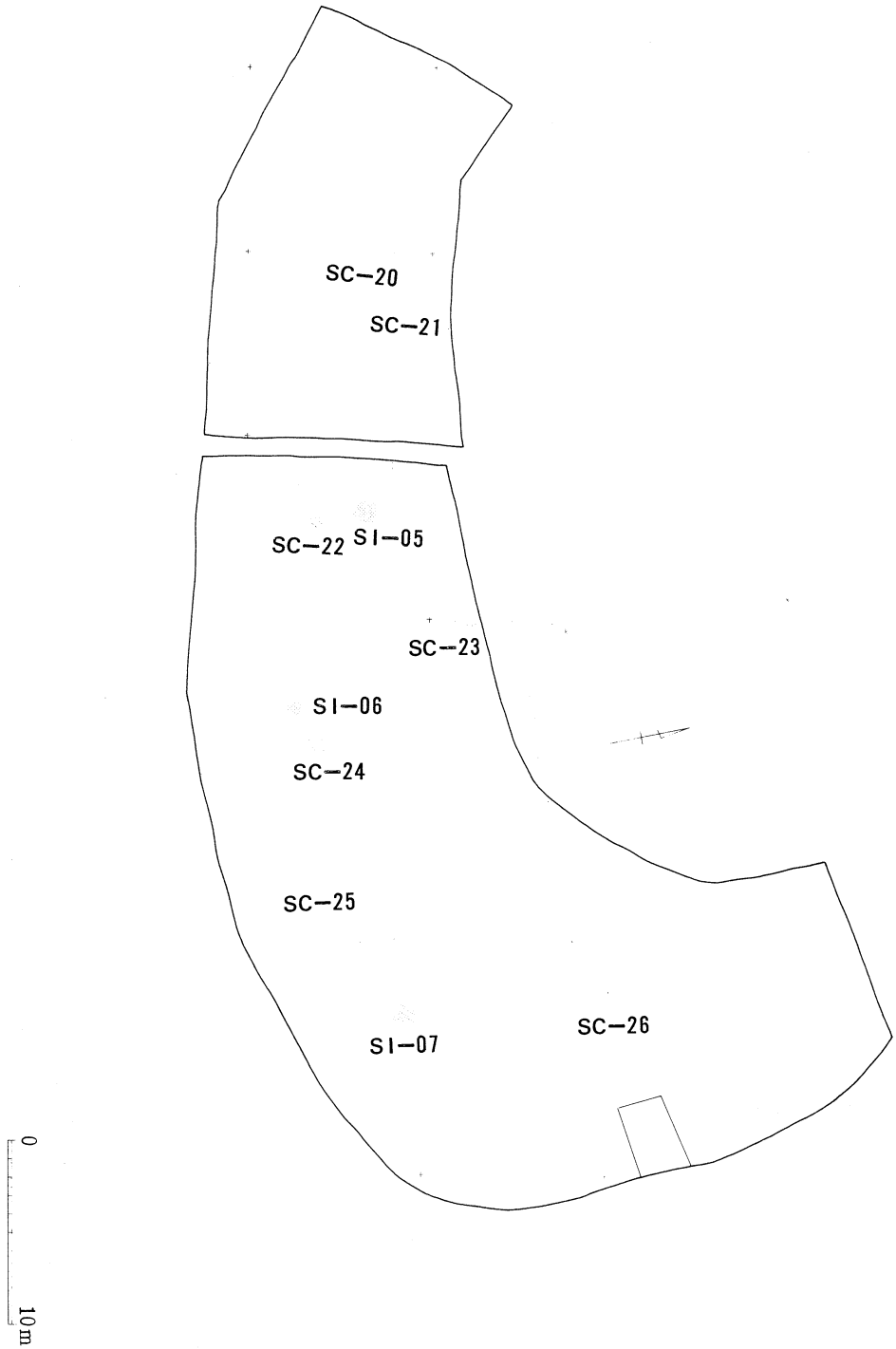
12)

ＳＩ−05・06・07・10は元々はもっと石が密集していたが、後世の撹乱等によって石が失われ現在のような状況になったものと考えられる。ＳＩ−08の大型の集石遺構内からはシラスの固まった軟らかい凝灰岩を偏平な円盤状に加工したものが出土した。これは良く焼けておりボロボロと崩れ易い。用途は不明である。

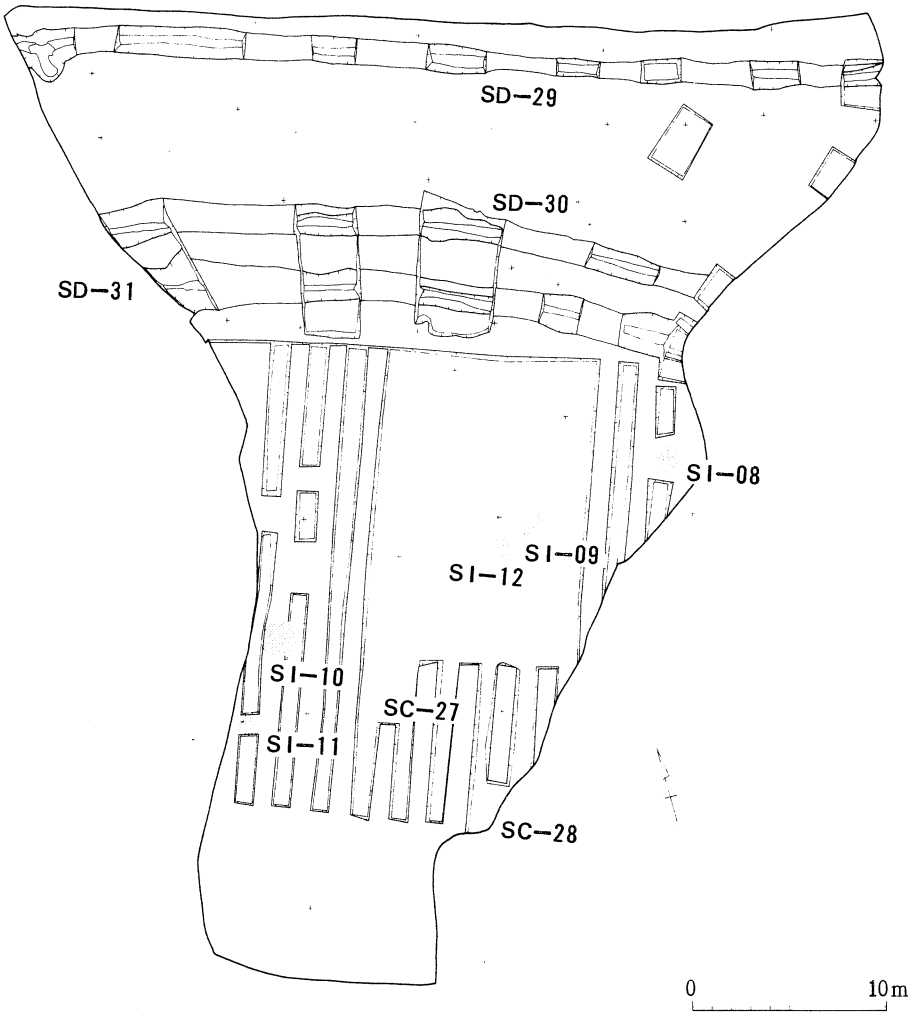
②土壙

Ｂ区で７基、Ｃ区で８基、Ｄ区で２基検出されている。いずれも縄文時代早期の遺構と考えられる。これらは形態からいくつかのタイプに分けられる。

Ｉ−平面形が楕円形で断面形が長方形のもの。(ＳＣ−13・14・22・25)



第24図　C区遺構分布図



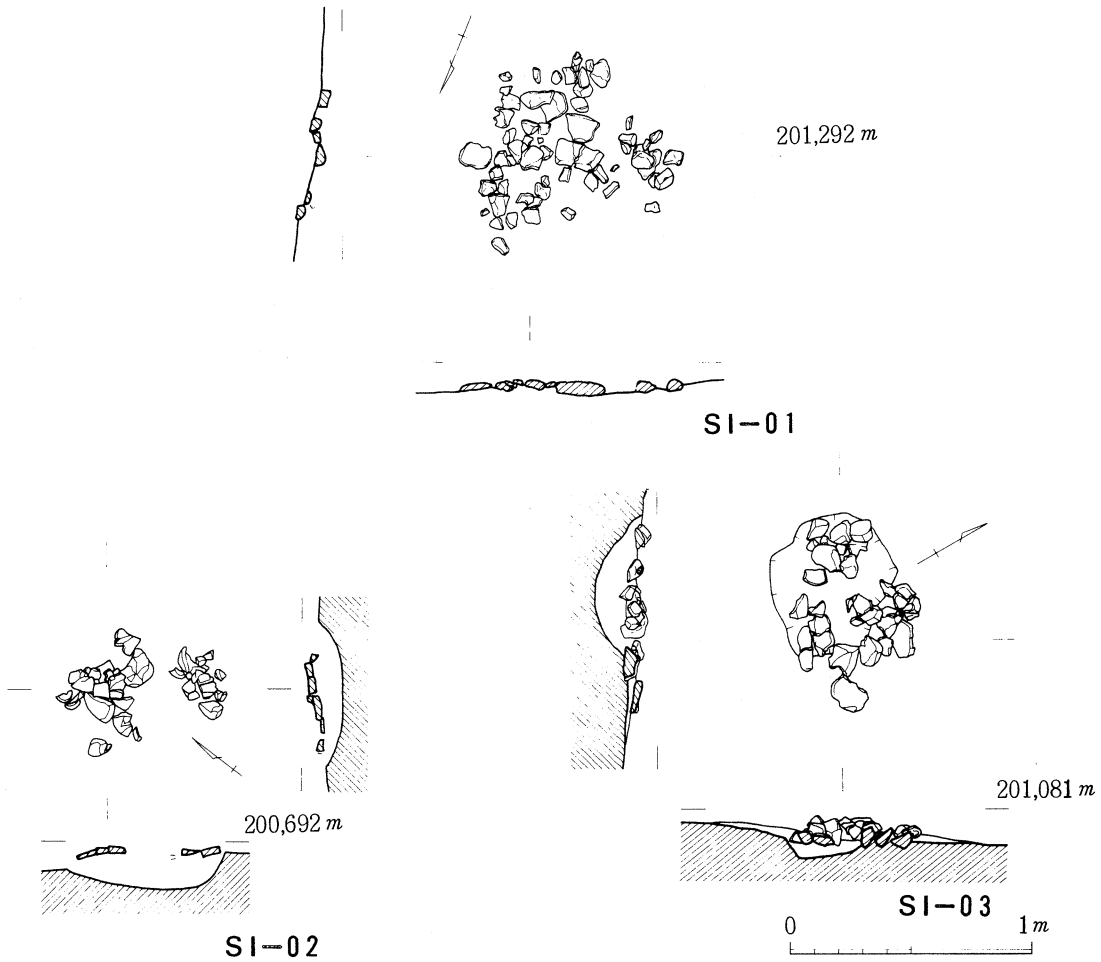
第25図　D区遺構分布図

Ⅱ－平面形がほぼ長方形で断面形が長方形のもの。（ＳＣ－14・15・17～19・21・23・27・28）

Ⅲ－平面形が楕円形で床面中央部付近にさらに堀込みを持つもの。（ＳＣ－20・26）

Ⅳ－平面形が楕円形で床面中央部付近にさらに堀込みを持ち、それが非常に深いもの。（ＳＣ－24）

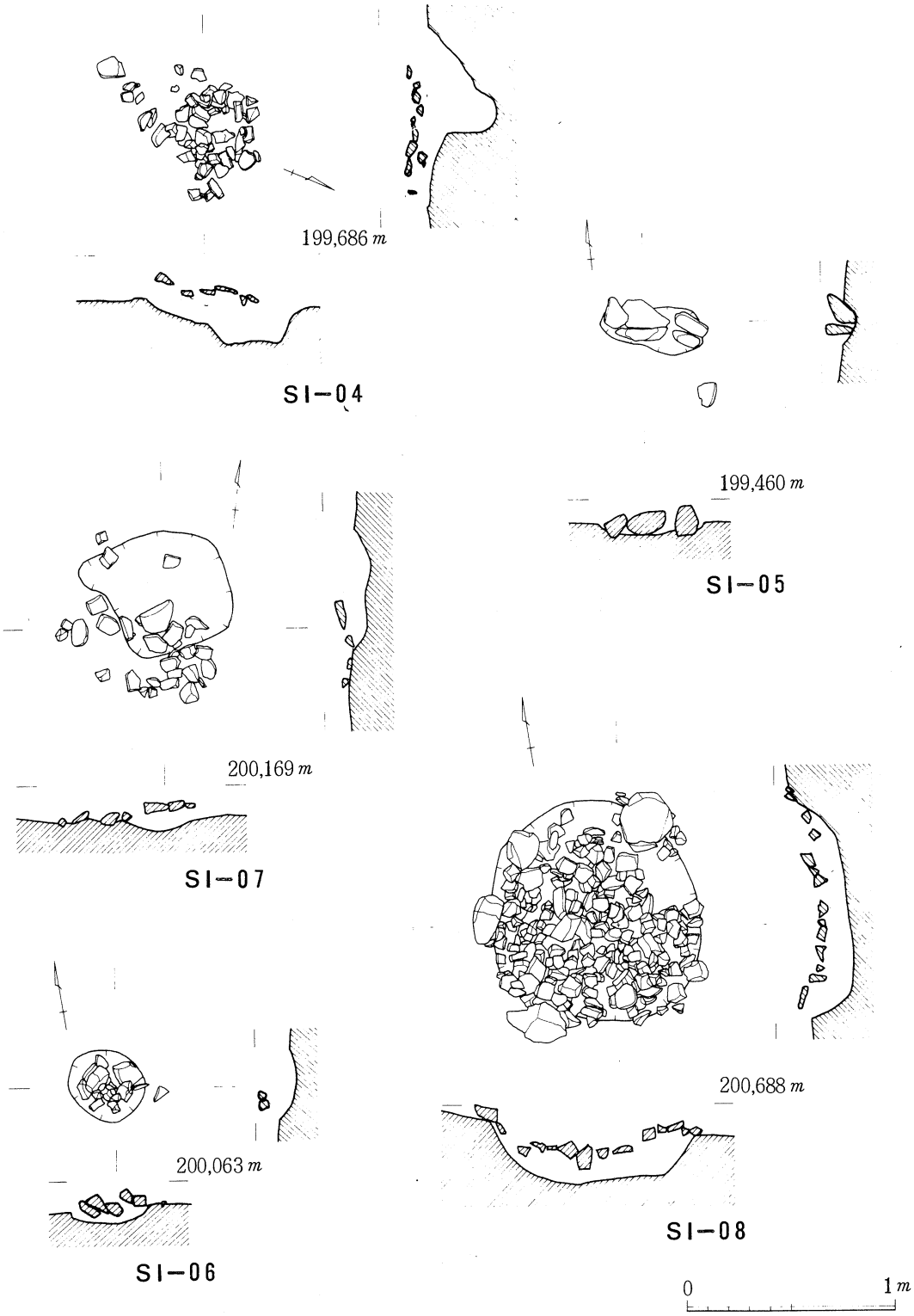
土坑の用途は不明である。埋土も遺物包含層の土が入っていただけで分層できなかった。土坑内からの遺物の出土もほとんど無く、ＳＣ－14の土坑から縄文時代早期の土器片が1点出土しただけである。この土坑の中でⅢ類とⅣ類は特徴的で特にⅣ類のＳＣ－24は外のものよりもはるかに深く、違った印象を与える。



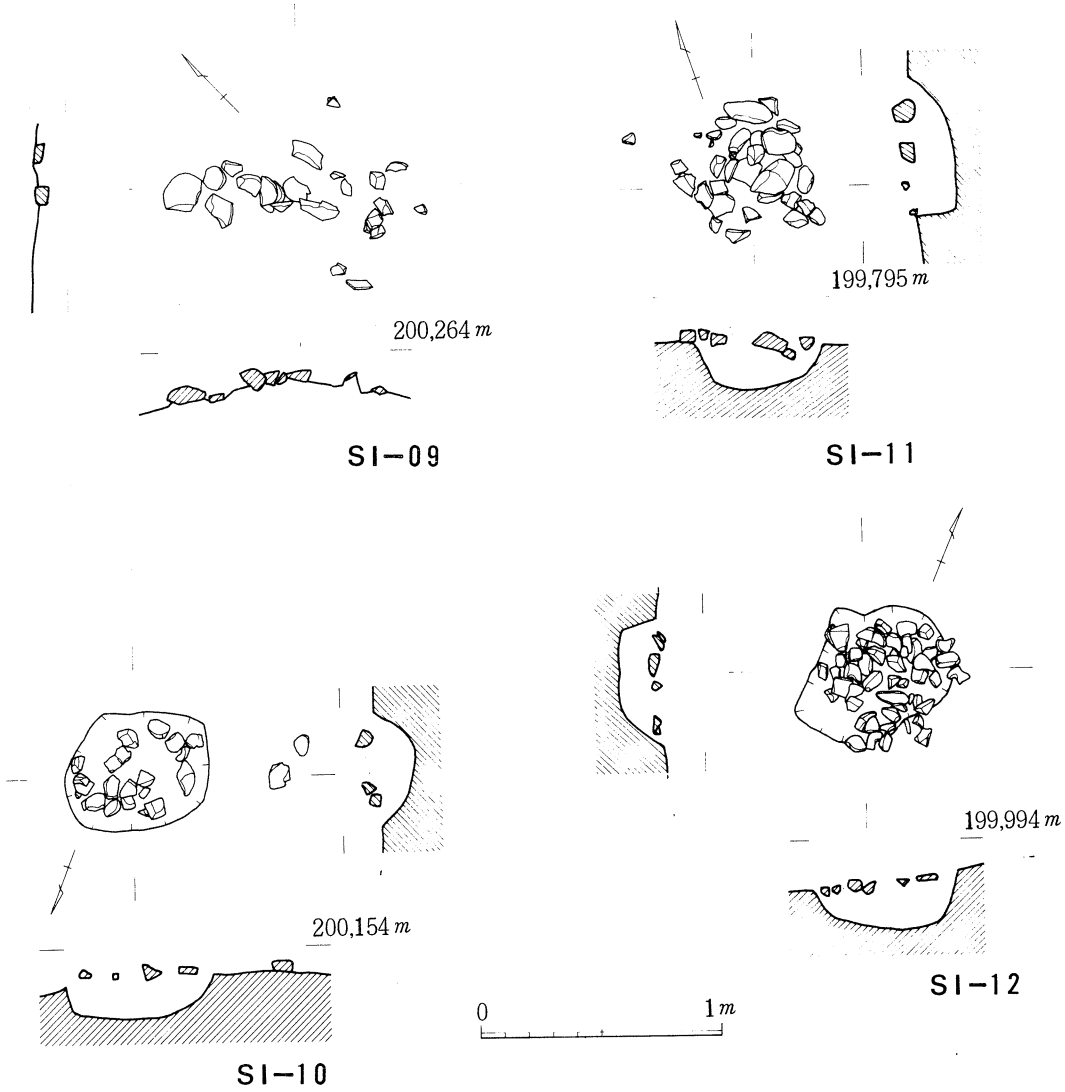
第26図　A区遺構実測図（ＳＩ−01〜03）

③溝

谷部に向け舌状に延びるＤ区を切断するように３条の溝が検出された。北からＳＤ−29・30とした。ＳＤ−29は単独で、30と31は２本並んで検出された。29は掘り方は矢研掘りで遺構検出面から床面までの深さは深いところで50㎝程度である。埋土中には中位に桜島文明軽石と思われるパミスを含んでいる。このパミスは文献などから噴出年代が1471年〜1476年とはっきりしているので、この溝はそれ以前に掘られたものと考えられる。30と31は２本並んでおり、掘り方は29同様に矢研掘りで、深いところでは１ｍ70㎝を測る。30と31の間隔は約１ｍ50㎝〜２ｍ40㎝程度である。２本とも同じように曲がって掘られている。両方とも桜島文明軽石を埋土中に持ち土層断面図からも前後関係が見られないことから、



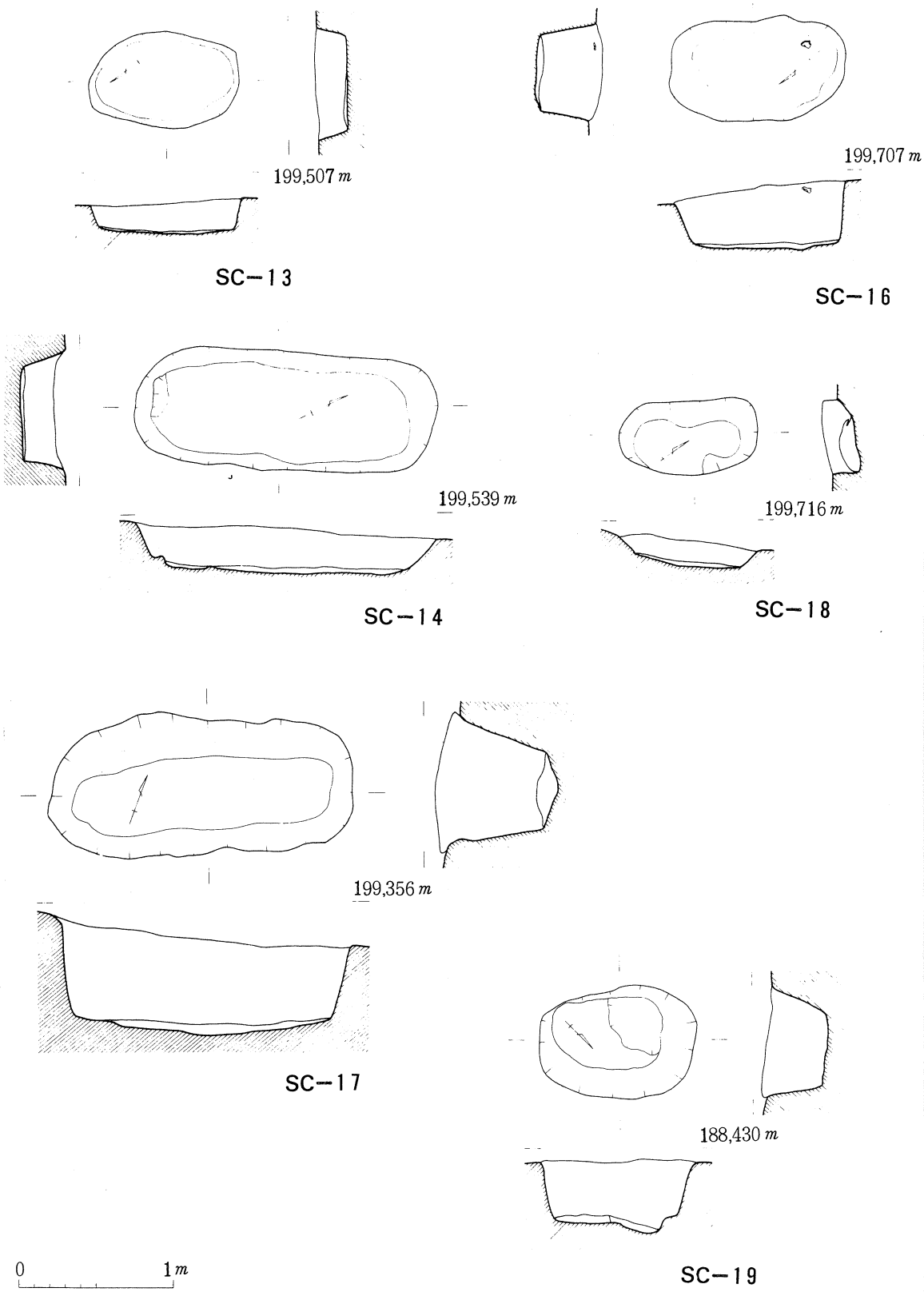
第27図　B～D区遺構実測図（ＳＩ－０４～０８）



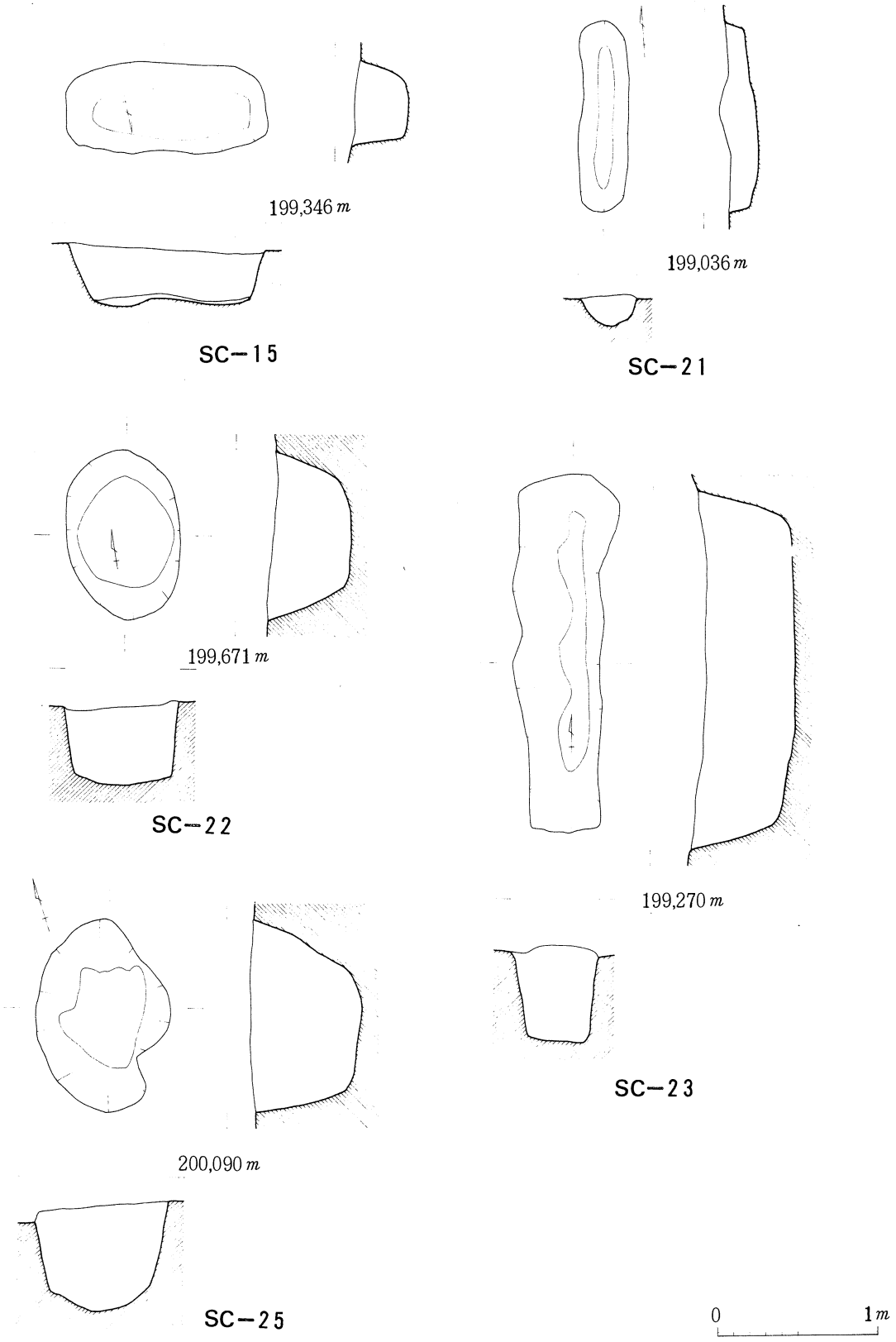
第28図　D区遺構実測図（ＳＩ−０９〜１２）

この２本は同時に掘られた可能性も考えられる。これらの溝の中から出土した遺物は無く第49図77・78の２点だけがこの溝の時期の遺物と考えられる。

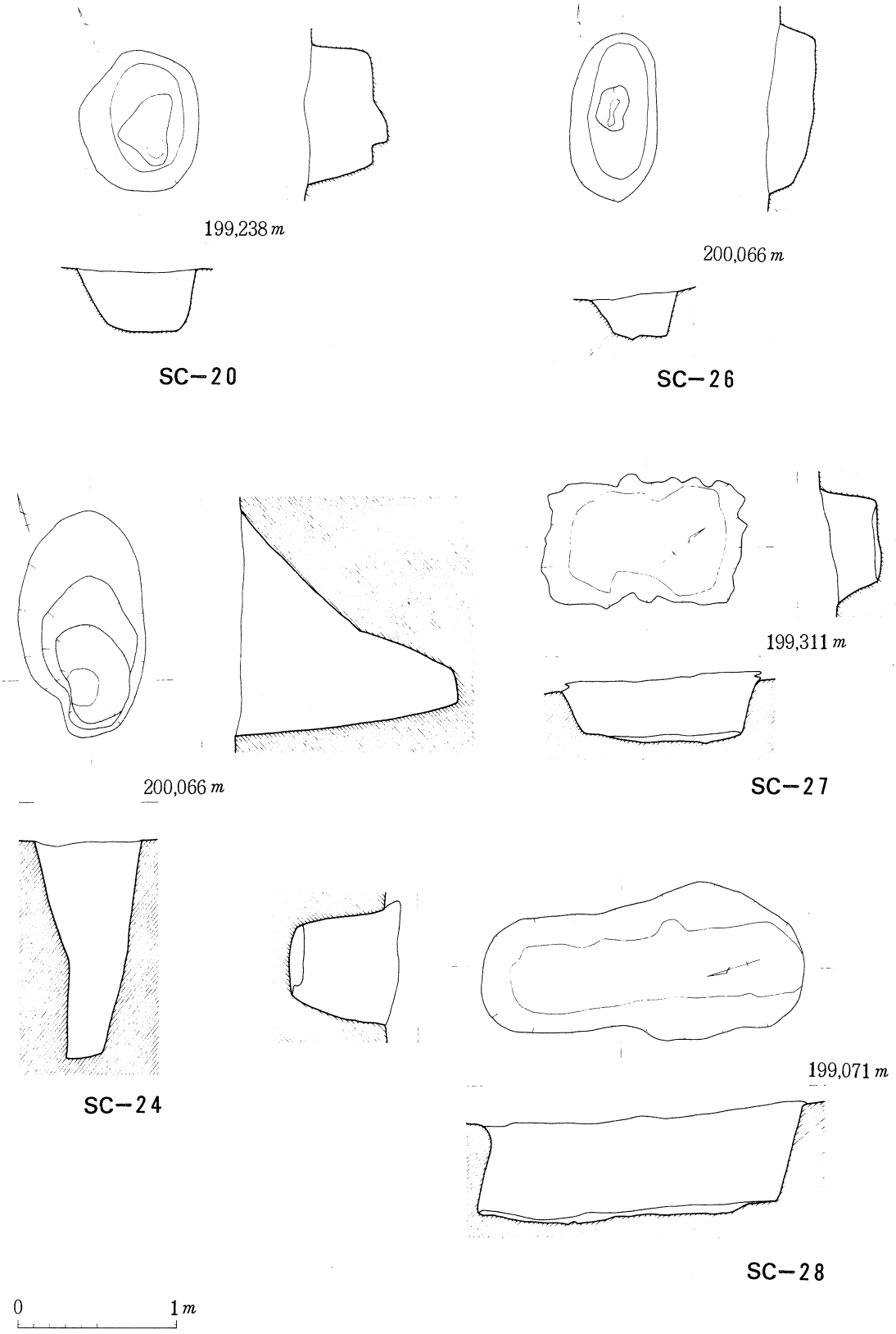
この溝の機能であるが、舌状台地を切断していることから中世の山城の堀切ではないかと考えられる。しかし、それに伴う柱穴等は全く見つかっていないことから、詳細は不明である。



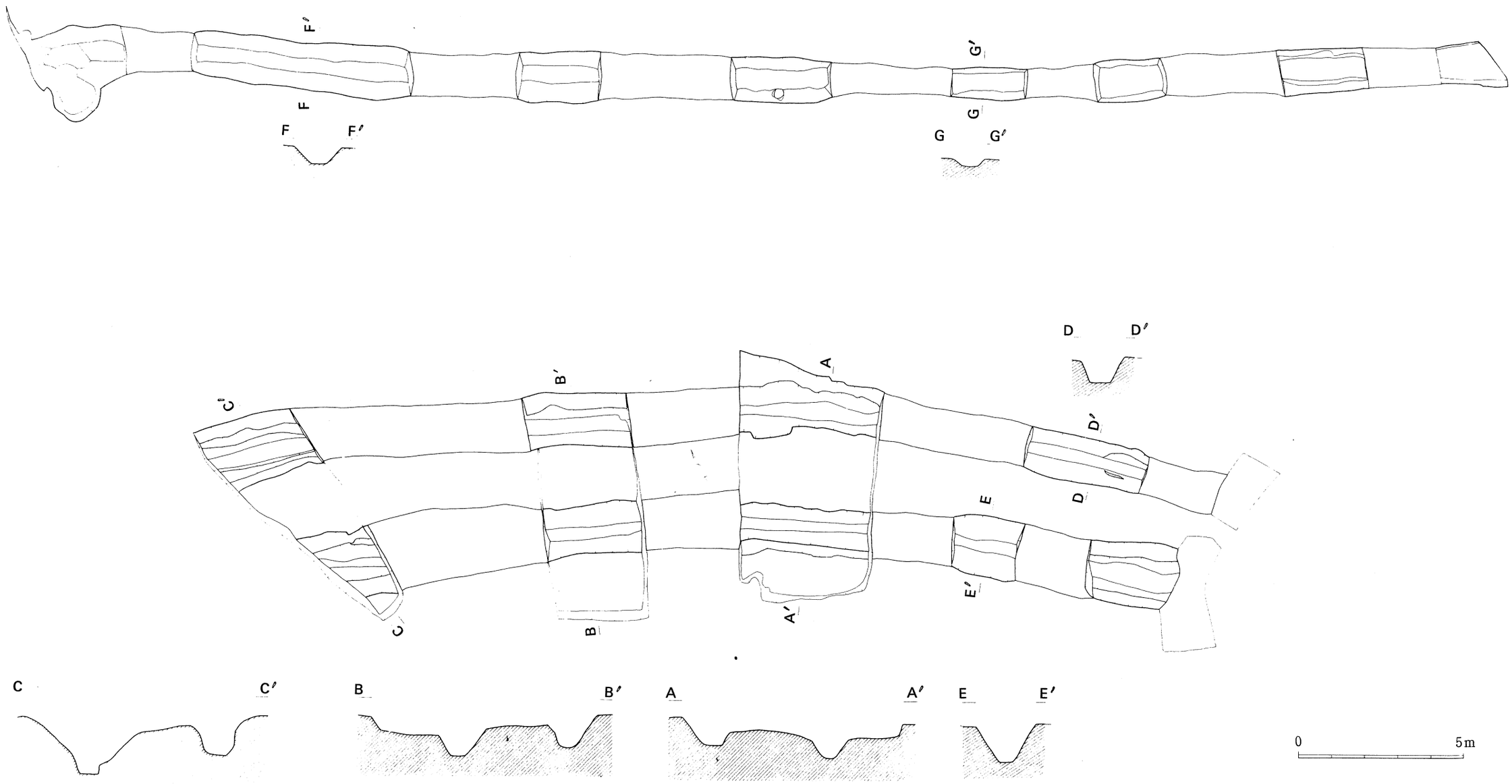
第29図　B区遺構実測図（ＳＣ－13・14・16～19）



第30図　B・C区遺構実測図（SC－15・21～23・25）



第31図　C・D区遺構実測図（SC－20・24・26～28）



第32図　D区遺構実測図（ＳＤ２９～３１）

第3節　出土遺物

褐色ローム層から縄文時代早期の土器、石器が出土した。その遺物包含層からは、数種類の型式の土器が出土しており、その前後関係を層位的に捉えることはできなかった。

出土した土器は器面に施された文様によって大きく3種類に分けることができる。

Ⅰ類　条痕文土器

Ⅰａ－口唇部が丸く丁寧になでられており、器壁には横位・斜位の条痕文が一面に施されているが、底部近くになると文様が段々とまばらになる。内面は丁寧ななでが施されている。

Ⅰｂ－器型は胴部がほとんどふくらまない円筒型で口唇部に刻みを持ち、口縁部上端部にヘラ状施文具で、1列ないしは2列の連続刺突文を施す。胴部には横位の粗い条痕文を施す。

Ⅰｃ－円筒型の胴部に櫛歯状もしくはヘラ状の工具で綾杉文を施す。綾杉文と綾杉文との間に刺突文が2列入るものもある。器壁は比較的薄く、焼成が良好である。

Ⅰｄ－円筒型の胴部にヘラ状の工具で羽状文を施す。器壁はⅠｃ類に比べて厚く、焼成も劣る。

Ⅱ類　押型文土器

Ⅱａ－外面に楕円押型文を施し、口縁部内面に同じく楕円押型文を施文し、口唇部に原体条痕を持つ。

Ⅱｂ－外面に楕円押型文を施し、口唇部内面は無文のもの。

Ⅱｃ－外面に山形押型文を持つもの。

Ⅲ類　撚糸文土器

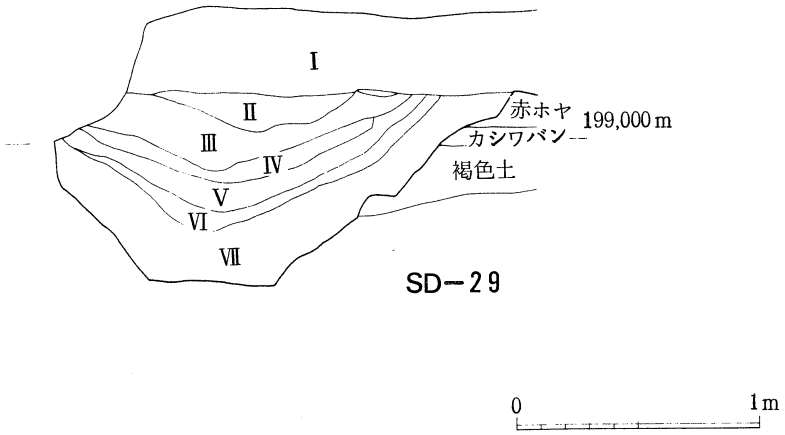
Ⅲａ－器型は不明であるが、胴部に変形撚糸文を施すもの。

Ⅲｂ－器型は不明であるが、胴部に突体を有し、刺突文と撚糸文を施す。

Ⅲｃ－口縁部がくの字状を呈し、胴部は張りの無い円筒形のもの。文様は沈線文と撚糸文によって創られているもの。

Ⅲｄ－器型は不明であるが、胴部に斜め方向の撚糸文を施すもの。

第　図1～4はⅠｃ類に属する、口唇部が丸く丁寧になでられた、胴部に横位・斜位に条痕文を有する土器片である。器壁は厚く、焼成は良好である。口唇部から内面にかけてきわめて丁寧になでられており、ツルツルとした手触りである。5はⅢｃに属するいわゆる塞ノ神式土器と呼ばれるものである。器壁は薄手で沈線で区切られた中に撚糸文を施す。焼成は良好である。6はⅢｂに属する平栫式土器片である。口縁部がくの字状を呈し頚部



第33図　ＳＤ－29土層断面実測図

前畑遺跡Ｄ地区１・２・３号溝土層注記

Ⅰ層・暗褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／４
現在の耕作土である。粘性は少なくアカホヤ粒を少量含む。

Ⅰa層・褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／６
二次堆積のアカホヤと耕作土の混じったもの。畑の土手の表土。

Ⅰb層・黒色軟質土：Hue10R1.7／１
Ⅰa層と質は同じであるが色が黒い。

Ⅱ層・明黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ６／８
通称二次アカと呼ばれている、軟質で粘性の少ない層である。

Ⅱa層・褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／４
質としてはⅡ層・Ⅱc層と同じであるが、Ⅱ層よりも暗く、Ⅱc層よりも明るい。Ⅱc層よりもアカホヤのブロックを多く含む。

Ⅱb層・暗褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／４
二次堆積のアカホヤを主体とし軟らかい。純粋なアカホヤ層のブロックを少量含む。

Ⅱc層・褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／４
Ⅱ層と質的には同一であるが色調がやや暗い。

Ⅱd層・明黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ６／８
二次堆積のアカホヤ層を主体とする。色は明黄褐色が強い。

Ⅱe層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／２
二次堆積のアカホヤを主体とするが、所々に炭化粒を疎らに含む。雲状に淡色部が入る。

Ⅱf層・明黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ６／８
二次堆積のアカホヤを主体とし、純粋なアカホヤ層のブロックを多く含む。

Ⅱg層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／８
二次堆積のアカホヤを主体とし、純粋なアカホヤ層のブロック・カシワバンブロックを多く含む。色はアカホヤ本来の色に近く明るい。軟らかく粘性は少ない

Ⅱh層・褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／６
Ⅱg層よりも色は暗く、ややしまっている。Ⅱg層同様アカホヤとカシワバンのブロックを含んでいるが少量でブロックが小さい。

Ⅱi層・明黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ６／８
二次堆積のアカホヤを主体としているが、Ⅱ層よりかなりしまっている。

Ⅲ層・赤黒色軟質土：Hue10R1.7／１
漆黒色土の中に桜島文明軽石を少量含む（下部にいくにしたがって多くなる。）やや粘性が強い。

Ⅳ層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／４
桜島文明軽石を主とし、上下にⅢ層がある。新燃パミスの上下の層はⅢ層よりも色調が褐色がかっており、粘性が少ない。

Ⅴ層・赤黒色軟質土：Hue10R1.7／１
Ⅲ層とほぼ同じであるが、Ⅲ層よりもパミスが少なく下部にいくにしたがって褐色になる。やや粘性が強い。

Ⅴc層・褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／６
Ⅴd層とⅡd層との漸移層。主体は二次堆積のアカホヤでスコリアを含まない。

Ⅴd層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ２／３
Ⅴe層とほぼ同じであるが、色が薄い。

Ⅴe層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／２
Ⅴ層よりも色が薄い。Ⅴ層は層として色、質ともに均一であるが、この層は不均一で所々に炭化粒を少量含む。

Ⅴf層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／２
Ⅴd層とほぼ同じであるが、色が薄い。全体的に均一に桜島文明軽石を少量含んでいる。

Ⅴg層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／３
Ⅴd層とほぼ同じであるが、色が薄い。全体的に均一に桜島文明軽石を多く含んでいる。

Ⅵ層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ２／２
たいへん軟らかく、粘性が強い。Ⅴ層よりやや軟らかい。色調としてはⅤ層とⅦ層の漸移層である。

Ⅶ層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／６
たいへん軟らかく、粘性が強い。アカホヤ粒を多く含むので二次堆積のアカホヤの可能性が高い。

Ⅶa層・褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／４
質的にはⅦ層と変わらないが、やや色が暗い。

Ⅷ層・明黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ６／６
二次堆積のアカホヤの中に小林軽石を含むローム層のブロックが入っている。色も周りの層に比べて明るく、スコリアも全く含まない。

Ⅸ層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ２／３
Ⅴe層とよく似ているが、新燃スコリアを全く含まない。全体的に炭化粒を少量含む。粘性が強い。土の粒子は、Ⅴe層同様やや粗い。

Ⅸa層・暗褐色軟質（粘性）土：Hue10ＹＲ３／４
土の粒子は均一で軟らかく粘性が強い。左上部にシラスのブロックを少量含む。この層を造る土にはシラスが多く含まれている。

Ⅸb層・暗褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／３
質的にはⅨa層とほとんど同一であるが、スコリアを含まず色調がやや明るい。炭化粒を少量含む。

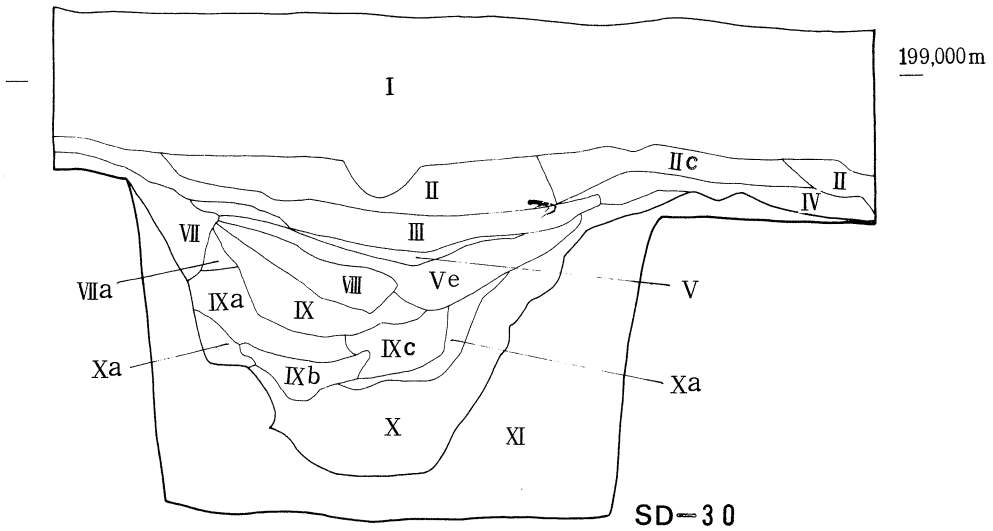
Ⅸc層・暗褐色軟質土：Hue10ＹＲ３／４
色・質共にⅨa層に良く似ているが、アカホヤのブロックを少量含む。

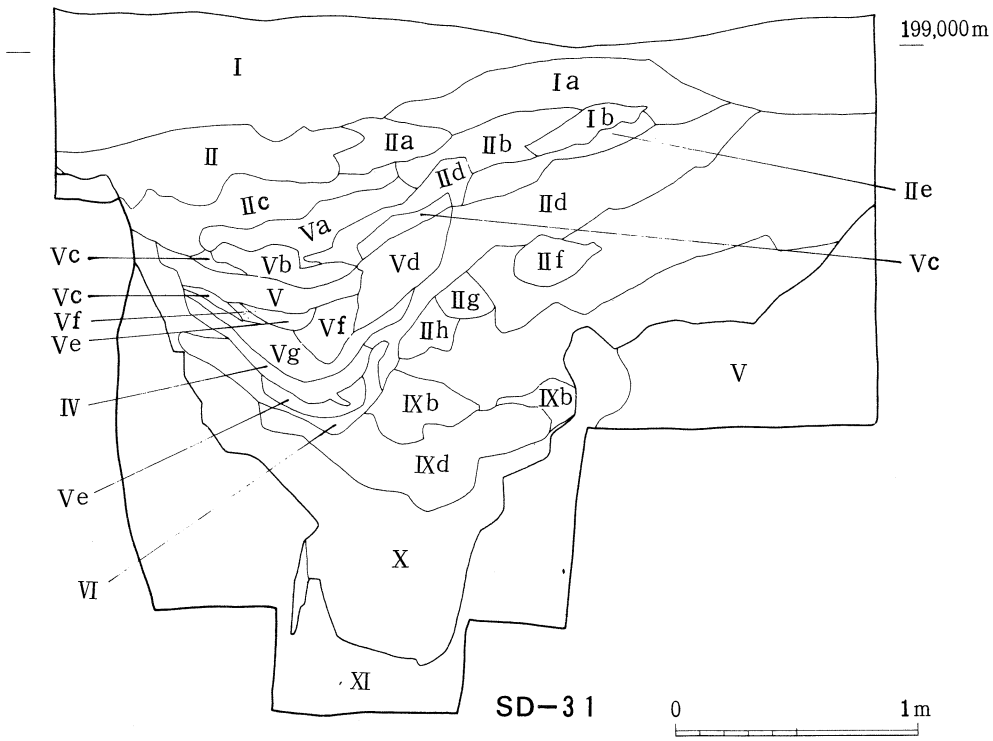
Ⅸd層・黒褐色軟質土：Hue10ＹＲ２／３
質的にはⅨ層と同一であるが、シラスを含まない。

Ⅹ層・黄褐色軟質土：Hue10ＹＲ５／６
シラスの粒を多く含み、粘性が強い。シラスの小さなブロック（直径２～３cm）のものを少量含む。

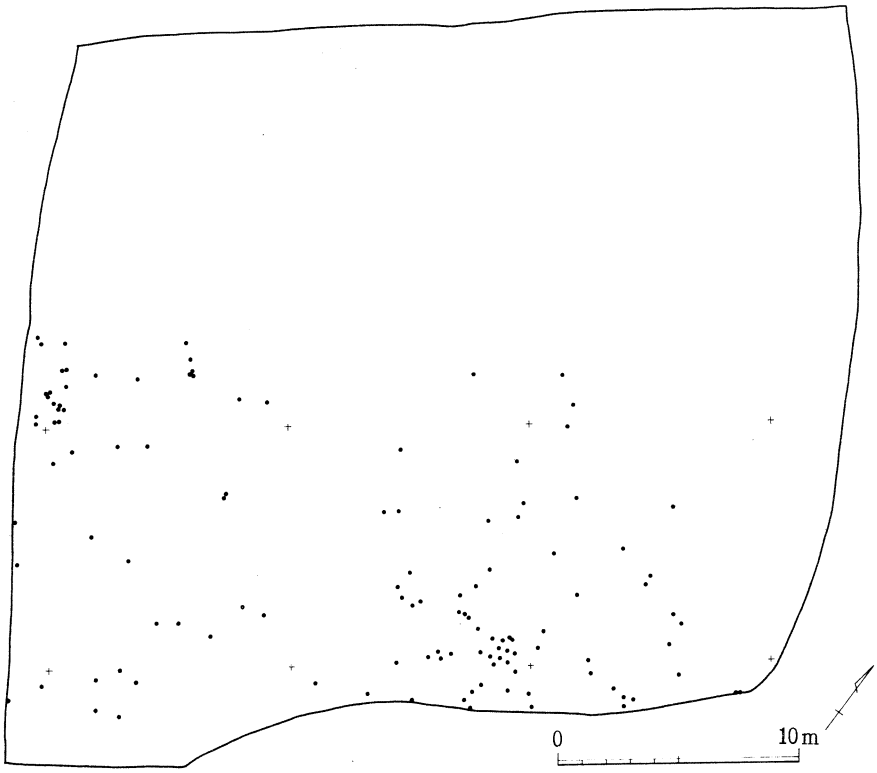
Ⅹa層・褐色軟質土：Hue10ＹＲ４／６
Ⅹ層と同一であるが、やや色調が暗い。炭化粒を少量含む。

層・黄褐色軟質土：Hue2.5ＹＲ７／８
いわゆるシラス層である。パミスを多く含み、湿っていると粘性が強い。





第34図　ＳＤ−30・31土層断面実測図



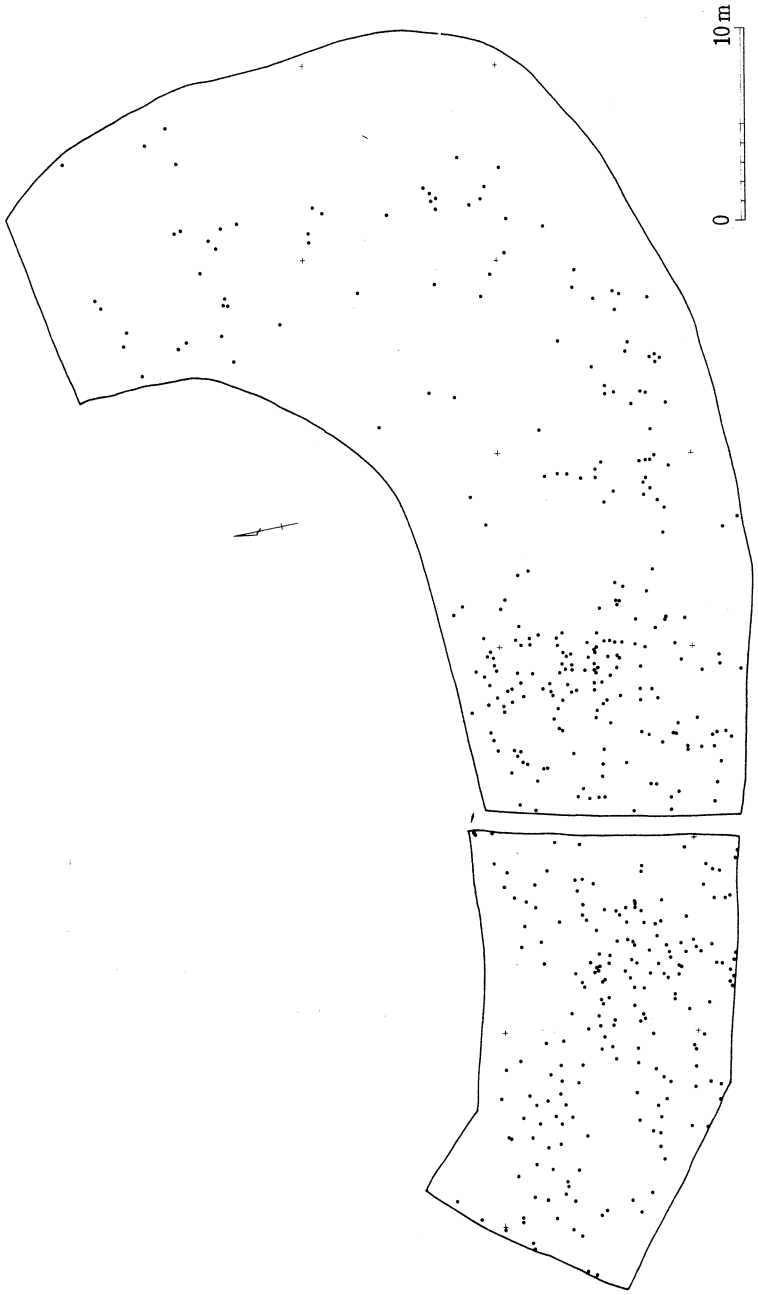
第35図　A区遺物分布図

外面に列点文を有し、胴部に沈線文が施される。器壁は薄く焼成は良好である。口径が小さく最近注目されている壷の可能性も考えられる。7は斜め施文の楕円押型文土器である。楕円は粗大化しておらず、内面にも横施文が見られる。遺存部は頚部であるが、器型は尖底を有する可能性が高く、押型文土器土器としては古手に属すると考えられる。8は、底部であるが、平底で厚手、わずかに貝殻条痕文が認められる。

第39図1はＩｃ類に属する、口唇部が丸く丁寧になでられた、胴部におもに斜位に条痕文を有する土器である。口縁部はゆるやかに外反し、胴部は張りがなく円筒状を呈する。底部は欠損しているが平底と考えられる。器壁は厚いが、内面は丁寧に撫でられておりツルツルとした手触りである。文様は口縁部から頚部にかけては密に施されているが、胴部は下部にいくにしたがってだんだん疎らになる。2は1と同じにＩｃ類に属する、口唇部が丸く丁寧になでられ、胴部に横位・斜位に条痕文を有する土器である。器型は口縁部もほとんど直立する円筒型で器壁は厚く、焼成は良好である。口唇部から内面にかけてきわ

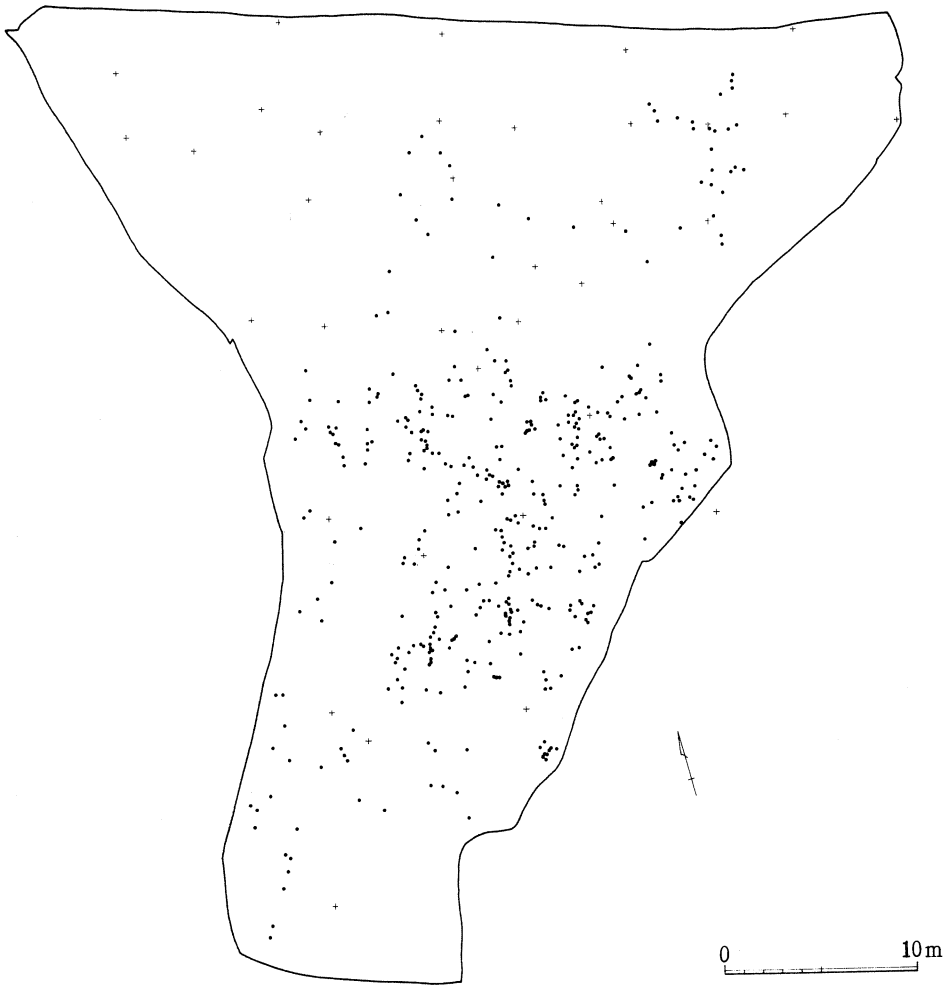
第36図　B区遺物分布図

めて丁寧になでられており、ツルツルとした手触りである。口縁部に貝殻による押し引き文が粗く施されている。胴部上端部分から上にススが付着している。文様は口縁部から頸部にかけては密に施されているが、胴部は下部にいくにしたがってだんだん疎らになる。3・4ともに2同様口縁部に粗く押し引き文を有し、器面には横位または斜位の条痕文が施されている。内面は丁寧に撫でられており口唇部も丸く丁寧に仕上げられている。5～14は口縁部に貝殻腹縁刺突文を施すものである。いずれも内面は丁寧に撫でられており口唇部も丸く丁寧に仕上げられている。器面には横位または斜位の条痕文が施されているが、比較的摩滅が激しい。15は5～14までの文様が更に退化して口縁部にのみ条痕文を施してその上に刺突文に近い押し引き文を施すだけで胴部は無文化したものと思われる。しかし



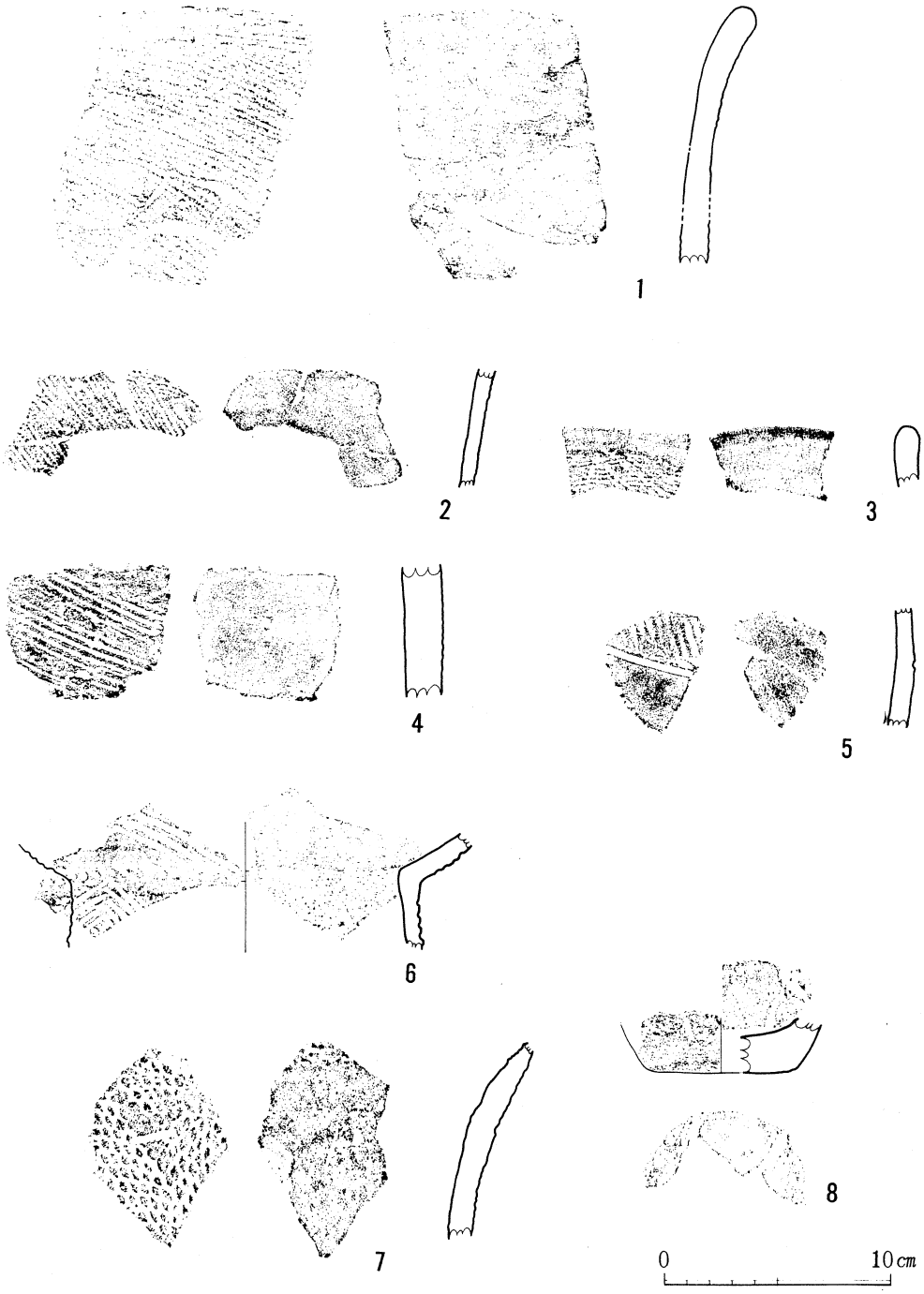
第37図　C区遺物分布図

口唇部は丸く丁寧に仕上げられ、内面も丁寧に撫でられている。16は器面の調整が縦位の条痕でなされているものである。剥落がひどく器面は口縁部のみしか確認できない。口唇部は丸く丁寧に仕上げられ、内面も丁寧に撫でられている。17は文様形態や内面の調整方法としては5～14までと変わりが無いが、口唇部が平らに仕上げられ、内面との境にはきちんと稜線が入っている。また、胎土が赤っぽく土の肌理も細かいので土器全体の中でも



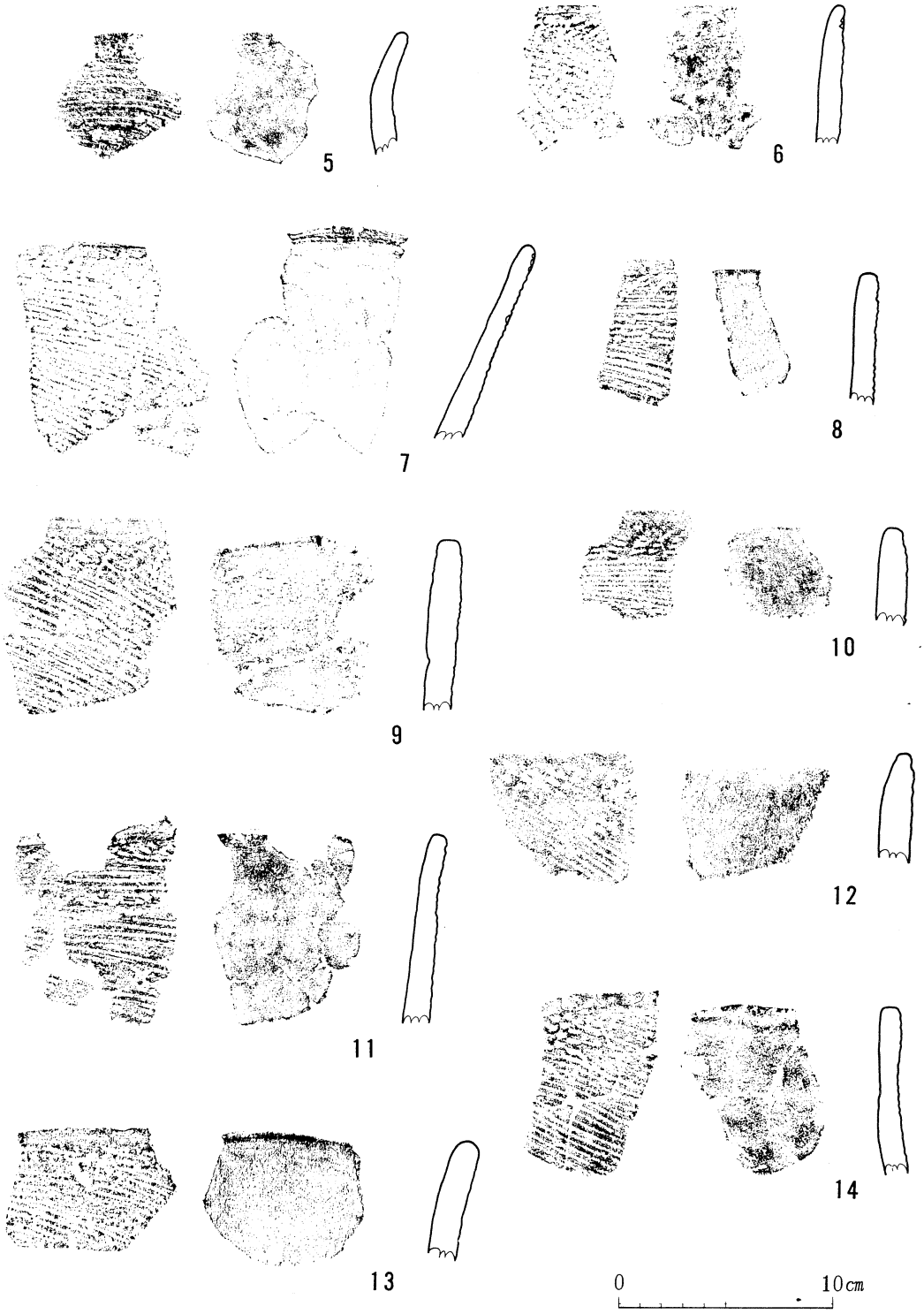
第38図　D区遺物分布図

変わった印象を与える。18～20は16同様器面の調整が縦位の条痕でなされているものである。いずれも内面は丁寧に撫でられており口唇部も丸く丁寧に仕上げられている。19は施文が薄く明瞭ではい。21は口縁部に貝殻腹縁刺突文が斜位・横位に施され頸部から胴部にかけては櫛状工具により斜めに格子模様がほどこされているものである。口縁部は外反し、胴部は張りが弱く円筒状を呈する。下部の文様は風化のため不明瞭である。内面は丁寧に撫でられており口唇部も丸く丁寧に仕上げられている。22～34は円筒形の器型を呈する条痕文土器の胴部片である。いずれも厚手で焼成は良好である。34は斜方向の条痕文の上に条痕文とは反対の傾きの斜方向の沈線を施している。35～36は条痕文土器の底部片である。厚手で平底を呈する。35は器面の剥落部分が多く調整を確認できる部分はわずかである。

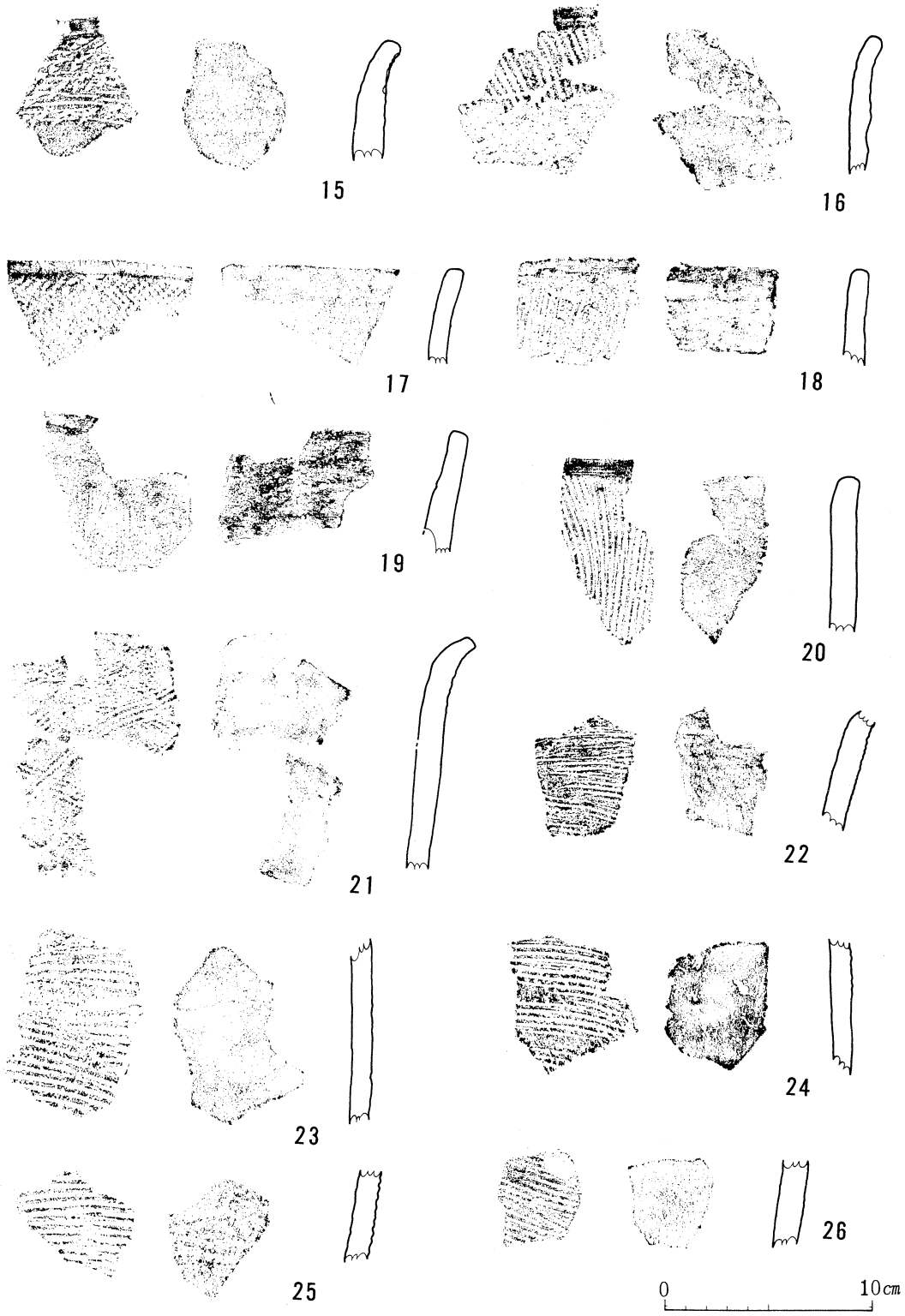


第39図　出土遺物実測図（縄文土器）

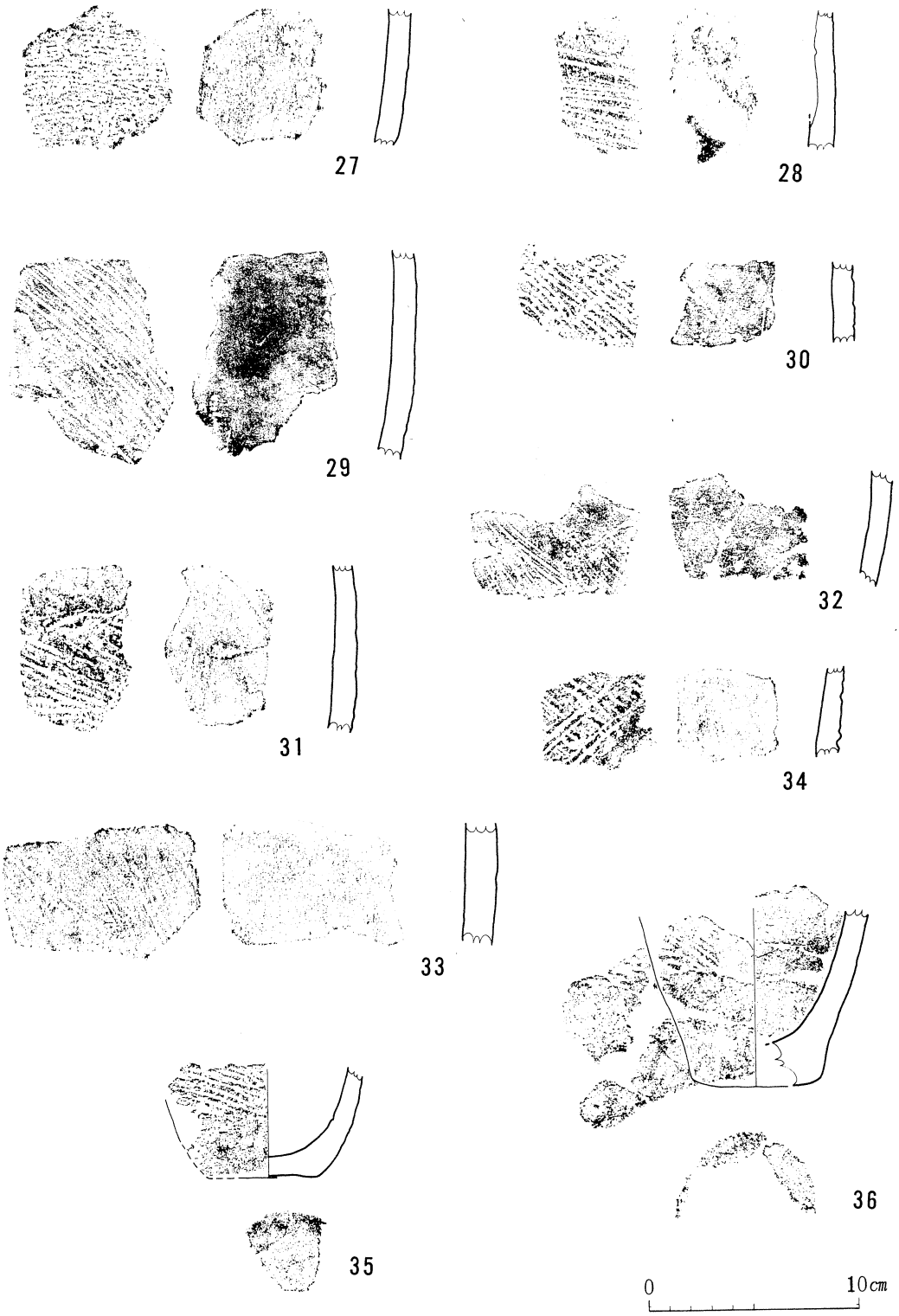
第40図　出土遺物実測図（縄文土器）



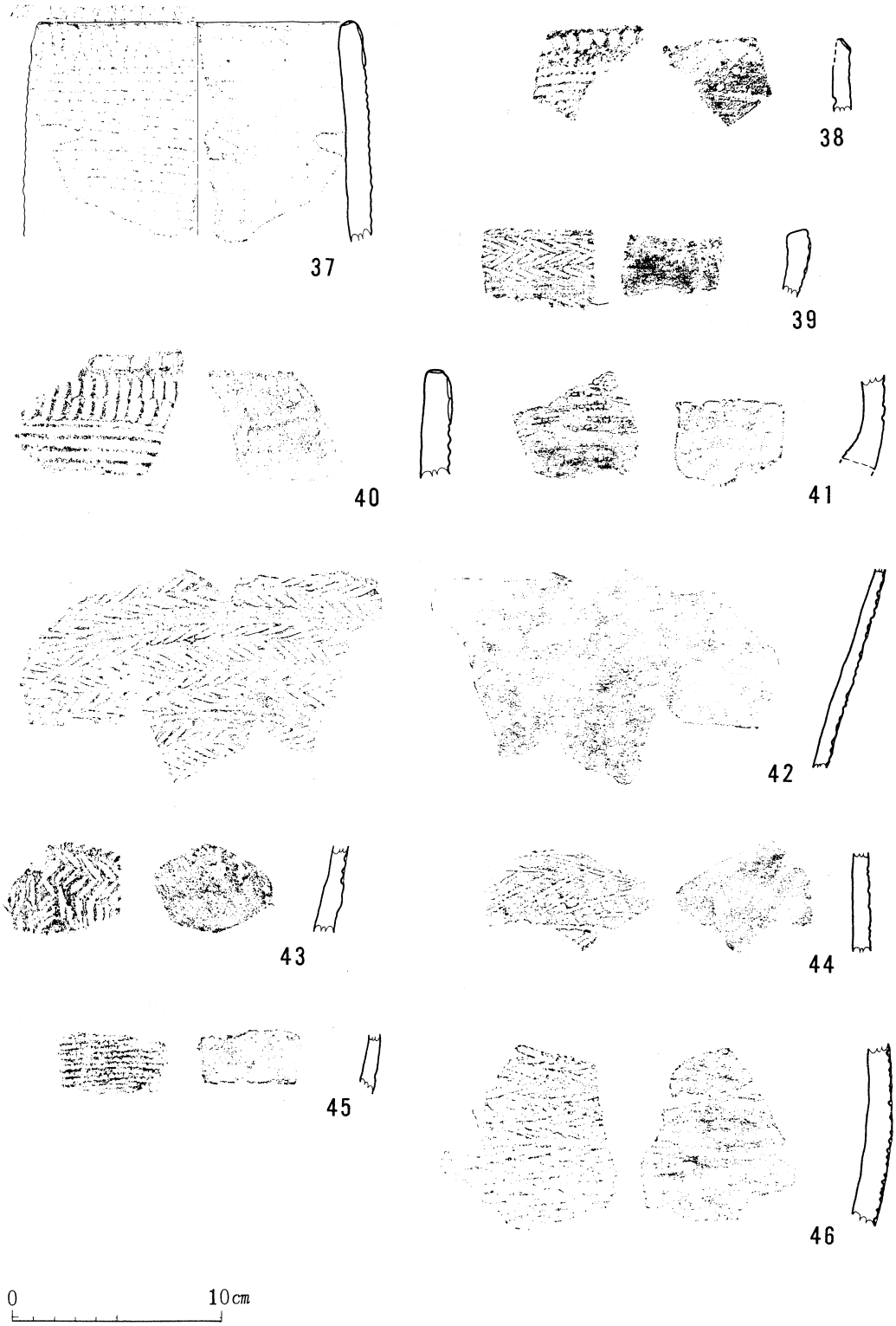
第41図　出土遺物実測図（縄文土器）



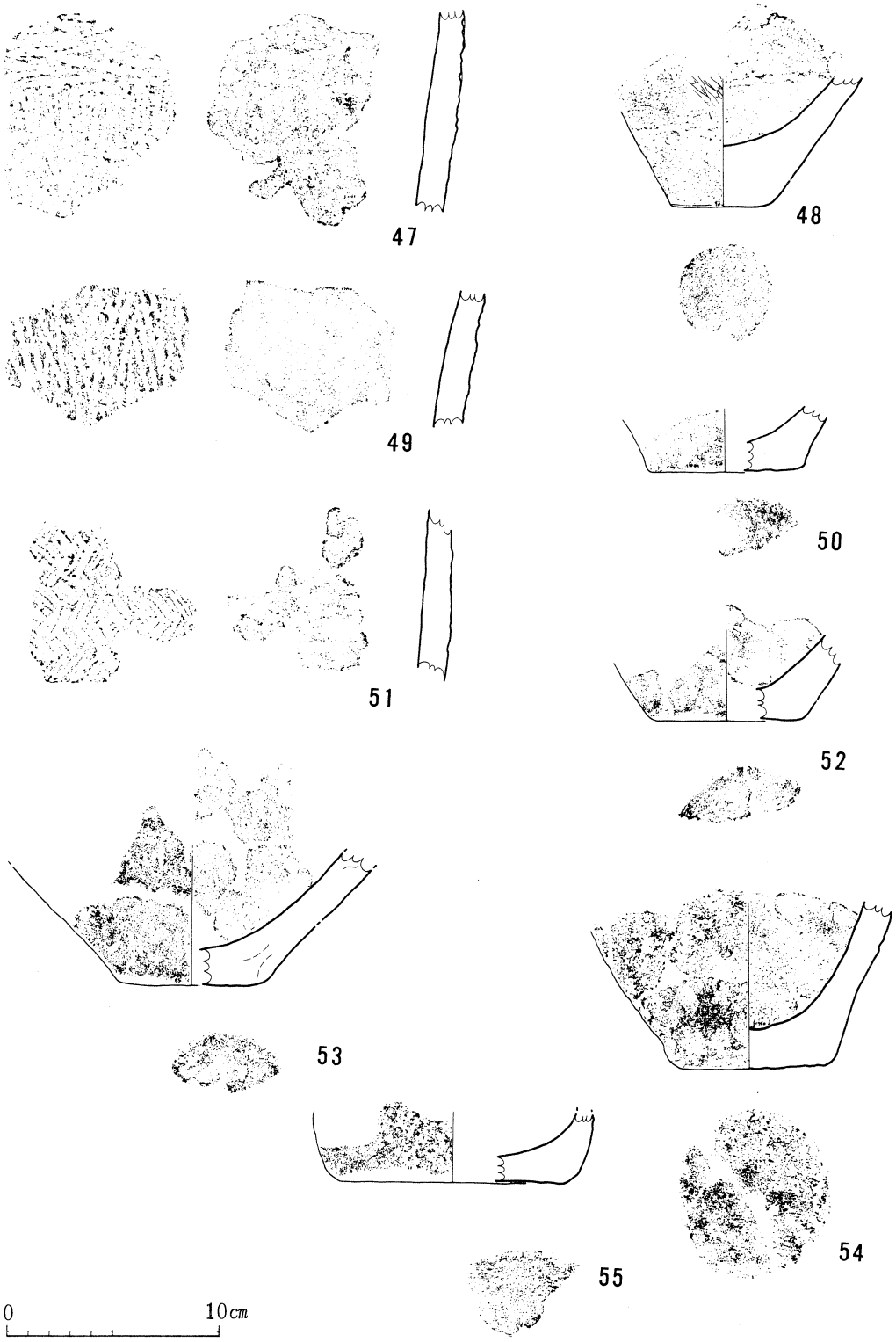
第42図　出土遺物実測図（縄文土器）



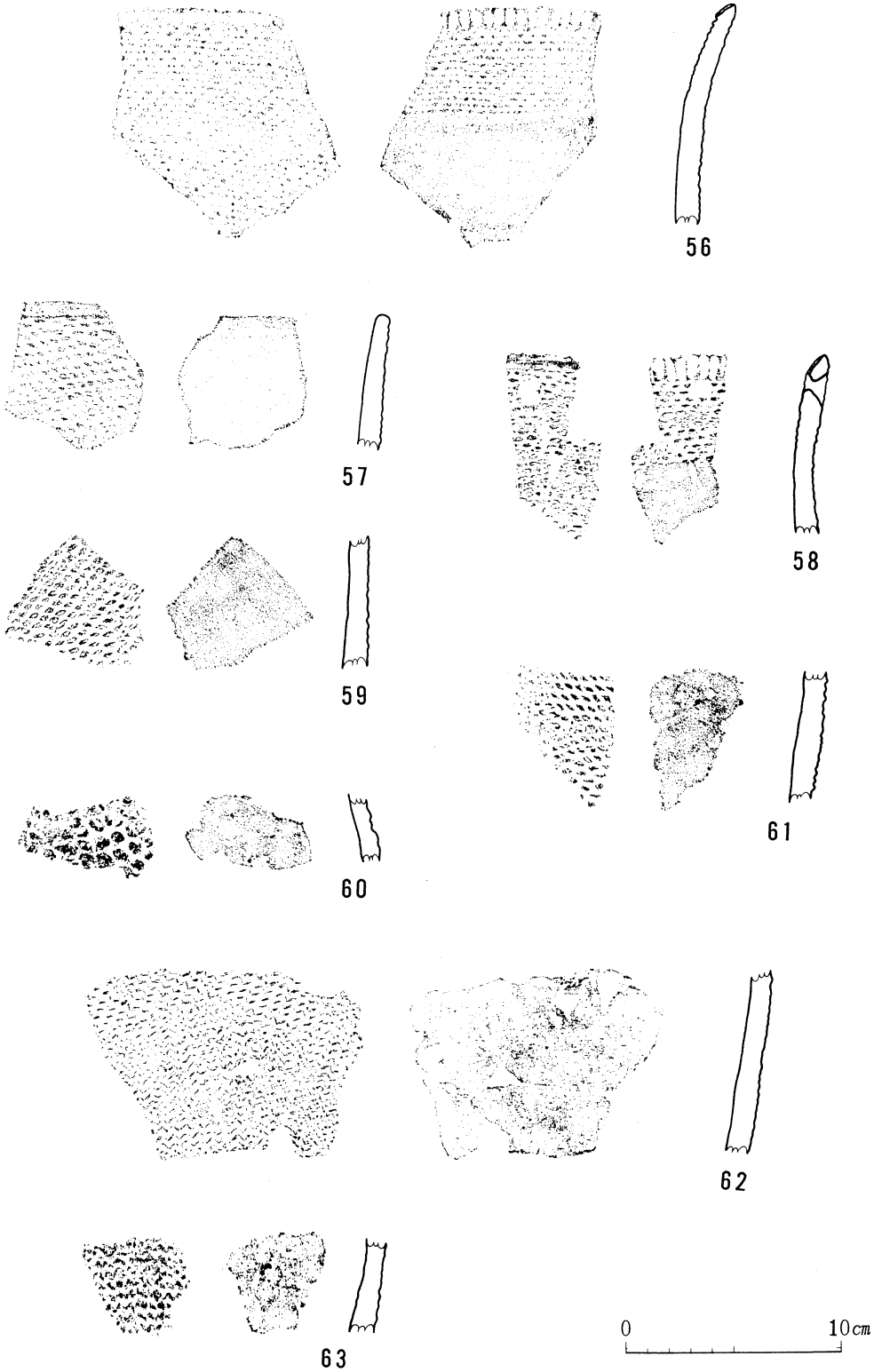
第43図　出土遺物実測図（縄文土器）



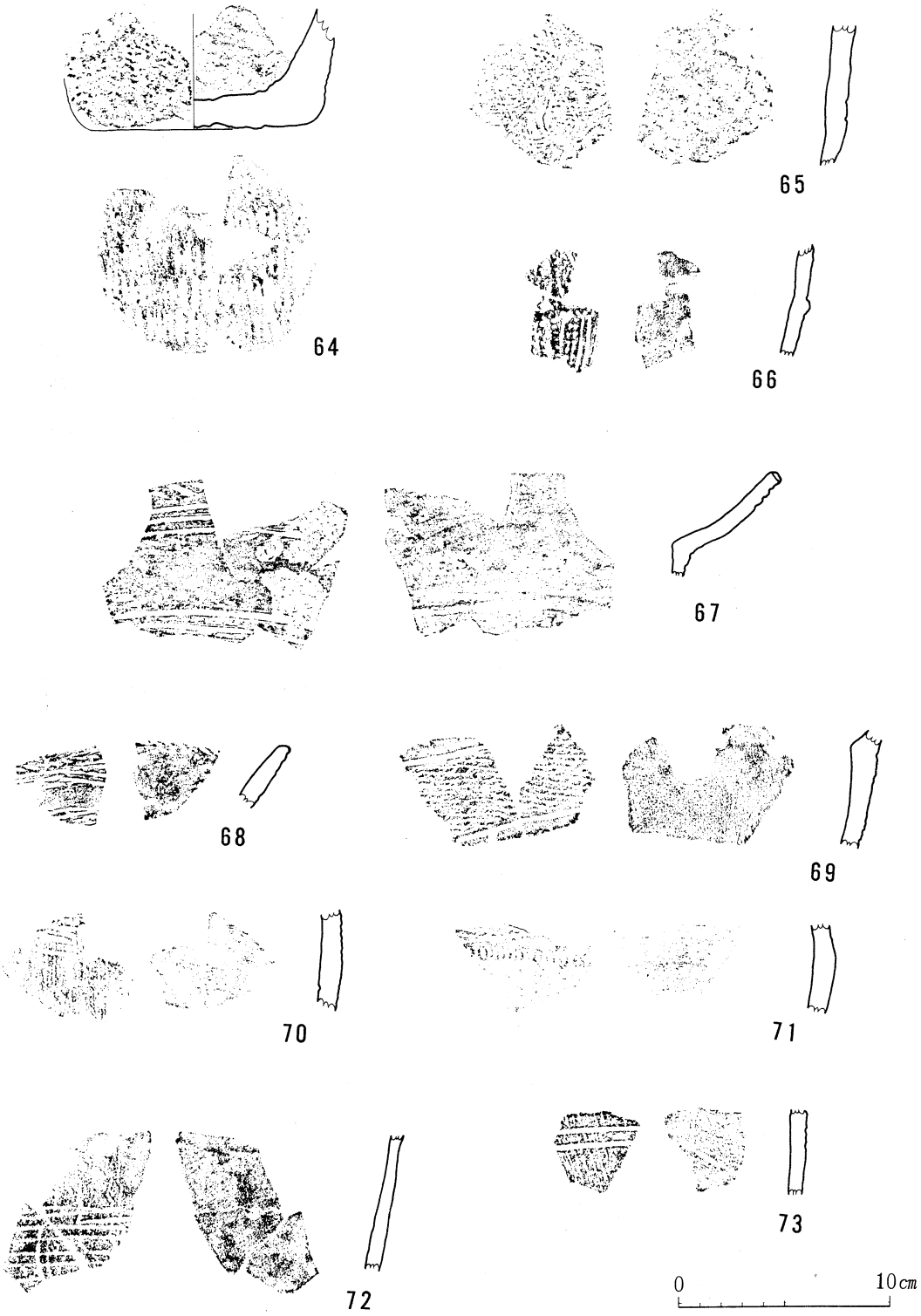
第44図　出土遺物実測図（縄文土器）



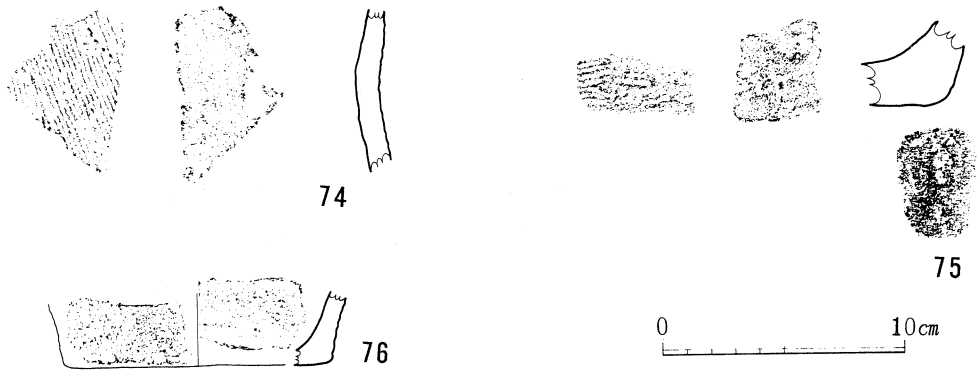
第45図　出土遺物実測図（縄文土器）



第46図　出土遺物実測図（縄文土器）



第47図　出土遺物実測図（縄文土器）



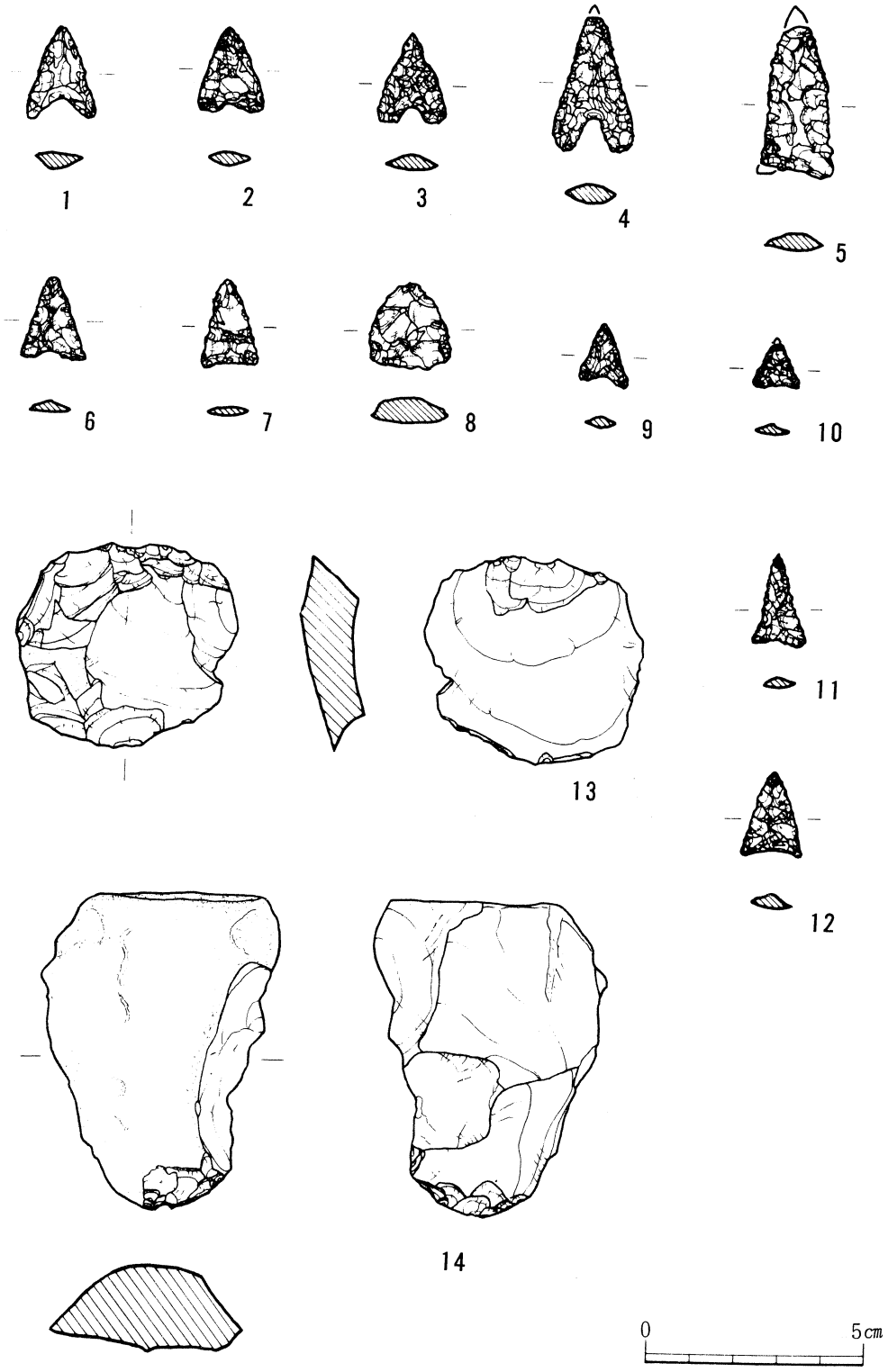
第48図　出土遺物実測図（縄文土器）

35・36ともに底面と接する胴部下端部に施文はなく、無文のままの状態である。37・38・40は口縁部と口唇部に刻みをもち、胴部にヘラ状工具による横位の条痕文が施されるものである。胴部はほとんど膨らみを持たず円筒状で器壁が厚く内面はナデで仕上げられている。38は口唇部の外面側を削り取って三角形に成形した後に刻みをいれており、その下に右斜め方向からの細かい刺突文が施されている。39～46はいずれも胴部片で貝殻腹縁刺突文やヘラ状工具により綾杉文を施文する。39・42は綾杉文と綾杉文の間に横方向の貝殻腹縁刺突文が入る。44の綾杉文は長大化している。46の綾杉文は粗雑化している。47は胴部片であるが、上部に綾杉文を持ち下部に羽状文を持つものである。どちらもヘラ状工具により施文されており文様自体はかなり粗雑化している。48・50・52～55は底部片であるが、器面の調整はナデで行われており文様を施文していない。いずれも平底で内面は丁寧にナデられており、底部は充実している。56～58は押型文土器の口縁部である。56・58は外面に細かな楕円押型文を横方向に施し、内面の口唇部には原体条痕を施し、その下に横方向の細かな楕円押型文施文されている。器型は頸部から上の部分が緩やかに外反し胴部の張りもあまり強くなく緩やかに膨らむと考えられる。58には口縁部下部に穿孔が見られる。59～63は押型文土器の胴部片である。59～61は楕円押型文、62・63は山形押型文である。59・61は細かな楕円押型文が施文されているが、60の楕円押型文は粗大化したものである。64は山形押型文土器の底部である。胴部器面の下端部まで山形押型文が施文されている。底部には網代痕が残されている。縄文時代早期の土器としては珍しく県内でも数例を数えるのみである。65は変形撚糸文土器の胴部片である。撚糸文土器の中でも出土数の少ない珍しい土器である。この遺跡での出土は１点のみである。66は胴部片で破片の中央に小さな突体を持ちその上下に貝殻刺突文と沈線を施している。小さな突体は胴部に横方向に貼

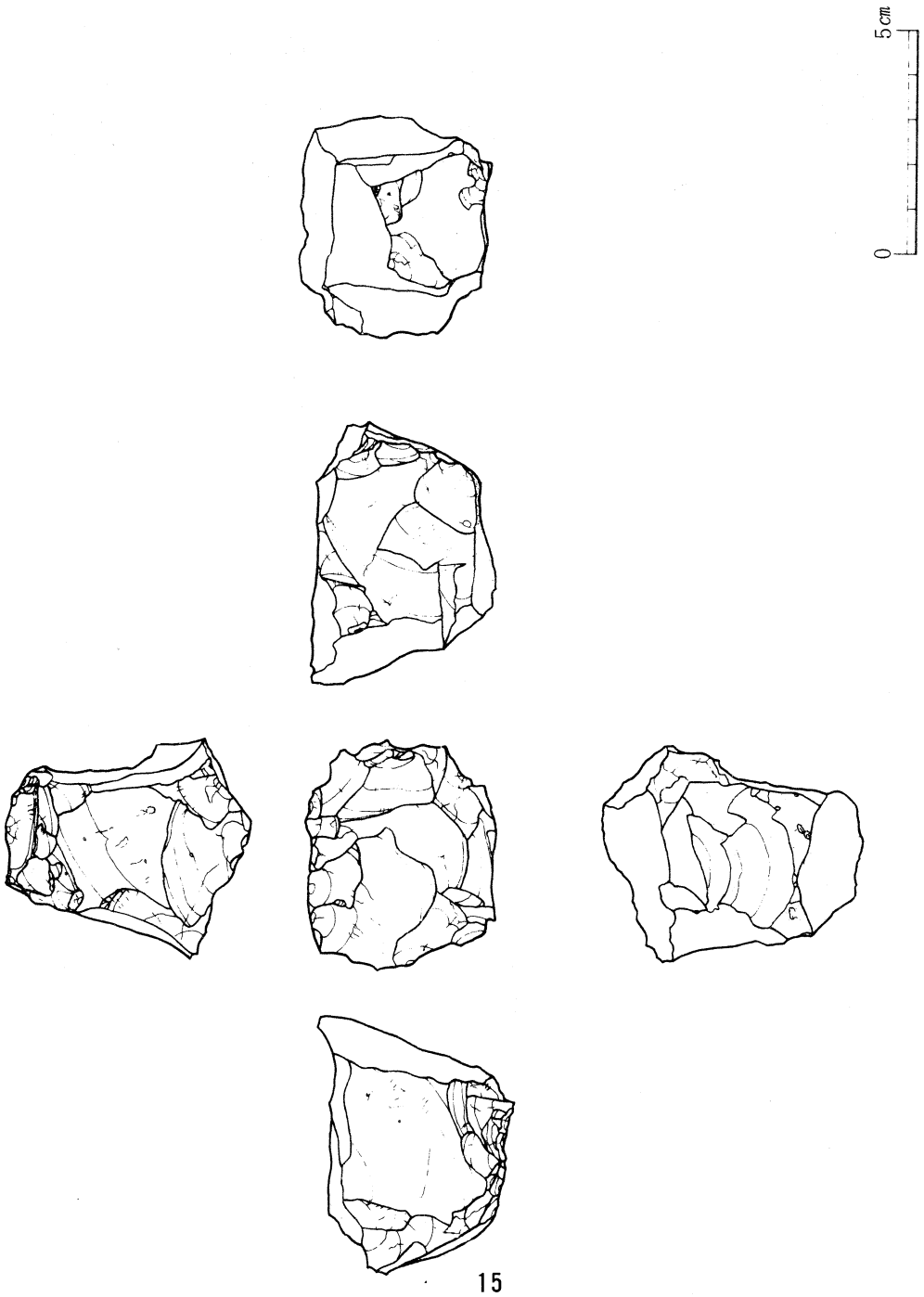
第49図　出土遺物実測図
（中世土器）

り付けられたものと縦方向に貼り付けられたものの2本がある。67は口縁部で頸部からくの字状に開くタイプのものである。口唇部に刻みを持ち、口縁部には3本の沈線文がめぐっている。頸部にも沈線文がめぐっている。器壁は薄く焼成は良好である。68も67と同じタイプの口縁部片である。口唇部に刻みを持ちその下に沈線文を施す。薄手で焼成は良好である。69は頸部から胴部にかけての破片である。口縁部がくの字状に外反するもので内面に稜線が見られる。外面には沈線で区切られた中に撚糸文が施されている。その上下は無文である。内面は丁寧ななでで仕上げられている。70～73は沈線文と撚糸文を持つ土器の胴部片である。71は沈線文で区切られた中に撚糸文を施しているが、そのほかのものは撚糸文を施した上から沈線文を施したものと考えられる。72は薄手で焼成は良好であるが、器面の風化がひどく肉眼観察では文様がはっきりとは見られない。74は器面全体に縦位に撚糸文を施すものの胴部片である。一見すると条痕文土器と見まがうような細かい撚糸文が縦に施されている。風化が激しく内面は剥落している。75・76は撚糸文を器面に施す土器の底部片である。どちらも平底を呈する。75は横方向の撚糸文、76は撚糸文を格子状に施したものである。75は厚手で風化が激しい。76は薄手で風化は激しくないが、文様部分は噛状痕により剥落している。77・78はこれまでの遺物と異なり中世の遺物と考えられる。2点とも土師器片で77は口縁部、78は底部片である。

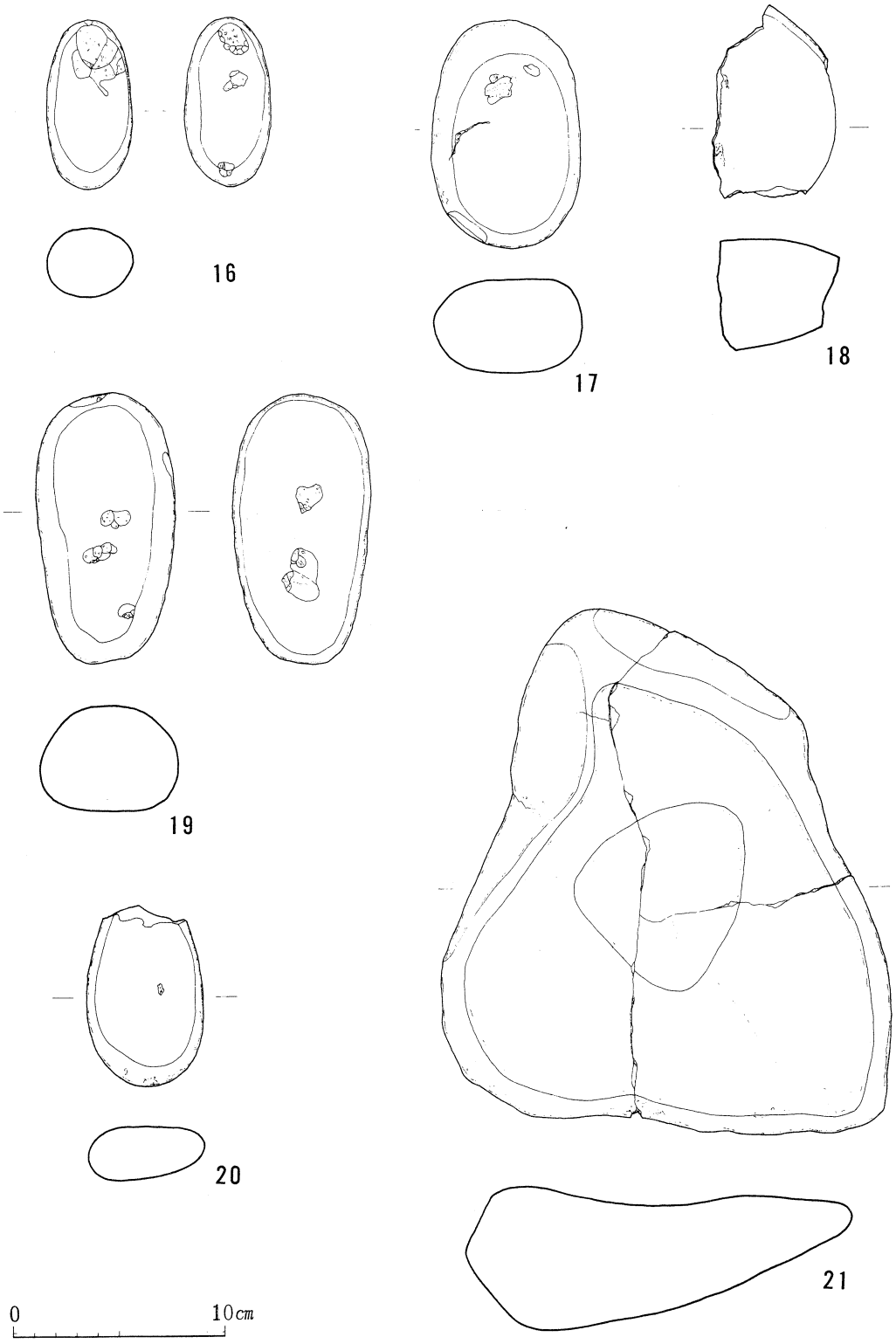
第50図1～12は石鏃である。1～5まではA地区からの出土である。1は安山岩製でやや厚みがある。脚の一部が欠損している。2はチャート製で先端部を丁寧に細かい剥離で仕上げてある。脚を作り出す抉りが小さく脚が短い。3はチャート製で先端部の下の両側縁に抉りを持つ。加工は細かい剥離でなされており、一部石の質のために剥離がヒンジしており汚くなっている部分が見られる。4は頁岩の鍬形鏃である。先端部が欠損している。石鏃全体を細かい剥離によって作っている。石鏃の中央部分にはヒンジした剥離が比較的多く見られる。5は安山岩製の石鏃である。先端部と片方の脚を欠損している。この石鏃は加工のための剥離が大きく、一部の側縁部が鋸歯状になっている。また、両面とも中央部には擦痕が見られることから中央部を擦っているものと考えられる。6は黒曜石製の石



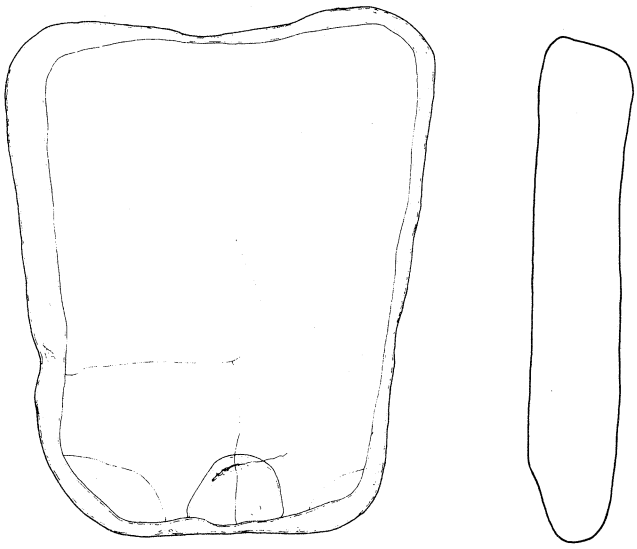
第50図　出土遺物実測図（石器）



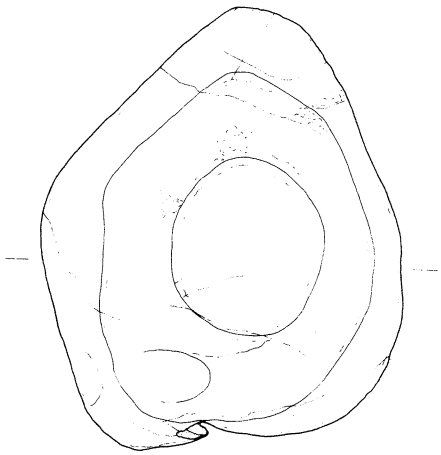
第51図　出土遺物実測図（石器）



第52図　出土遺物実測図（縄文時代石器）



22

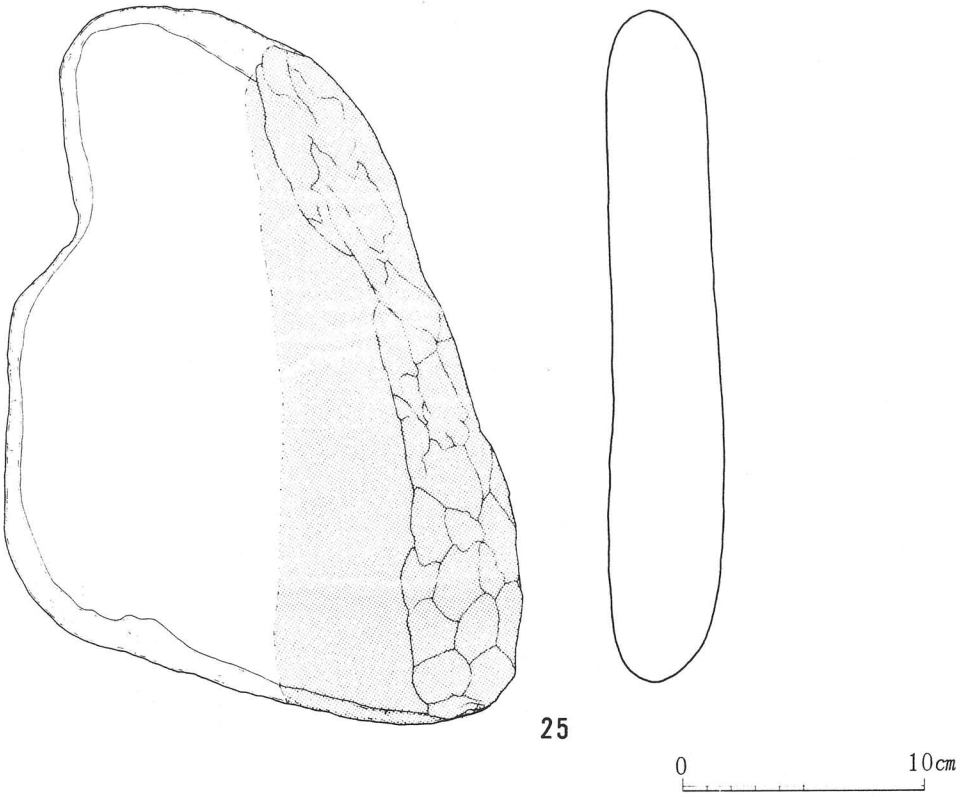


23

0　　10cm

第53図　出土遺物実測図（縄文時代石器）

第54図　C区出土遺物実測図（縄文時代石器）



第55図　D区出土遺物実測図（縄文時代石器）

鏃で比較的大きな剥離で加工されている。脚部を作り出すための抉りは小さい。7は黒曜石製で薄手の石鏃である。加工は大きな剥離でなされている。脚部を作り出すための抉りはほとんど無く、二等辺三角形状を呈する。先端部はわずかに欠損している。8は黒曜石製の木葉形の石鏃である。厚みがあり、脚部を作り出すための抉りは無くむしろ下端部中央はやや膨らみを持つ。不純物の少ない透明度の高い黒曜石を石材として使用している。9は小型の黒曜石製の石鏃である。加工は細かくやや厚みがある。脚の長さが左右で異なる。10は小型の黒曜石製の石鏃である。先端部は欠損した後再加工されている。加工は比較的大きな剥離で作られている。全体の形は脚部の抉りが顕著ではなく三角形を呈する。不純物が少なく透明度の高い黒曜石を石材に用いており、黒色部分と透明部分が縞状になっている。11は細長い黒曜石製の石鏃である。石鏃の表面の加工は左側縁からの細長い剥離が顕著で右側縁部の加工は小さい剥離で作られている。全体の長さに対して脚部が短くテトラポット状の脚部を呈する。12は黒曜石製の石鏃である。不純物の少ない透明度の高い石材を用いている。加工は比較的大きな剥離でなされている。脚部の抉りは少なくほぼ二

等辺三角形状を呈する。13は白色のケイ質岩を用いたラウンドスクレイパーである。主要剥離面側にはバルブのところに剥離を施しているだけで、刃部はほとんど背面側からだけの加撃によって作られている。背面側左側縁部近くに小さな節理面を有する。14はスクレイパーである。石材は頁岩を用いており背面側には自然面を多く残している。分厚い剥片を素材とし、少ない加撃で刃部を作り出している。15は不純物を多く含み、透明度の低い質の悪い黒曜石の石核である。全体形は直方体状を呈し、打面は大きな１回の加撃によって作出し更にその後に剥離を剥取するときに調整を加えている。作業面側の頭部調整は顕著ではない。作業面と打面の反対側の面には節理面が大きく残されている。16は砂岩製の敲石である。小型で細長く敲打痕が上下端部だけではなく側面部にも残されている。17は砂岩製の磨石である。全体が赤く焼けており、片面に付着物が見られる。18は尾鈴酸性岩類の磨石である。この石材は宮崎県の中央部に位置する尾鈴山付近でしか産出されない石でおそらく小丸川や名貫川の河原や高鍋町付近の海岸で拾われたものと考えられる。この石材は県内各地の縄文時代早期の遺跡で摺石として出土しており、摺石としては当時ブランド品的価値を持っていたと考えられる。18は大きく欠損しているが、残存部の表皮はなめらかで全体に黒曜石の粒を多く含む。これはこの石材が火成岩であることを示している。19は砂岩製の敲石である。使用痕は側面部に残されており、若干擦ったためになめらかになった痕跡も片面側に認められることから磨石との兼用もされていたと考えられる。20は砂岩製の磨石である。偏平で全体的に熱を受けたことにより赤変している。また、片側の表面にひび割れが多く見られるが、これも熱を受けたためと考えられる。21は砂岩製の石皿である。ほぼ全体に著しい赤変が見られる。熱を受けたものと考えられる。出土時には２つに割れた状態であった。表面はなめらかで擦られた痕と分かる。22は小型の石皿である。ほぼ四角形を呈し、下部が敲打により窪められている。砂岩製である。片面に薄く油染みのようなシミが見られる。また、全体的に弱い赤変が見られることから集石内に転用された可能性もある。23は集石遺構内から出土した小型の石皿である。砂岩製である。中央部が顕著に凹んでいるが使用によるものだけではなく、もともと凹んだものを石皿として使用したものと考えられる。全体的に弱い赤変が見られる。24は大型の石皿である。表面はなめらかで擦痕が見られる。表面の所々に赤変部分が見られることから、集石遺構の台石にも用いられたものと考えられる。この石皿は出土時は垂直に立った状態で見つかったことから、小規模な地盤の陥没により立った状態になったものと考えられる。砂岩製である。25は砂岩製の石皿である。右側だけ赤変し欠損している。片側表面の研磨痕は明瞭である。欠損の具合から石皿として使用された後に集石遺構の台石として使用されたと考えられる。

第4節　まとめ

前畑第2遺跡は縄文時代早期を中心とする遺跡である。検出遺構からはその時間差は明かではないが、出土した土器の型式からはかなりの時間幅のある遺跡であると考えられる。しかし、それぞれの土器型式の出土層位を明確に分層できなかったので、その前後関係は明瞭には掴めなかった。これまでの研究成果である岩本式→前平式→下剥峰式・桑ノ丸式→押型文→手向山式→平栫式→塞ノ神式という大まかな流れを否定する材料も見あたらなかった。ただし、ここで問題となるのは、貝殻条痕文を施す土器群がどの型式に伴うのかであるが、これについては明確な回答は得られなかった。

この遺跡で特徴的な遺物のひとつに押型文土器底部の網代底があげられる。これは平編みと呼ばれるもので1本超え1本潜り1本送りのものである。網代底が縄文早期の土器に見られるのは非常に珍しく宮崎県においては宮崎学園都市遺跡群の田上遺跡出土のもの、串間市留ケ宇土遺跡出土のものに続き3例目である。

この遺跡では土器量に対して多量の黒曜石が出土した。大半は小さなチップであるが、3,844点（うち314点は乳白色の姫島産黒曜石）にのぼる。姫島産黒曜石の占める割合は8％である。重量にすると6,372.85ｇ（うち473.7ｇは乳白色の姫島産黒曜石）であった。姫島産黒曜石の占める割合は7％である。また、石鏃も多量に出土しており、未製品を含めると156点にのぼる。この内黒曜石製のものは148点（うち7点は乳白色の姫島産黒曜石）である。姫島産黒曜石の占める割合は4％である。前畑第2遺跡では、スクレイパーも23点出土しており、このうち黒曜石製は14点で姫島産黒曜石は含まれていない。黒曜石の占める割合は60％と外の器種に比べ格段に低い数字となっている。このことが何を意味するのか、機能による石材選択の問題なのか、不明である。

過去に調査された遺跡で出土したチップの計測を行ったところはないが、えびの市の妙見遺跡で黒曜石製の定型石器以外のものは13,979点である。

前畑第2遺跡では、縄文時代早期の遺構として集石遺構が12基、土壙17基検出されているが、それに伴う住居跡が確認されていない。八重地区遺跡群の外の遺跡では住居跡が確認された遺跡もあるが、縄文時代早期の遺跡での住居跡の確認例は少ない。前畑第2遺跡は台地の先端部で外の住居跡が確認されたところよりも低い位置にあること、また石鏃や黒曜石のチップの出土が顕著であることからもキャンプサイトとしての性格が大きい遺跡であると考えられる。

〔参考文献〕

新東晃一　1989　「早期九州貝殻文系土器様式」　『縄文土器大観１』　小学館

新東晃一　1989　「塞ノ神・平栫式土器様式」　『縄文土器大観１』　小学館

町田洋・新井房夫　1992　「第３章　日本各地の第四紀後期テフラ」　『火山灰アトラス』　東京大学出版会

若月省吾　1982　「第３章　遺物　１ａ」　『政所馬渡』　別府大学付属博物館

賀川光夫　1982　「第６章　九州と中国・四国の早期土器」　『政所馬渡』　別府大学付属博物館

森田浩史　1989　「八重地区遺跡」　『田野町文化財調査報告書第７集』　田野町教育委員会

長友郁子・森田浩史　1991　「八重地区遺跡（前畑第２・砂田遺跡）」　『田野町文化財調査報告書第12集』　田野町教育委員会

吉本正典・戸高真知子　1994　「妙見遺跡」　『九州縦貫自動車道（人吉～えびの間）建設工事にともなう埋蔵文化財調査報告書第２集』　宮崎県教育委員会

図面番号		地区名	器種	器形	器部	調整		文様		胎土	色調		焼成	備考
図面	遺物					外面	内面	外器面	内器面		外器面	内器面		
1	1	A	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		口唇部－ミガキ 胴部－ナデ	貝殻条痕文		半透明、褐色、灰色と透明、黒色に光る砂粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	円筒土器
	2	A	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	貝殻条痕文		乳白色、灰色、黒色砂粒と同色の微細粒 透明、黒色に光る微細粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	良好	
	3	A	縄文土器	深鉢	口縁		ナデ	貝殻腹縁による押引き文		乳白色、灰色、茶色、黒色粒と同色の微細粒 透明黒く光る微細粒を含む	灰黄 (2.5Y 7/2) 浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄橙 (10YR 8/4)	良好	
	4	A	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	貝殻条痕文		淡黄色の光る砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/3)	淡黄 (2.5Y 8/3)	良好	
	5	A	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	撚糸文 沈線文		透明、黒色の光る砂粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	
	6	A	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	沈線文 列点文		褐色、黒色、無色透明、半透明の砂粒を含む	にぶい橙 (5YR 6/4)	橙 (7.5YR 6/6)	良好	平棺式壺の可能性
	7	A	縄文土器	深鉢	口縁		ナデ	楕円押型文		乳白色砂粒、透明黒色の光る砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	良好	
	8	A	縄文土器	深鉢	底部	ナデ	ナデ	貝殻条痕文		半透明、灰色、白色、褐色砂粒を多く 無色透明、黒色に光る砂粒を少し含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	良好	
1	1	D	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		口唇部－ミガキ 胴部－ナデ	貝殻条痕文		白、灰等の砂粒を多く含み、ガラス質に光る粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 褐色 (7.5YR 4/1)	良好	
	2	D	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		口唇部－丁寧な横ナデ 胴部－ナデ	やや斜方向（↘）の貝殻条痕文		白、茶、灰色、無色透明で光る、黒くて光る細砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/3)	にぶい褐 (7.5YR 5/4)	良好	口縁～胴部にわずかにスス付着 推定口径23.8cm
	3	C	縄文土器	深鉢	口縁部		口唇部－ヨコナデ 口縁部－ナデ	横方向の押引文 横方向の貝殻条痕文		透明の光沢ある粒と乳白色、淡黄色、白色、褐色の砂粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	黄橙 (10YR 8/6)	良好	
	4	C	縄文土器	深鉢	口縁部		口唇部－ヨコナデ 口縁部－ナデ	ヨコ、斜方向の↘条痕文		肌色、白、褐色等の砂粒を含む 全色に光る砂粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	
2	5	C	縄文土器	深鉢	口縁部		口唇部－ヨコナデ 口縁部－ナデ	貝殻腹縁連続刺突文 貝殻腹縁文		透明、黒色の光沢粒と灰色白、褐色の砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/3)	灰色 (2.5Y 8/2) 黄灰 (2.5Y 6/1)	良好	
	6	B	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	胴部－ナデ	口縁部－ミガキ	横方向の貝殻条痕文 貝殻腹縁文		灰白色、淡黄色、無色透明、橙の砂粒を含む	灰黄 (2.5Y 6/2)	褐灰 (10YR 4/1)	良好	内面にスス付着
	7	C	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		口縁部－ヨコヘラミガキ 胴部－タテヘラミガキ	口縁部－斜方向↘に三段刺突文 胴部－貝殻条痕文		白、淡黄色、無色透明で光る黒くて光る細砂粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	良好	全体的にスス付着
	8	D	縄文土器	深鉢	口縁部		口縁部－丁寧なヨコナデ 口縁部－丁寧なナデ	斜方向の貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文		乳白色、淡黄色、黒色の粒及び同色の微細粒、金色または透明黒色の光沢のある微細粒を含む	灰色 (5Y 8/1)	灰白 (5Y 7/2)	良好	
	9	C	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		口唇部－ヨコナデ ヨコナデ	連続貝殻復腹縁刺突文の上から斜方向の貝殻条痕文		黒色透明に光る砂粒、淡黄色の粒を含む	灰黄 (2.5Y 7/2) 黄灰 (2.5Y 4/1)	暗灰黄 (2.5Y 5/2)	良好	外面にスス付着

2	10	D	縄文土器	深鉢	口縁部		口唇部－ヨコナデ 口縁部－丁寧なナデ	斜方向の貝殻腹縁刺突文、横、斜方向の貝殻条痕文		乳白色、灰色、淡黄色、黒色の粒及び同色の微細粒、透明、黒色の光沢のある微細粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/3)	灰黄 (2.5Y 7/2)	良好	
	11	C	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		口唇部－ヨコナデ 口縁部－ヨコナデ 胴部－ナデ	口縁部－斜方向の貝殻条痕文 胴部－横方向の貝殻条痕文		肌色、白、褐色等の砂粒を多く含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黄褐 (2.5Y 5/3)	良好	外面にスス付着
	12	D	縄文土器	深鉢	口縁部		口唇部－ナデ 口縁部－ナデ	斜方向の貝殻条痕文		灰色、淡黄色、茶色、黒色の粒及び同色の微細粒、透明、黒色の光沢のある微程粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	良好	
	13	D	縄文土器	深鉢	口縁部		丁寧なヨコナデ	横方向の貝殻条痕文		無色透明の微細粒、黒色の光沢粒を含む	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	灰色 (7.5YR 8/1)	良好	口唇部－黒変
	14	D	縄文土器	深鉢	口縁部		ナデ	斜方向の貝殻刺突文、条殻条痕文		白色、淡黄色、灰色、黒色の粒及び同色の微細粒、透明、黒色の光沢のある微細粒を含む	浅黄 (2.5Y 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	良好	
3	15	D	縄文土器	深鉢	口縁部	ナデ	口唇部－ヨコナデ 口縁部－ナデ	横方向の貝殻条痕の後、横方向の連続貝殻腹縁刺突文		無色透明に光る微細粒、黒色で光沢のある粒、灰色、褐色の粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	良好	
	16	D	縄文土器	深鉢	口縁部		ナデ	斜方向の貝殻条痕文		灰色、白色、淡黄色、黒色の粒及び同色の微細粒、透明黒色の光沢のある微細粒を含む	浅黄(2.5Y 8/4) 浅黄橙(10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 灰黄褐(10YR 6/2)	良好	内面一部黒変？
	17		縄文土器	深鉢	口縁部		丁寧なヨコナデ	斜方向の貝殻条痕文 連続貝殻腹縁刺突文		無色透明に光る微細粒、淡黄、黒色の光沢ある粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	橙 (7.5YR 7/6)	良好	
	18	C	縄文土器	深鉢	口縁部		ヨコヘラミガキ	タテ方向に貝殻条痕文		白、茶色、黒色透明で光る黒くて光る細砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	良好	
	19	C	縄文土器	深鉢	口縁部		ミガキ	ナデの後、タテ方向に軽く貝殻条痕文		白、茶、灰色、無色透明で光る黒くて光る細砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/3)	良好	
	20	C	縄文土器	深鉢	口縁部		口唇部－丁寧なヘラナデ 口縁部－粗いナデ	タテ方向の貝殻条痕文		白、褐、黒の砂粒を多く含む 透明に光る粒を含む	浅黄(2.5Y 7/3) 灰オリーブ (5Y 4/2)	淡黄 (2.5Y 8/3)	良好	外面にスス付着
	21	D	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		ヨコナデ	櫛状工具による（↘）方向の上を（↙）方向の格子目状の凹線を施しその上を貝殻腹縁による横方向の連続刺突文		透明、黒色の光沢粒と乳白色、褐色、淡黄色、灰色の砂粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) (10YR 8/4)	良好	外面に部分的に少量のスス付着
	22	C	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	横方向の貝殻条痕文 横方向の貝殻腹縁刺突文		無色透明で光沢のある砂粒を多量に含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	黄橙(10YR 8/6) 浅黄橙(10YR 8/3)	良好	外面にスス付着？
	23	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	横方向の貝殻条痕文		白、褐等の砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	浅黄 (2.5Y 7/3)	良好	
	24	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	横法王の貝殻条痕文		灰色、淡黄色、白色、黒色の粒及び同色の微細粒、透明、黒色の光沢のある微細粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	灰黄褐 (10YR 6/2)	良好	
	25	B	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	横方向の貝殻条痕文		透明、黒色の光沢ある粒と白色、灰色、乳白色、淡黄色、黒色、褐色の砂粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	良好	内外面とも一部黒変
	26	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		淡黄、灰色、灰褐色の砂粒を含む 黒くて光沢のある砂粒、無色透明で光沢のある砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	良好	
	27	C	縄文土器	深鉢	胴部		丁寧なナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		淡黄、灰色、灰褐色の砂粒を含む 黒くて光沢のある砂粒、無色透明で光沢のある砂粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3) 褐灰(10YR 5/1)	良好	
	28	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		白、褐等の砂粒を含む	灰白 (10YR 8/2)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	外面に薄くスス付着

図番 図面	図番 遺物	地区名	器種	器形	器部	調整 外面	調整 内面	文様 外器面	文様 内器面	胎土	色調 外器面	色調 内器面	焼成	備考
4	29	C	縄文土器	深鉢	胴部		丁寧なナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		無色透明の光沢のある砂粒を含む	淡黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	内面に部分的指挿入
	30	D	縄文土器	深鉢	胴部		丁寧なナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文の上に斜（↗）方向の連続貝殻腹縁刺突文		白、褐、黒等の砂粒を多く含む	浅黄 (2.5Y 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	良好	
	31	D	縄文土器	深鉢	胴部	丁寧なナデ	丁寧なナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		淡黄色、透明で光沢のある砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/3)	浅黄 (2.5Y 7/3) 黄灰 (2.5Y 4/1)	良好	内面黒斑
	32	C	縄文土器	深鉢	胴部	一部丁寧なナデ	ナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		淡黄、灰白、白色の砂粒を含む 無色透明で光沢のある細砂粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	良好	外面に部分的指紋
	33	C	縄文土器	深鉢	胴部		ヨコナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		浅黄、無色透明の光沢のある砂粒を多量に含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	良好	
	34	C	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	ヘラ状工具による斜（↘）方向の条痕の上を斜（↗）方向の沈線を施しその上を部分的		灰白色、淡黄色、黒色の粒 透明な光沢のある粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 褐灰 (10YR 6/1)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 褐灰 (10YR 6/1)	良好	底径約5.2cm
	35	C	縄文土器	深鉢	底部	丁寧なナデ	ナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		黒くて光沢のある砂粒、無色透明、赤褐、淡黄色、褐色の粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/3)	浅黄 (2.5Y 7/3)	良好	推定底径約6cm 残存率約1/2～1/3
	36	C	縄文土器	深鉢	胴～底部	底部－ナデ	ナデ	斜（↘）方向の貝殻条痕文		灰白、橙、褐色、無色透明で光沢のある砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4) 黄灰 (2.5Y 4/1)	灰黄 (2.5Y 6/2) 黄灰 (2.5Y 4/1)	良好	口縁部残存率約1/5 推定口径 内径14.9cm 外径15.2cm
5	37	D	縄文土器	深鉢	口縁～胴部		口縁部－ヨコナデ 胴部－タテ方向のナデ	口縁部－ヘラ状工具による二段連続押正文 胴部－横方向の貝殻条痕文		白、白灰、うす茶、こげ茶、無色透明で光沢のある黒くて光沢のある細砂粒を含む	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (5YR 6/6)	良好	
	38	C	縄文土器	深鉢	口縁部		ヨコナデ	ヘラ状工具による連続刻み目貝殻腹縁連続刺突文 横方向の貝殻条痕文		無色透明で区宅のある砂粒 黒色で光沢のある粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/3)	黒褐 (2.5Y 3/2)	良好	
	39	D	縄文土器	深鉢	口縁部		ナデ	刺突文 稜杉状沈線文		白、灰、褐色等の砂粒を多く含む	にぶい赤褐 (5YR 4/3)	明赤褐 (5YR 5/6) にぶい赤褐 (5YR 4/3)	良好	前平式
	40	D	縄文土器	深鉢	口縁部		ナデ	タテ方向の2条による連続刺突文 ヨコ方向の貝殻条痕文 口唇部－ゆるい刻み		黒色で光沢のある微細粒、無色透明で光沢のある微細粒、灰白色の粒を含む	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	
	41	B	縄文土器	深鉢	底部付近	ナデ	ナデ	四工具による刺突か貝殻腹縁直線刺突文		淡黄色の砂粒を多く含み、無色透明と褐灰、灰白色の砂粒を含む	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	刺突部にスス付着痕あり
	42	D	縄文土器	深鉢	胴部		ヘラミガキ	刺突文 稜杉状沈線文		白、肌、灰色等の砂粒を多く含み、金色に光る粒を含む	明褐 (7.5YR 5/6)	にぶい褐 (7.5Y 5/4)	良好	
	43	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	羽状文		白、灰、淡黄、茶色の粒及び同色の微細粒、透明黒色の光沢のある微細粒を含む	褐 (7.5YR 9/3) 黒褐 (7.5YR 3/1)	灰褐 (7.5Y 5/2)	良好	
	44	C	縄文土器	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	ヘラ状工具による沈線の羽状文		無色透明の光沢のある微細粒 乳白色の砂粒を含む	にぶい橙 (5YR 6/4)	灰褐 (5YR 5/2)	良好	
	45	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	ヨコ方向の貝殻腹縁連続刺突文		透明、金色の光沢のある砂粒を淡黄色、橙色、灰白、灰色の砂粒を含む 褐色の砂粒を少量含む	にぶい橙 (7.5YR 6/4)	にぶい黄褐 (10YR 5/4)	良好	内面に五部厚く炭化物付着

5	46	D	縄文土器	深鉢	胴部		ヨコナデ	ヨコ方向の稜杉文様		白色の砂粒を多く含む	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	良好	
6	47	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	ヘラ状工具によるタテとヨコ方向の陵杉文様		白色の砂粒を多く含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	良好	
	48	D	縄文土器	深鉢	底部	風化気味であるが一部ミガキ	丁寧なナデ			黒、白の砂粒を多く含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	灰黄褐 (10YR 6/2)	良好	
	49	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	斜(↙)方向の貝殻条痕文の上を斜(↘)方向の連続刺突文		透明、金色の光沢のある砂粒と、乳白、淡黄、白色の砂粒を多量に含む	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	浅黄 (2.5Y 7/3)	良好	
	50	B	縄文土器	深鉢	底部	ヨコナデ	ナデ			白色透明の光沢ある微細粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	浅黄 (2.5Y 7/3)	良好	推定底部径約6.2cm
	51	D	縄文土器	深鉢	胴部		ヨコナデ	クシ状工具による複合鋸歯文		白色の砂粒を多く含む	浅黄 (2.5Y 8/4)	浅黄 (2.5Y 7/3)	良好	外面に穿孔あり
	52	D	縄文土器	深鉢	底部	丁寧なナデ	丁寧なナデ			透明の光沢ある粒と淡黄色の粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	浅黄 (2.5Y 7/3)	良好	推定直径約7cm 残存率約1/5
	53	C	縄文土器	深鉢	底部	ナデ	ナデ			淡黄、茶、灰色の砂粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3) 灰黄褐 (10YR 6/2)	良好	推定底径約6.9cm
	54	D	縄文土器	深鉢	底部	ミガキ	丁寧なナデ			白、半透明、褐、黒、無色透明で光沢のある砂粒を多く含む	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3 6/4)	良好	底径 長径7.8cm 短径7.2cm
	55	C	縄文土器	深鉢	底部	丁寧なナデ	ナデ			灰、淡黄、黒の粒及び同色の微細粒 透明無色の光沢ある粒及び同色の微細粒を含む	黄 (2.5Y 8/6) 淡黄 (2.5Y 8/6)	淡黄 (2.5Y 8/4)	良好	推定底径約10.55cm 残存率約1/6強
7	56	D	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	ナデ	胴部ーナデ	楕円押型文	楕円押型文 口唇部ータテ方向の短沈線	白、こげ茶、灰、無色透明で光沢のある黒くて光沢のある細砂粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	良好	
	57	D	縄文土器	深鉢	口縁部	ナデ	口唇部ーナデ ヨコナデ	楕円押型文		淡黄、白、灰、茶、無色透明で光沢のある黒くて光沢のある細砂粒を含む	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	淡黄 (2.5Y 8/4)	良好	
	58	C	縄文土器	深鉢	口縁部	ヨコナデ ナデ	ナデ ヨコナデ 斜(↘)方向のナデ	楕円押型文	楕円押型文 口唇部ータテ方向の短沈線	白、灰、茶、無色透明で光沢のある黒くて光沢のある細砂粒を含む 白色の砂粒が1か所みられる	浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	良好	両面穿孔あり
	59	D	縄文土器	深鉢	胴部		斜(↘)方向のナデ	楕円押型文		黒くて光沢のある砂粒、黒色透明の光沢のある粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	良好	
	60	D	縄文土器	深鉢	胴部		丁寧なナデ	楕円押型文		乳白、灰、淡黄、茶、黒色の粒及び同色の微細粒、透明黒色の光沢ある細粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 橙 (7.5YR 7/6)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	良好	
	61	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	楕円押型文		灰、淡黄、黒色の粒及び同色の微細粒、透明黒色の光沢ある微細粒を含む	橙 (7.5YR 7/6) 黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	良好	
	62	D	縄文土器	深鉢	胴部		ヘラミガキ	押型文		淡黄、白色の砂粒を多く含む	浅黄 (2.5Y 8/4)	浅黄 (2.5y 7/3)	良好	
	63	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	山型押型文		淡黄、灰、茶色の粒、透明黒色の柱状光沢粒及び同色の微細粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/3)	良好	
8	64	D	縄文土器	深鉢	底部		ナデ	横走山型押型文		灰、白、褐灰、黒、無色透明の砂粒を含む	橙 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) にぶい橙 (7.5YR 7/3)	良好	網代底 底径約11cm

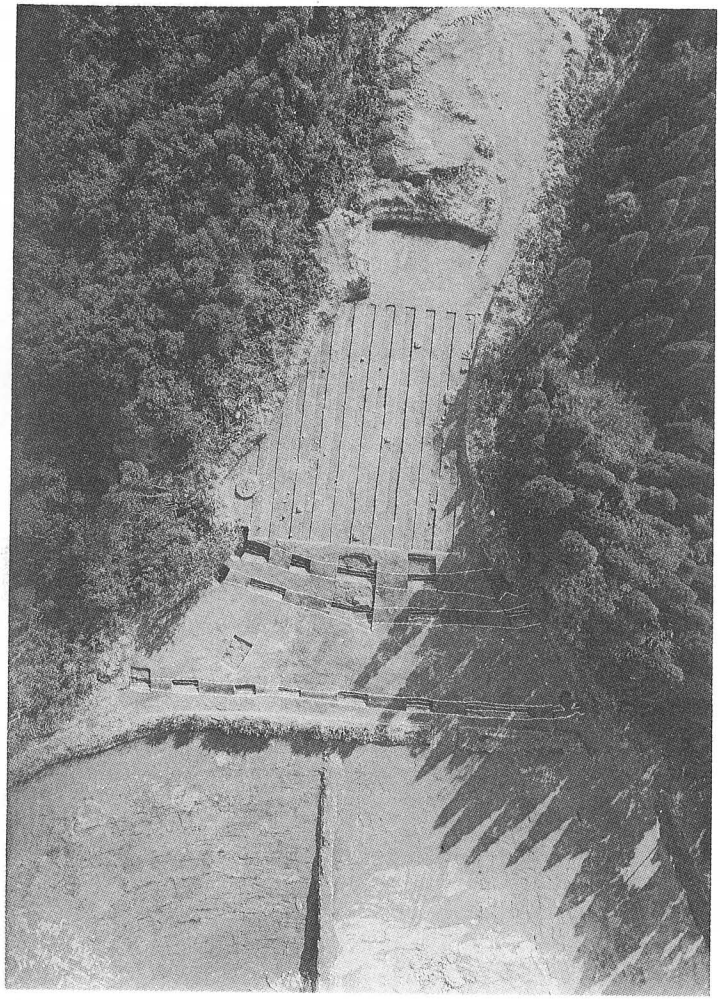
図面番号		地区名	器種	器形	器部	調整		文様		胎土	色調		焼成	備考
図面	遺物					外面	内面	外器面	内器面		外器面	内器面		
8	65	C	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	変形撚紋		白、灰、褐灰、黒、無色透明の砂粒を含む	明黄褐 (10YR 6/6)	明黄褐 (10YR 6/6)	良好	外面全体的にスス付着
	66	C	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	タテ方向の刺突文 タテ方向の沈線文突布		白、灰、褐色等の砂粒、細かにガラス質に光る粒を多く含み、茶色の砂粒を含む	にぶい橙 (5YR 6/4)	橙 (5YR 6/6)	良好	
	67	C	縄文土器	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ ヨコナデ	ヨコ方向の沈線文 斜(↘)方向の押底刻み		灰、淡黄、茶、黒色の粒及び同色の微細粒、透明黒色の光沢ある微細粒を含む	黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰 (7.5Y 6/1)	良好	塞ノ神 外面わずかにスス付着
	68	C	縄文土器	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	ヨコ方向の沈線文 斜(↘)方向の押底刻み		淡黄、茶、灰色、無色透明で流黒くて光沢のある細砂粒を含む	橙 (7.5YR 7/6)	灰黄褐 (10YR 5/2)	良好	塞ノ神?
	69	D	縄文土器	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	斜(↗)方向の沈線文 斜(↘)方向の撚紋		茶、黒色等の砂粒を含む	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	良好	塞ノ神?
	70	B	縄文土器	深鉢	胴部		ヨコナデ	撚紋の上に浅い沈線文		透明黒色の光沢粒と灰、黒、褐、灰色、淡黄色の砂粒を含む 乳白色の砂粒を少量含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	浅黄 (2.5Y 7/3)	良好	
	71	C	縄文土器	深鉢	胴部	ナデ	ヨコナデ	斜(↘)方向の撚紋浅い沈線文 ヘラ状工具による連続刺突文が刻み		淡黄、茶、灰色の砂粒を含む	浅黄 (10YR 8/4)	浅黄 (10YR 8/4)	良好	
	72	D	縄文土器	深鉢	胴部		ヨコナデ 部分的に指挿入の跡?	タテ方向の撚紋の上をタテとヨコ方向の沈線文		透明、黒色の光沢ある粒と淡黄、褐色の砂粒を含む	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	良好	外面全体的にスス付着
	73	C	縄文土器	深鉢	胴部	ナデ	斜(↘)方向のナデ	タテ方向の撚紋文の上をヨコ方向の沈線文		灰、茶色の砂粒を含む	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	良好	
9	74	D	縄文土器	深鉢	胴部		ナデ	斜(↘)方向の貝殻条痕文		灰、淡黄、黒色の粒及び同色の微細粒、透明黒色の光沢ある微細粒を含む	浅黄 (3.5Y 7/3)	灰黄 (2.5Y 7/2)	良好	外面一部スス付着?
	75	D	縄文土器	深鉢	底部	ナデ	ナデ	ヨコ方向の貝殻条痕文		無色透明に光る砂粒を多量に含む	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	黒褐 (7.5YR 3/1)	良好	内面黒蹟あり 底径不明 残存率約1/8
	76	B	縄文土器	深鉢	底部	ナデ	ナデ	一部格子押型文		灰色、淡黄色、無色透明の微粒子、柱状の砂粒を含む	橙 (5YR 7/6)	にぶい橙 (7.5YR 7/3)	良好	推定底径約12cm
10	77	D	土師器	高坏	坏部	口唇部ーナデ 口縁部ーミガキ	ミガキ			黒、茶等の細砂粒を含む	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	良好	
	78	D	土師器	皿	底部	ナデ 底部ー板目	ナデ			砂粒はほとんど含まない	にぶい橙 (7.5YR 6/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	良好	

前畑第2遺跡　石器計測表

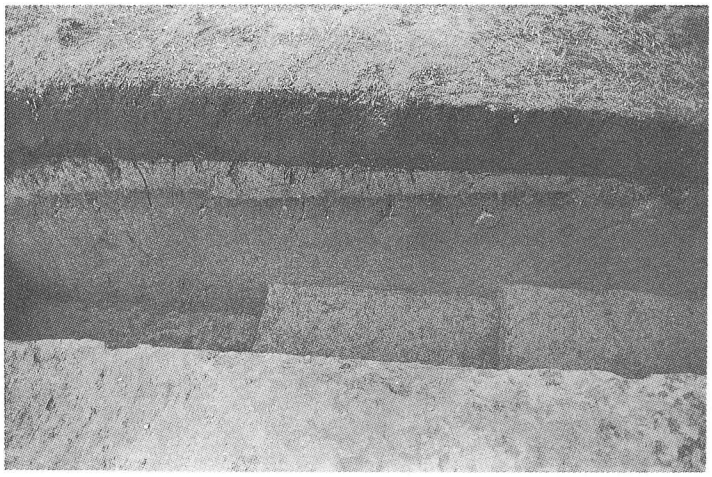
番　号	器　　種	石　　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重　さ(g)
1	打製石鏃	安山岩	2.1	1.55	0.42	0.7
2	〃	チャート	1.97	1.5	0.32	0.75
3	〃	〃	2.05	1.55	0.31	0.7
4	〃	頁岩	3.05＋α	1.85	0.489	2.0
5	〃	石材不明	3.47＋α	1.65＋α	0.361	2.1
6	〃	黒曜石	1.9	1.45	0.295	0.5
7	〃	〃	2.0	1.3	0.3	0.5
8	〃	〃	1.95	1.85	0.57	1.87
9	〃	〃	1.45	1.1	0.265	0.2
10	〃	〃	1.0＋α	1.05	0.217	0.15
11	〃	〃	2.15	1.25	0.255	0.37
12	〃	〃	1.95	1.4	0.353	0.6
13	スクレイパー	ケイ質岩	4.7	5.1	1.65	27.7
14	〃	頁岩	7.3	5.45	2.2	86.7
15	石核	黒曜岩	4.25	5.1	5.75	118
16	敲石	砂岩	8.0	4.05	3.4	156.5
17	磨石	〃	10.85	7.1	5.1	486
18	〃	尾鈴酸性岩類	9.1＋α	5.9＋α	5.25	378
19	敲石	砂岩	12.85	6.6	5.05	554
20	磨石	〃	8.55＋α	5.6	2.62	168
21	石皿	〃	25.1	21.2	8.05	4500
22	〃	〃	22.3	17.8	4.5	2735
23	〃	〃	18.6	15.1	5.42	1610
24	〃	〃	53.1	50.7	11.8	3200
25	〃	〃	29.5	21.35	5.3	4500

前畑第２遺跡全景

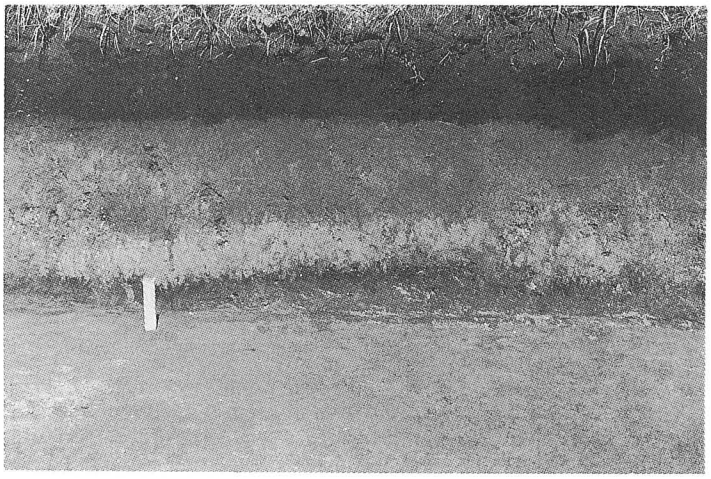
B区　全景



D区　全景

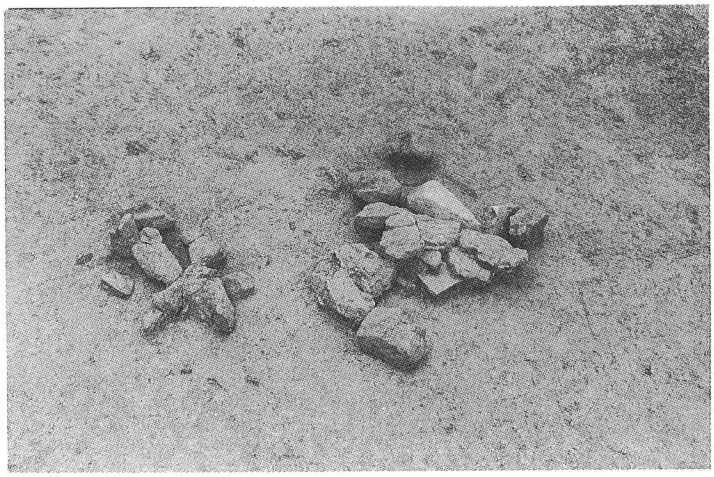


A区　北壁

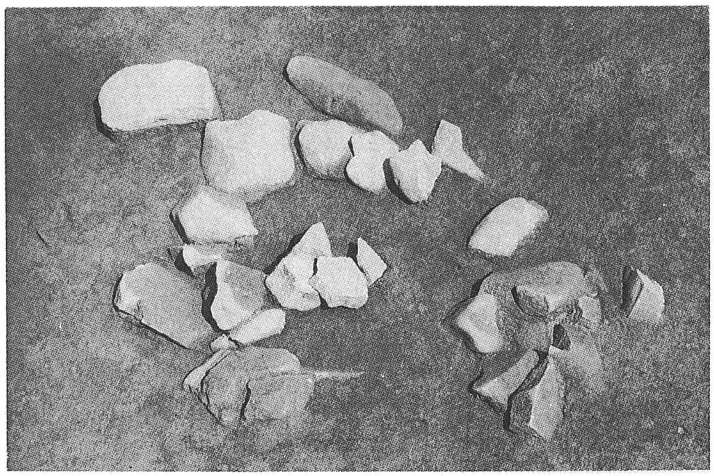


B区　北壁

ＳＩ－０１

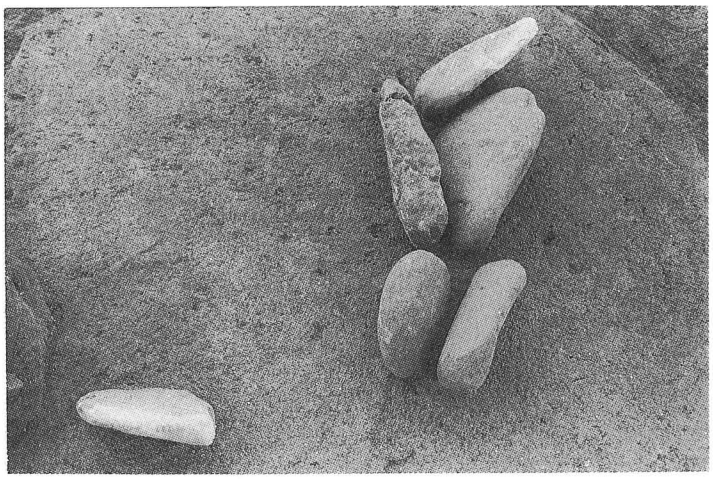


S I－0 2



S I－0 3

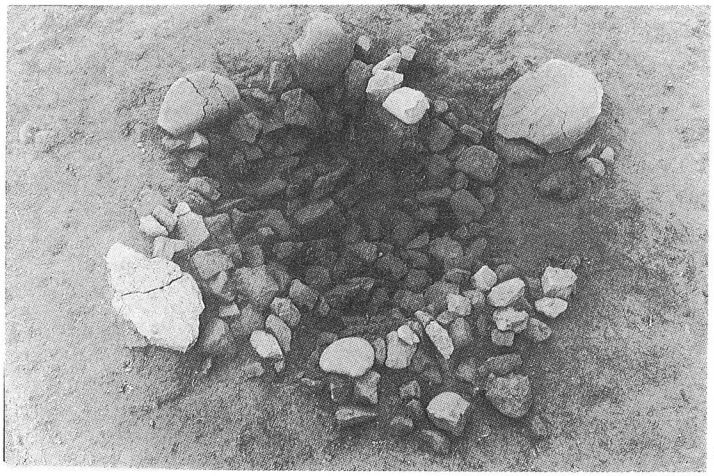
S I－0 4



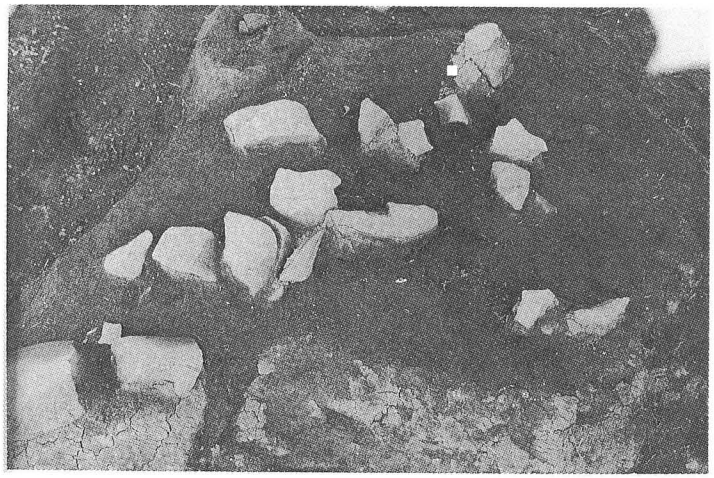
SI－05

SI－06

SI－07

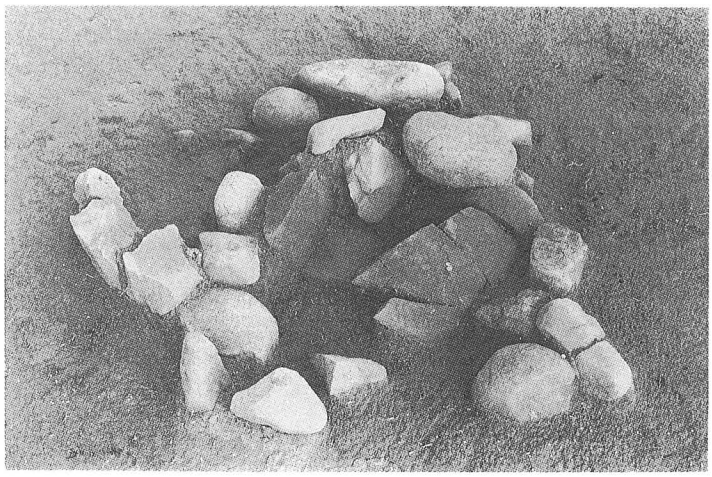


SI－08

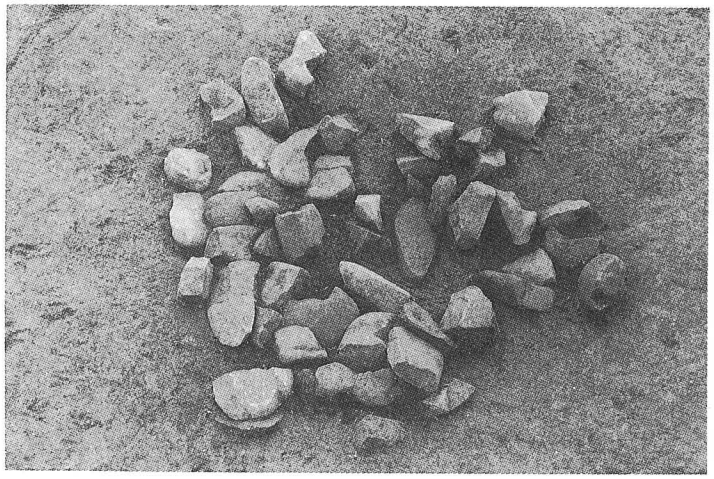


SI－09

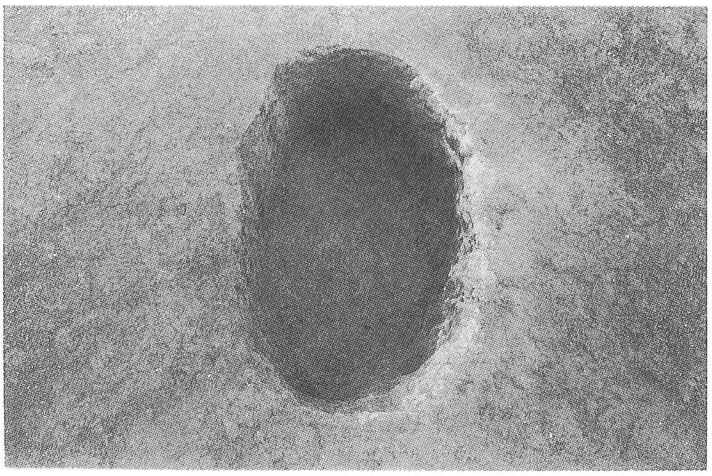
SI－10



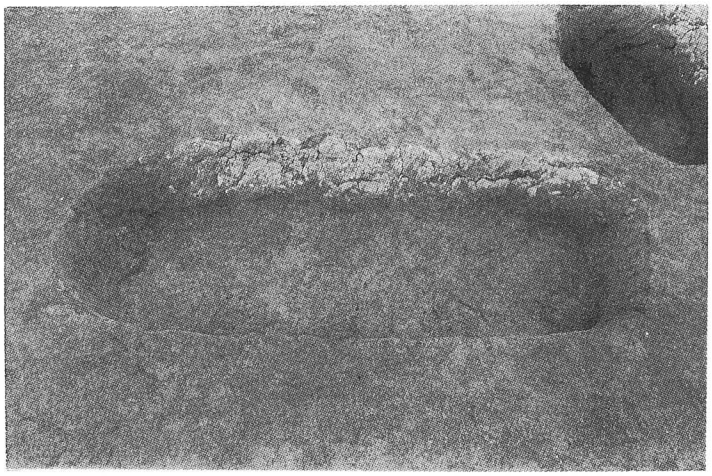
SI－11



SI－12



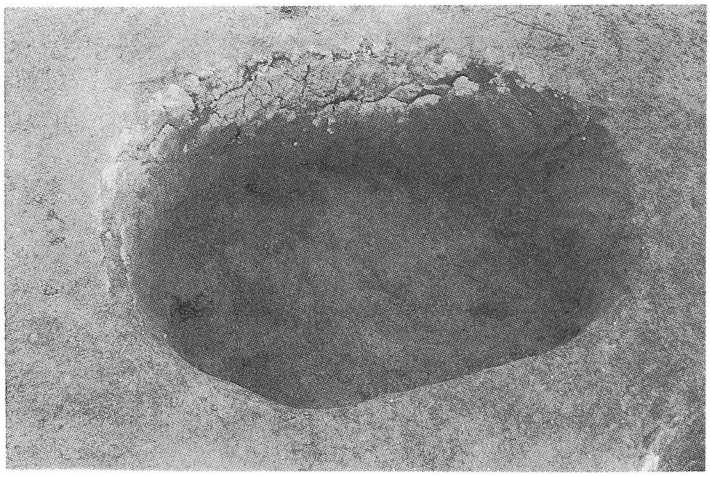
SC－16



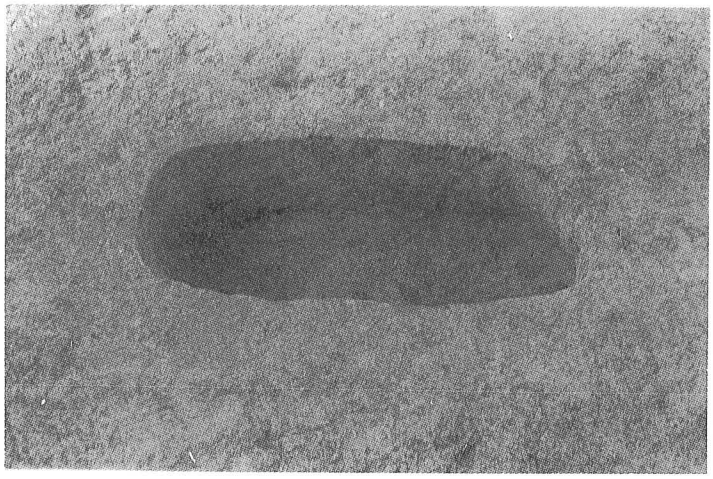
SC－14

SC－18

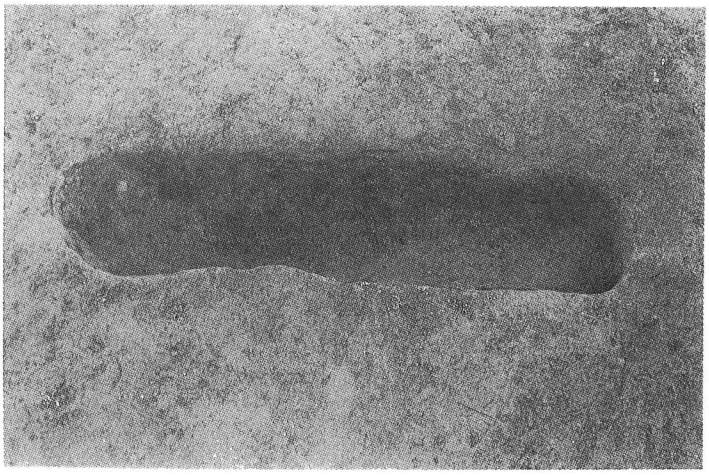
SC－17



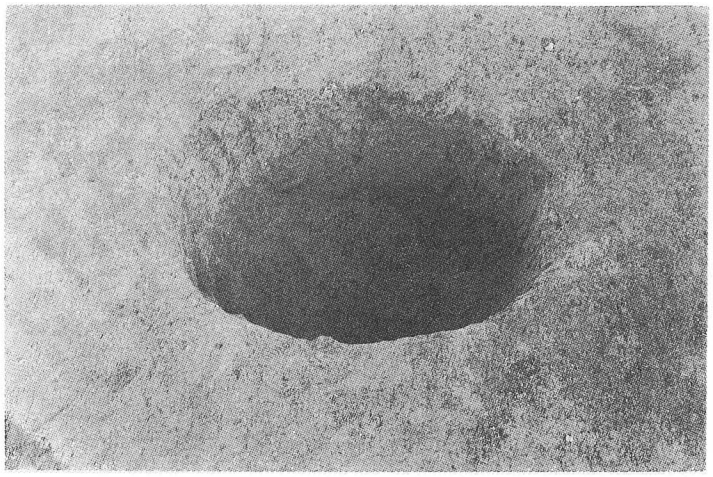
SC－19



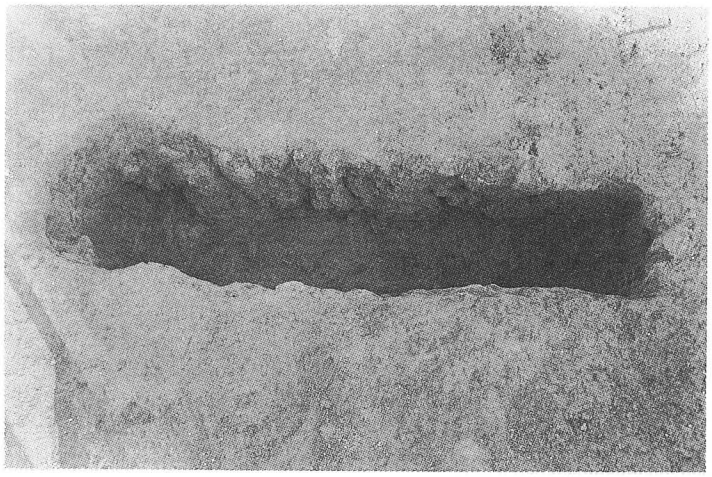
SC－15



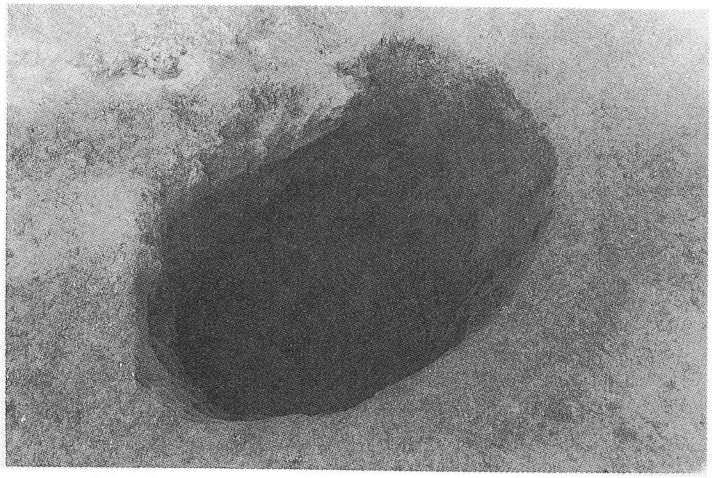
SC－21



SC－22

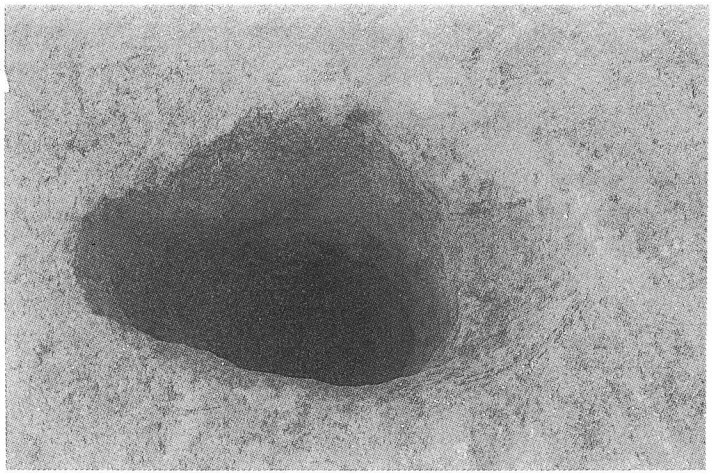


SC－23

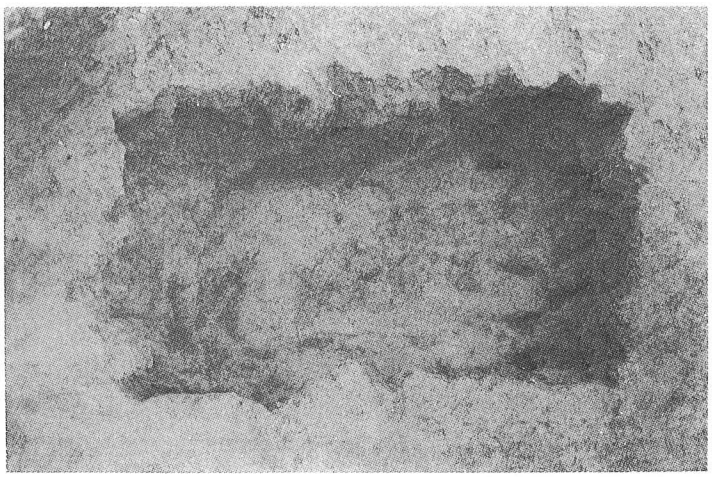


SC－20

SC－26



SC－24

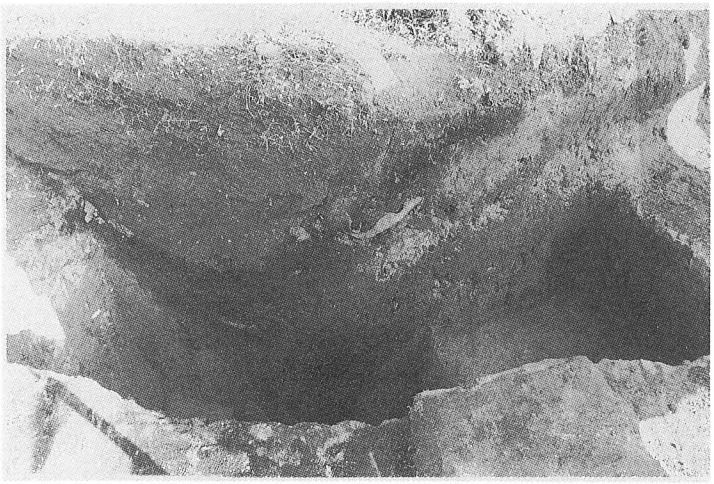


SC－27

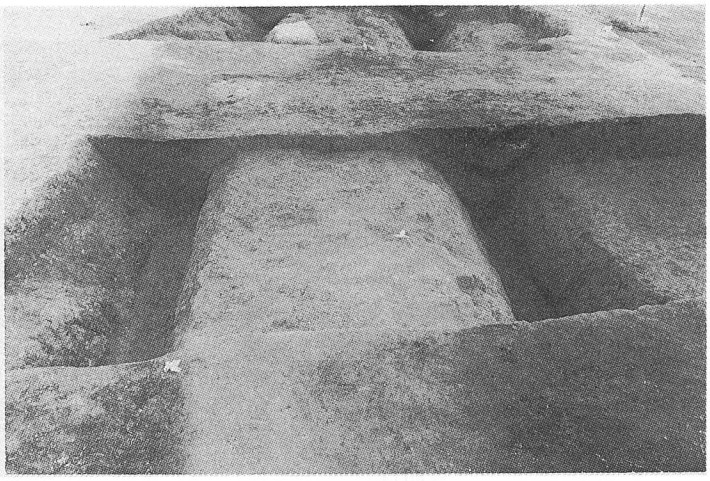
SC－28

SC－29

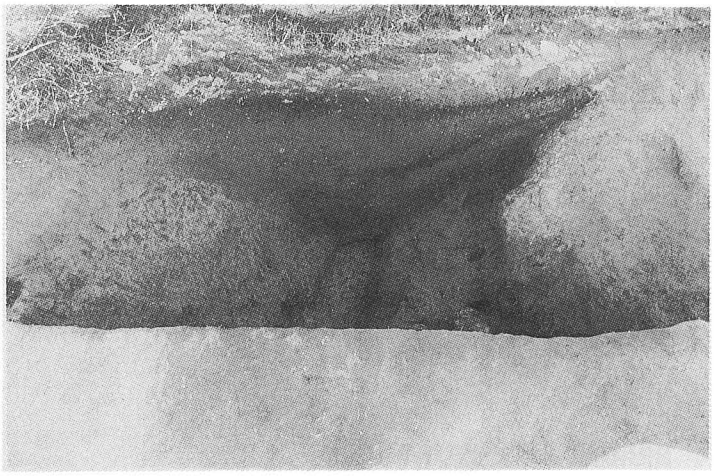
同　上



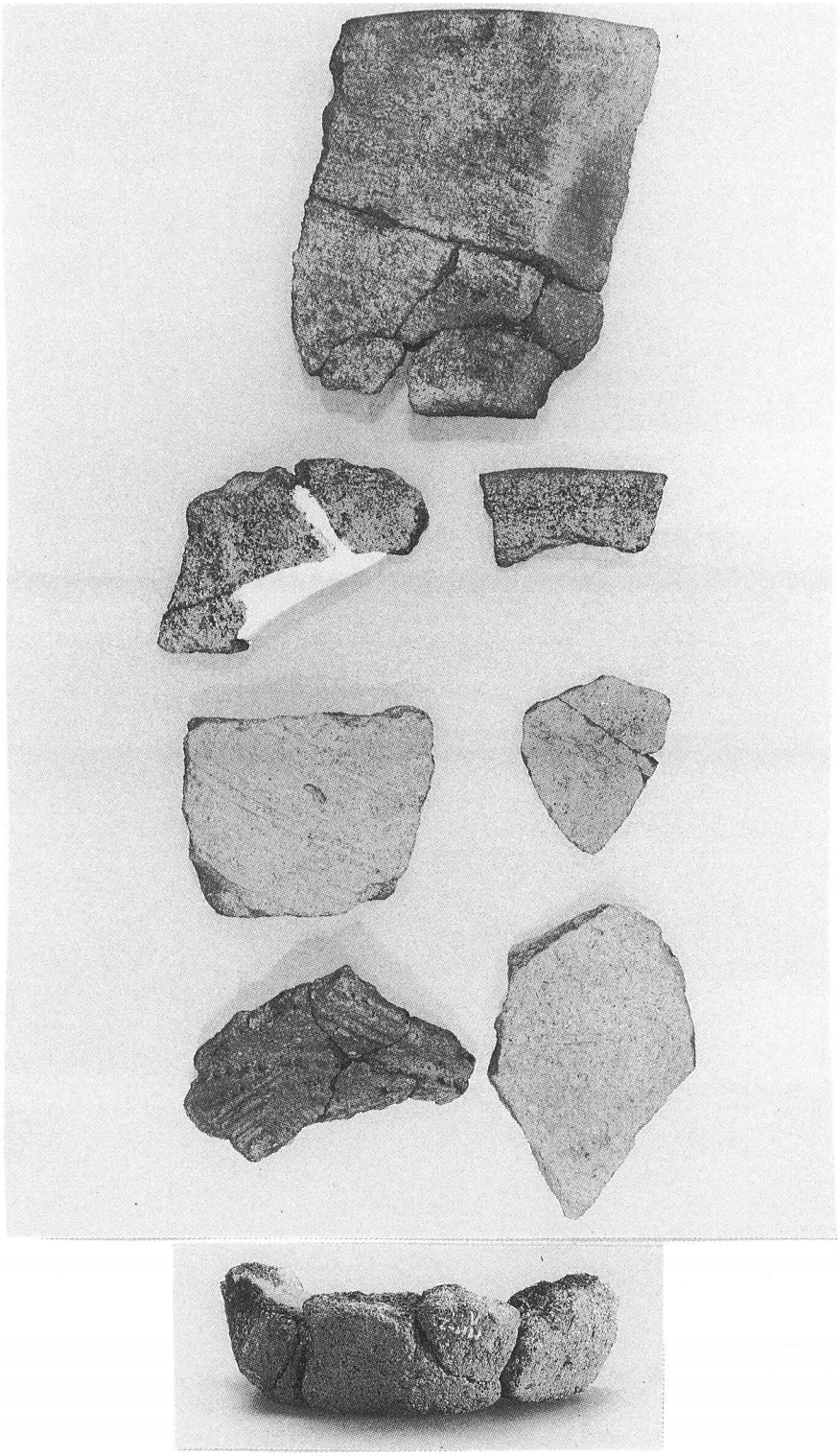
ＳＤ－２１



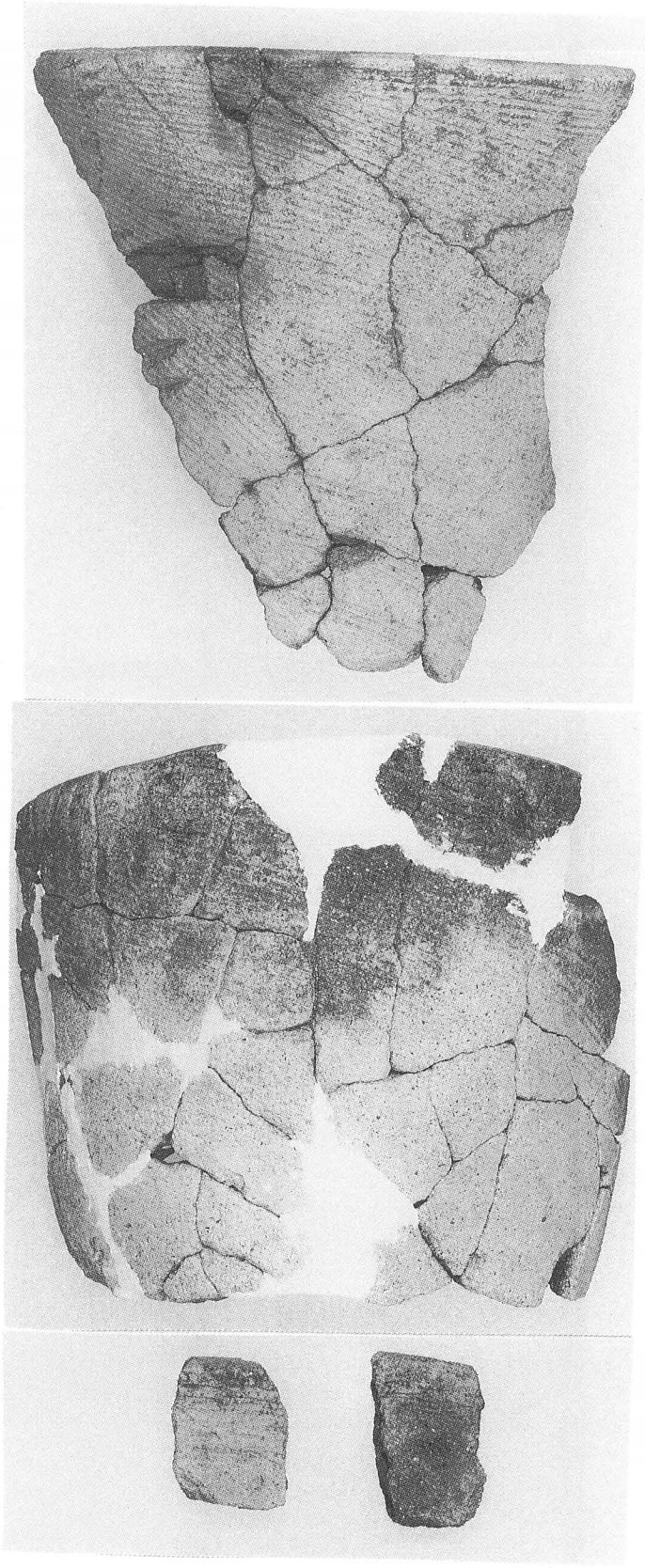
ＳＤ－３０・３１



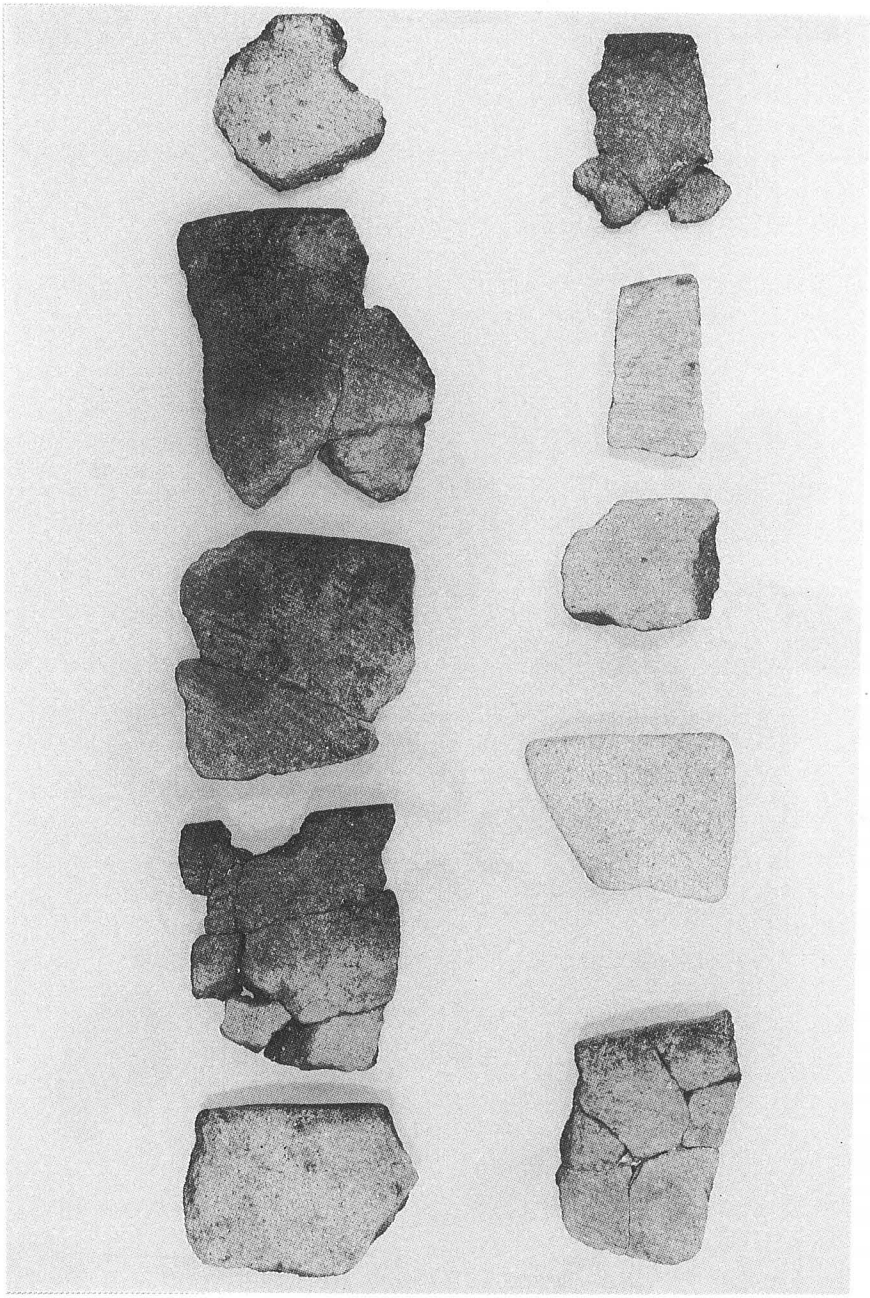
ＳＤ－３１　南端



出土遺物（縄文土器）

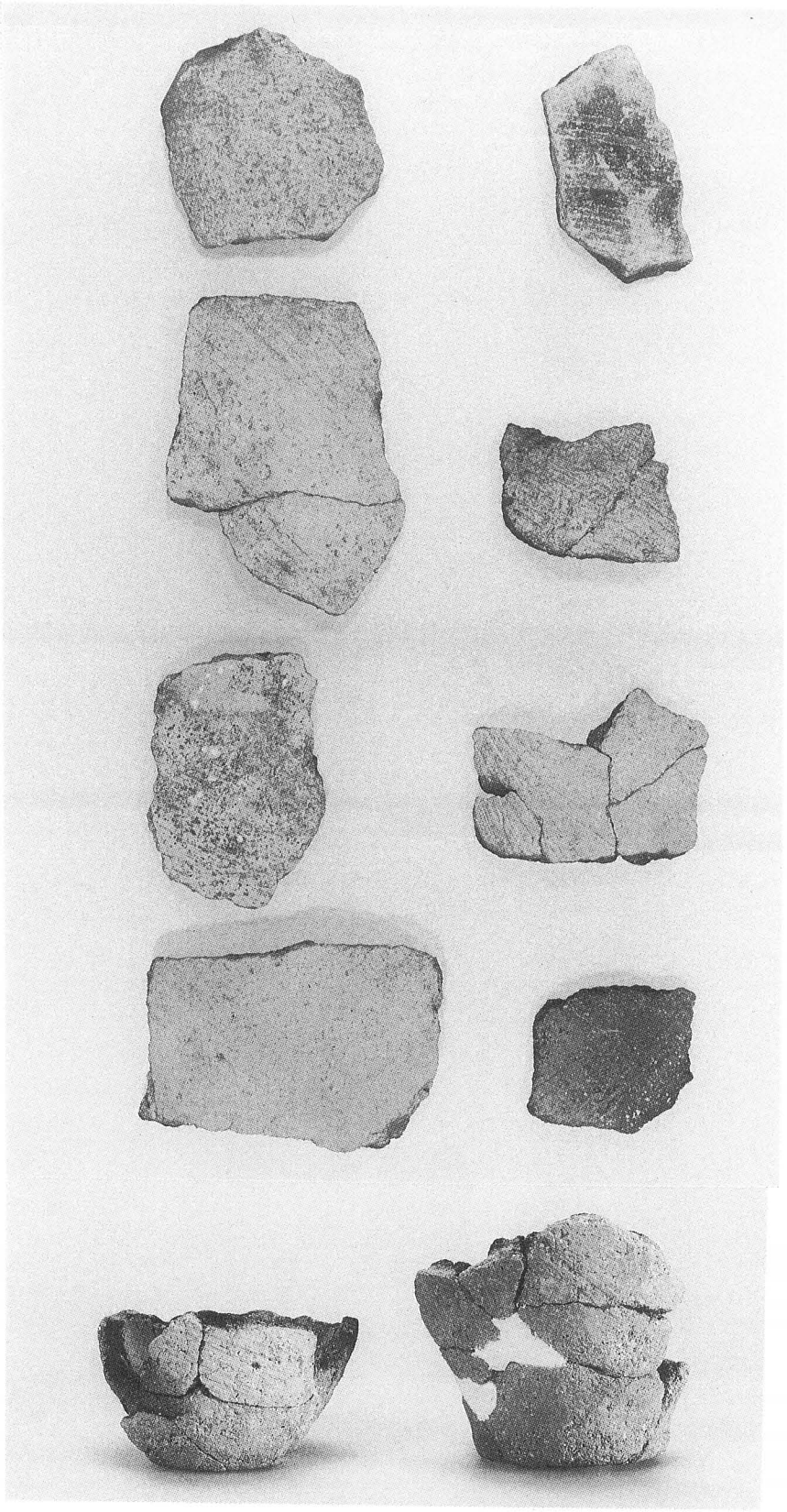


出土遺物（縄文土器）

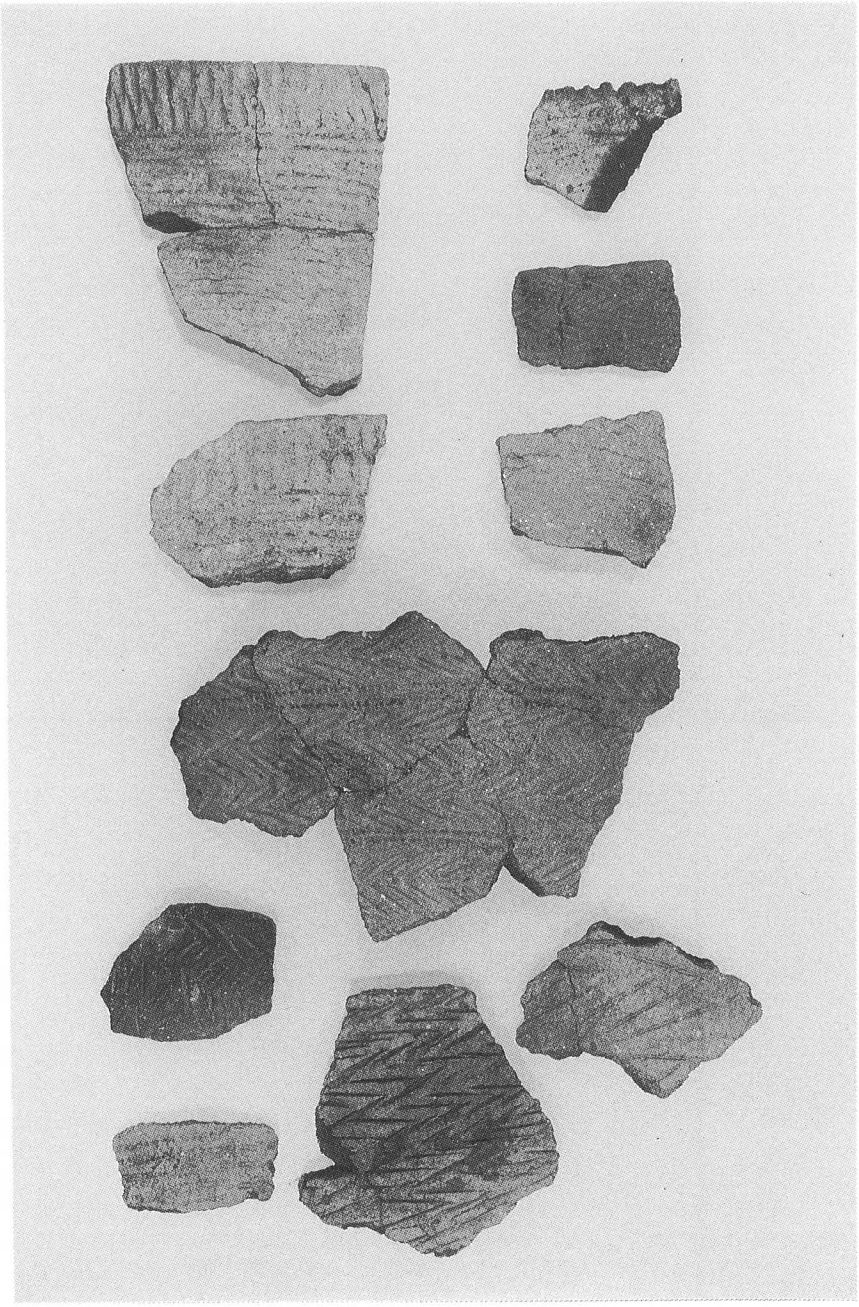


出土遺物（縄文土器）

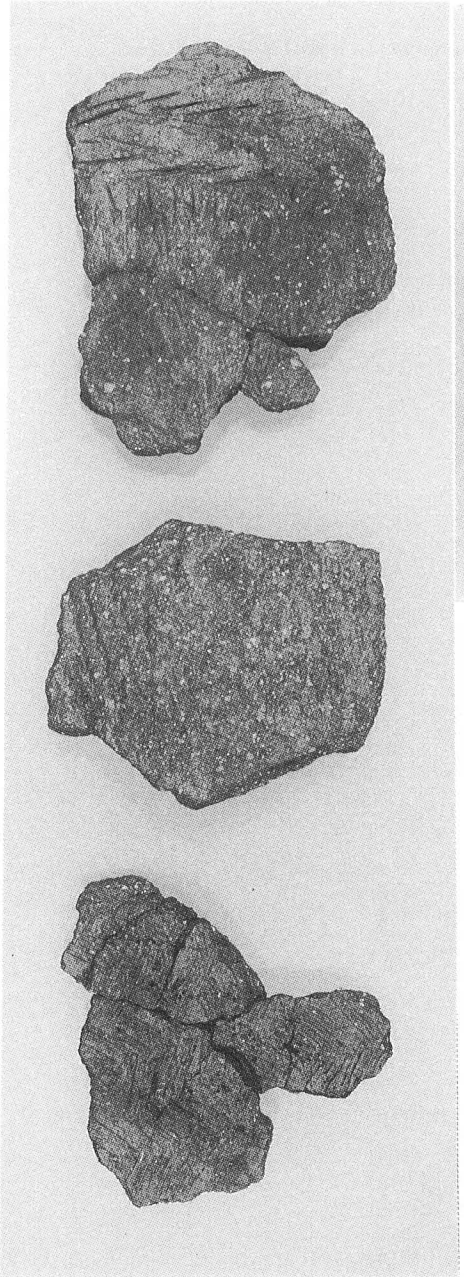
出土遺物（縄文土器）

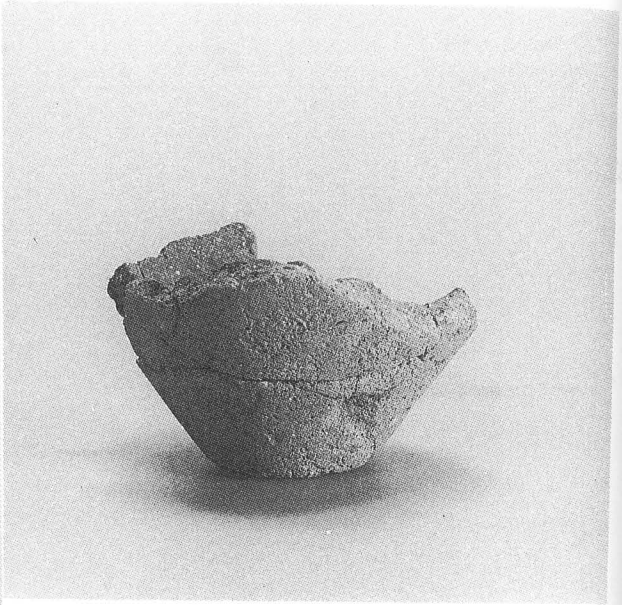


出土遺物（縄文土器）



出土遺物（縄文土器）





出土遺物（縄文土器）